

ル書類
前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ掲グル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務ニ因ル傷疾疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ掲グル書類並死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證明スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條 恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 前扶助料權者カ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證明スル書類
二 前扶助料權者ノ扶助料請求書
三 請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ掲グル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十一條 恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具發疾ヲ證明スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證明スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條 恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依リ加給ヲ受ケル扶助料權者ハ遺族ノ員數ノ増減ニ因リ加給スヘキ額ニ増減ヲ生シタル場合ニ於テハ扶助料改定請求書ニ改定ヲ受ケヘキ扶助料證書及戸籍謄本(遺族ノ員數ノ増減ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

〔文會例〕

恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三第一項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依リ加給ノ改定ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ扶助料改定請求書ニ前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セムトスル扶助料ノ證書及戸籍謄本(遺族ノ員數ノ増減ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第十二條 恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一 扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證明スル公ノ證明書
二 請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條 恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條 恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歴書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十五條 恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具發疾ヲ證明スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證明スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者

〔文會例〕

ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)
二 公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歴書及請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十六條 恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員ノ在職中ノ履歴書
二 請求者ノ戸籍謄本(公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十七條 恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストモハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條 前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストモハ添附スルコトヲ要スヘキ書類
二 請求者ノ戸籍謄本(死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ)

第十九條 恩給法第八十一條ニ規定スル一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條 恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ死亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ

届出ツヘシ

第二十一條 經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章 恩給ノ裁定

第二十二條 經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作り履歴書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條 裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受ケルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受ケルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十三條ノ二 裁定官廳ハ恩給請求書類ニ依リ證明セントスル事實ノ一部ニ十分ナル心證ヲ得サル場合ニ於テ争ナキ部分ノ事實ノミヲ以テスルモ尙恩給ヲ給與シ得ルコトヲ認メタルトキハ之ヲ他ノ部分ト切離シ先ツ其ノ事實ノミニ基キ恩給ノ裁定ヲ爲スコトヲ得但シ之ニ因リテ別種ノ恩給ヲ給與スルニ至ルヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 權利者又ハ關係者ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條 裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係者ニ通知スヘシ

第二十六條 裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命ジ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給應ニ呈示スヘシ

第二十八條 年金タル恩給ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

第二十九條 支給應ハ年金タル恩給ヲ受ケルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラレ給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

ルヘキ原因タル事實アルコトヲ知りタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四十條 普通恩給ヲ受ケル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラレヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條 年金タル恩給ヲ受ケル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(恩給法第九條第二項ニ規定スル犯罪以外ノ犯罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ旨渡テ受ケタルトキヲ除ク)又ハ刑ノ執行猶豫ノ旨渡テ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條 年金タル恩給ヲ受ケル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縁故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條 年金タル恩給ヲ受ケル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

第三十四條 第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給應ト力異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ届出ハ支給應ヲ經由スヘシ

第三十五條 年金タル恩給ヲ受ケル者死亡シ又ハ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

〔文會例〕

〔文會例〕

第四十條 具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添付スヘシ

一 具申者ノ氏名、年齢及住所

二 對手者タル行政廳

三 具申ノ趣旨及理由

第四十一條 具申カ内閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日以内ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添へ内閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條 内閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條 裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附則 裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●更正手續

○閣令第五號 大正十二年八月二十二日

第一條 恩給法第一百一條又ハ第一百二條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタ

ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受ケヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第三十六條 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添へ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條 恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十八條 年金タル恩給ヲ受ケル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添へ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ届出ツヘシ

第三十九條 恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六章 具申及裁決

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十四章 諸給與 第一節 恩給

ル新證書ヲ發行ス
 前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票(第一號様式)ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス
 第二條 恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ増額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス
 第三條 支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ内閣恩給局ニ於テ之ヲ製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス
 第四條 第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス
 第五條 第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書(第二號様式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受ケヘシ
 第六條 前條ノ交付請求書提出後現住地ヲ變更シタルトキハ其ノ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
 第七條 第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス
 受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證明印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケヘシ
 前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

〔文會例〕

トヲ得サルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得
 前項ノ承認書ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ
 第八條 支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ内閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スヘシ
 第九條 大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ハ大正十二年十月三十一日限り其ノ效力ヲ失フ
 第十條 大正九年八月一日以後大正十二年九月三十日迄ノ間ニ於ケル日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ大正十四年三月三十一日限り其ノ效力ヲ失フ
 第十一條 恩給法第百三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ恩給規則第一條及第二條又ハ第七條及第八條ノ規定ニ依ルノ外尙第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ差出スヘシ
 第十二條 從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ増額スル場合ニ於テハ第一條乃至第七條ノ規定ニ依リ先ツ同法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依ル更正額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同法第百三條ノ規定ニ依ル更正額ヲ爲ス
 第十三條 陸軍大臣前條ノ更正請求書ヲ受ケタルトキハ恩給金額計算書ヲ添附シ其ノ他恩給規則ノ例ニ依リ之ヲ内閣恩給局長ニ進達スヘシ

一四四

第十四條 恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第一號様式

大正十三年壹月渡以降
 更正支給額表

更正證書記號番號	更正年額
現證書記號番號	更正一期額
肩書及氏名	

(内閣恩給局)

注意(一)本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スヘシ
 (二)更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スヘキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スヘシ

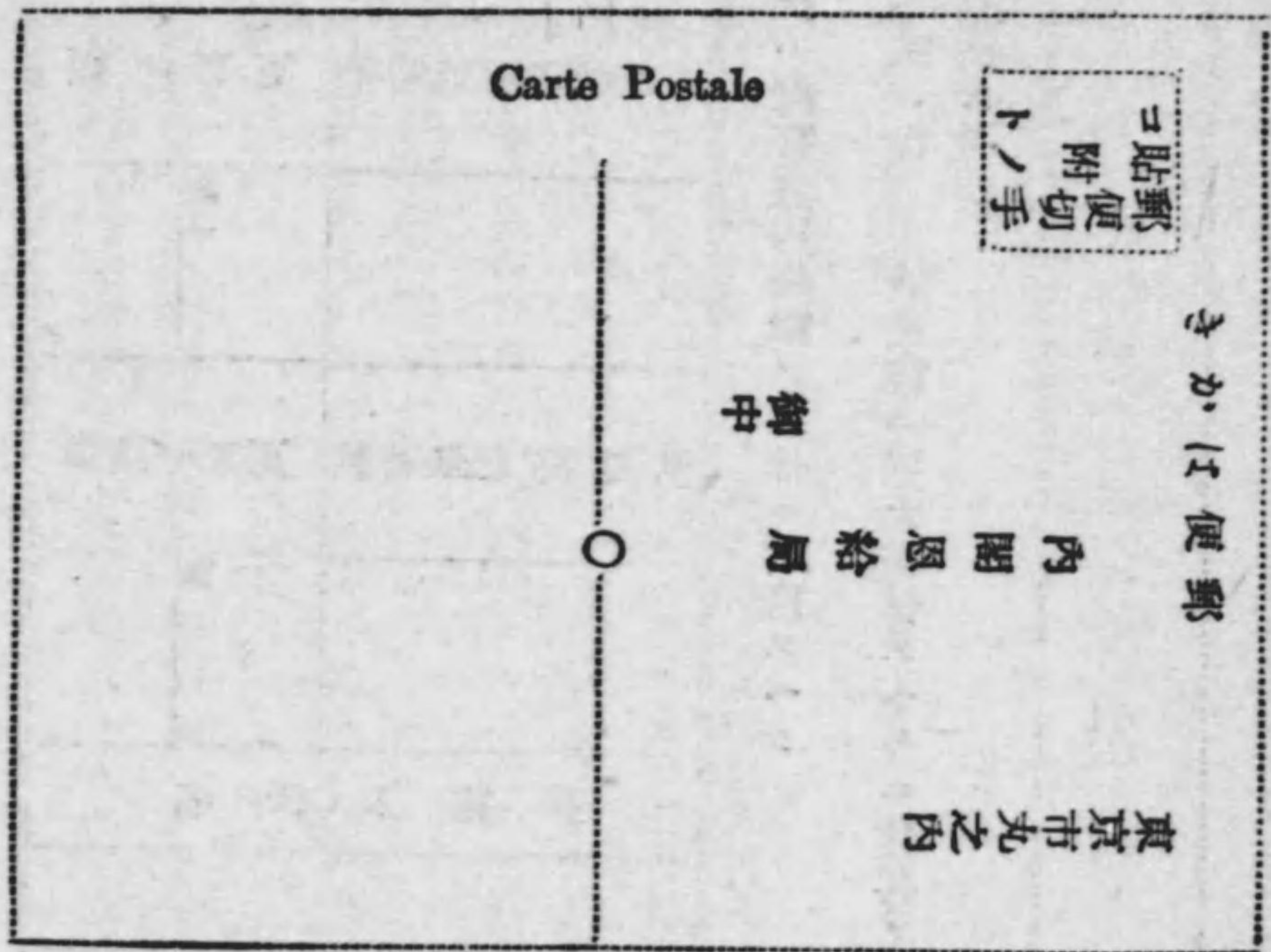
第十四章 諸給與 第一節 恩給

第二號様式(裏面)

交 付 請 求 書

證書記號番號	受給者 氏名	支給郵便局名	現住地 府縣
恩給法ニ依ル更正證書及請求候也			
現住地 受給者 氏名印			
右現住者タルコトヲ證明ス			
大正 年 月 日			
警察(署)長 町村長			

(表面)



更正請求書
退職當時ノ官職
氏名
年月日生

(第三號様式)

- 高等官試補、軍人及準軍人ニ在リテハ所管大臣ニ、判任文官、同待遇ニ在リテハ其ノ身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ニ之ヲ差出スヘシ
- 陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノ及本屬長官カ陸軍大臣又ハ海軍大臣ナルトキハ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ニ之ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 在外指定學校職員ノ差出スヘキモノハ所管領事官ニ之ヲ差出スヘシ
- 裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ
- 恩給請求書類ハ概ネ別紙様式(第一號乃至第十五號書式)ニ準シ作成スヘシ
- 恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現任證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ
- 本屬廳其ノ他ノ經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書(第十六號乃至第二十一號書式)ヲ作り證據書類ヲ添附シ内閣恩給局ニ送付スヘシ但シ數個ノ經由廳アルトキハ最終ノ經由廳ニ於テ計算書ヲ作成スヘシ
- 内閣恩給局ニ於テ給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作り請求者ニ之ヲ交付スヘシ
- 恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ内閣恩給局長ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知スヘシ
- 内閣恩給局ニ於テ恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知ス

一 退職年月日
一 證書ノ記號番號
一 證書ノ日附
一 現恩給又ハ扶助料年額
一 支給郵便局名(又ハ新ニ支給ヲ受ケ) (トスル郵便局名)
恩給法第百三條ノ規定ニ依リ前記恩給年額更正相成度此段請求候

本籍地
現住地
請求者 氏名
年月日
内閣恩給局長氏名殿

(注意)
一 請求書ハ第七師團司令部ニ差出スヘシ
二 請求書提出後本籍地又ハ現住地ヲ變更シタルトキハ速ニ内閣恩給局ニ届出ツヘシ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

●恩給給與細則

- 閣令第七號 大正十二年十月一日
改正 昭和八年第二號、一二年第一號、第四號、一三年第二號
- 第一條 恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ
一 本屬廳ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノハ高等文官、同待遇、

〔文會例〕

〔文會例〕

- シ又ハ新證書ヲ交付スヘシ
- 第九條 恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ別紙様式(第二十二號又ハ第二十三號ノ書式)ニ準シ貯金局ヲ經テ内閣恩給局ニ通知スヘシ
- 第十條 恩給給與規則第三十六條第一項ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙様式(第二十四號書式)ニ準シ再交付申請書ヲ作り左ノ書類ヲ添附シ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ
一 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顛末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類並其ノ事實ヲ證明スル足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明ヲ要セス
- 二 恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顛末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書
- 第十條ノ二 恩給給與規則第三十六條第二項ノ規定ニ依リ恩給證書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙様式(第二十四號書式ノ二)ニ準シ再交付申請書ヲ作り左ノ書類及證書郵送料(郵便切手十四錢)ヲ添附シ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ
一 申請者本人ノ最近ノ寫眞
二 恩給證書ヲ呈示ノ用ニ供スルコト困難ナル事由ヲ詳記シタル顛末書前項ノ申請書ニハ現住所ノ警察官署、領事官其ノ他申請者カ本人タルコトヲ知レル官公署ヨリ本人タルコトノ奧書證明ヲ受ケヘシ
第一項第一號ノ寫眞ハ申請書ニ貼附シ前項ノ奧書證明ヲ爲ス官公署ノ封印ヲ受ケヘシ
- 第十一條 恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ内閣恩給局ニ差出スヘキ書類ハ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十四章 請給與 第一節 恩給

第十二條 恩給法施行令第一條ニ規定スル恩給受給權調査票ハ別紙様式
(第二十五號書式)ニ準シ作成スヘシ

第十二條ノ二 恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲
スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作リ恩給請求ニ
際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ開令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

軍人恩給法施行規則

明治二十四年開令第二號

明治二十四年法律第四號施行規則

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補助施行規則

明治三十四年開令第一號

明治三十五年法律第四十五號施行手續

明治三十九年法律第二十號施行手續

明治四十三年開令第九號

明治四十四年法律第五十九號施行手續

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十九年法律第十三號施行規則

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則

大正十一年開令第五號

(別紙) 第一號書式

普通恩給請求書
年月日 (官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證
據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

氏 名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ
第二號書式

普通恩給請求書

年月日 (官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ
給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

氏 名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

〔文會例〕

第二號書式ノ二

傷病年金請求書

年月日 (官職)ヲ退職シ年月日 役ヲ免セラレ
候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

氏 名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

增加恩給請求書

年月日 (官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷疾(疾病)爾後
重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

氏 名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十四章 請給與 第一節 恩給

第三號書式ノ二

傷病年金請求書

年月日 (官職)ヲ退職シ年月日 役ヲ免セラレ
候處在職中ノ傷疾(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金
給與相成
度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

氏 名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

扶助料請求書

右者 年月 日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ
請求候也

本籍地
現住所

年月日

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

氏 名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式

扶助料請求書

前扶助料權者 氏 名

右者 年 月 日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ
請求候也

公務員又ハ普通
恩給權者トノ身分關係

本籍地
現住所

年 月 日

氏 名 印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

〔文會例〕

第五號書式ノ三

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料 扶助料證書記號香號
證書ノ日附
扶助料年額

第二ノ扶助料 扶助料證書記號香號
證書ノ日附
扶助料年額

(第三ノ扶助料以下右ニ準ス)

前記扶助料中第一ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額
ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年 月 日

本籍地
現住所
請求者 第一ノ扶助料受給者 氏 名 印
現住所
請求者 第二ノ扶助料受給者 氏 名 印
(第三以下ノ扶助料受給者タル請求者ハ右ニ準ス)

内閣恩給局長 氏 名 殿
改定扶助料ノ支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第五號書式ノ二

扶助料改定請求書

一、扶助料證書記號香號
一、證書ノ日附
一、扶助料年額

前記扶助料受給中ノ處遺族員數增加致候ニ付年額ヲ改定相成度證
據書類相添ヘ請求候也

年 月 日

本籍地
現住所
請求者 氏 名 印

内閣恩給局長氏 名 殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

〔文會例〕

第六號書式

一時恩給請求書

年 月 日 (官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成
度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年 月 日

氏 名 印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權
者ノ退職當時ノ官職名 氏 名

右者 年 月 日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時
扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

第十四章 諸給與 第一節 恩給

公務員又ハ普
通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

年月日
氏名印
内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名 氏名

右者 年月 日 在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依
リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地
現住所

年月日
氏名印
内閣恩給局長氏名殿

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

〔文會例〕

支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

傷病賜金請求書

年月 日(官職)ヲ退職シ 年月 日 役ヲ免セラレ候
ニ付傷病賜金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地
現住所

年月日
氏名印
内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

第十號書式

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者 氏名

右者 犯罪ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書
類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係

本籍地
現住所

年月日
氏名印
内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

扶助料停止請求書

停止セラルヘキ扶助料權者 氏名

右者 年月 日 以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類
相添ヘ請求候也

第十四章 諸給與 第一節 恩給

公務員トノ身分關係

年月日
申請者 氏名印
内閣恩給局長氏名殿

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式

再審査請求書

年月 日 退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處未
タ傷痕(疾病)回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求
候也

退職當時ノ官職名

本籍地
現住所

年月日
氏名印
内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十四章 諸給與 第一節 恩給

第十二號書式ノ二

再審査請求書

年月日退職(シ)年月日役ヲ免セラレタル(ニ)因リ
傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷疾(疾病)回復セサルヲ以テ再審査
相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年月日

氏名 氏名印

内閣恩給局長 氏名 殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ
第十三號書式

履歴書

退職當時ノ官職名

氏名 氏名印
年月日生

年月日記

事官公署名

右相違ナキコトヲ證明ス
(退職當時ノ所屬局ノ長)
官職氏名 氏名印

備考

- 一 履歴書ハ二通提出スヘシ
- 一 學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス
- 一 官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ様ニ詳記スヘシ
- 一 退職ノ事由ヲ明記スヘシ
- 一 退職當時ノ所屬局ノ長ハ他處ニ關スル事項ニ付テハ照會ノ上之ヲ詳記スヘシ

第十四號書式

現認證明書

公務員ノ官職名

氏名 氏名印
年月日生

右者年月日午前(後)時地ニ於テ(何)ニ從事中(何)ニ
因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名

現認者 氏名 氏名印

〔文會例〕

備考 本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數
アルトキハ二名以上連名スヘシ
第十五號書式

事實證明書

公務員ノ官職名

氏名 氏名印
年月日生

右者年月日ヨリ(何)ニ從事中年月日(何)ノ狀況ニ於

備考 本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

テ(何)ニ從事シ 月日頃ヨリ(何)ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後(何)ノ
處置ヲ施シタリ

右證明ス

年月日 所屬局長 氏名 氏名印

〔文會例〕

第十六號書式

前證書 記號番號	前在職年 前職又ハ 前階等	前恩給 額	前傷病 年金額	事項 關スル	普通恩給金額計算書	退職年月日	退職ノ事由	在職年數	退職前ノ俸給年額	退職當時ノ階等	恩給年額算出率	恩給法第十條 控除前ノ算出額	差月數	一時恩給 額	基礎額	控除額	普通恩給金額計算書	給年額	普 通 恩 給 金	地方居住地	請求者ノ退職當時ノ官職名	便支局給郵名	局
						年月日					百五十分ノ 三十分ノ	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	氏名	氏名	局	局
																				年月日生	年月日生	局	局
																				氏名	氏名	局	局
																				氏名	氏名	局	局

備考 本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十四章 諸給與 第一節 恩給

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年月日

内閣恩給局長 氏名殿

在職年内譯

實

在

職

年

加

算

年

除

算

年

官職氏

名印

總計	合計	至自	至自	至自	始	實	在	職	年	加	算	年	除	算	年
	年	年	年	年	年	期	在	職	年	加	算	年	除	算	年
		月	月	月	月	年									
合計	至自	至自	至自	始	實	在	職	年	加	算	年	除	算	年	
年	年	年	年	年	期	在	職	年	加	算	年	除	算	年	
月	月	月	月	年	期										年
合計	至自	至自	至自	始	實	在	職	年	加	算	年	除	算	年	
年	年	年	年	年	期	在	職	年	加	算	年	除	算	年	
月	月	月	月	年	期										年

〔文會例〕

退職前一年ノ本俸總額	至自	至自	至自	退職前一年ノ期間	月數	本俸	年	(月)	額	月數	ト	月	額	ト	積
	年	年	年	年	月	年	年	年	年	月	月	月	月	月	月
	月	月	月	月	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

〔文會例〕

第十六號書式ノ二

前恩給年額	前職又ハ前階等	前在職年	前證書記號番號

退職前一年ノ本俸總額	至自	至自	至自	加	俸	年	額	加	俸	年	額
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
合計	至自	至自	至自	加	俸	年	額	加	俸	年	額
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

備考 傷病年金ニ關スル事項欄ニハ請求者カ傷病年金ヲ併給セラルル者ナルトキハ其ノ證書ノ記號番號ヲ、傷病年金ヲ請求中ノ者ナルトキハ請求ノ年月日ヲ、傷病年金ヲ請求スル見込ノ者ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年月日

内閣恩給局長 氏名 殿

在職年內課

實 在 職 年

加 算

年

除 算

年

官 職 氏

名 印

總計	合計	至自	至自	至自	始	實	在	職	年	加	算	年	除	算	年
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
本 俸	合計	至自	至自	至自	始	加	算	年	除	算	年	除	算	年	
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	
退 職 前	合計	至自	至自	至自	始	加	算	年	除	算	年	除	算	年	
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	
退 職 前 一 年 內	合計	至自	至自	至自	始	加	算	年	除	算	年	除	算	年	
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	

〔文會例〕

〔文會例〕

第十六號書式ノ三

前年傷	病年傷	金 額	普 通	恩 給	ス = 事	恩 給	法 令	六 六	六 六	ノ 二	項 事
記 號	記 號	記 號	記 號	記 號	記 號	記 號	記 號	記 號	記 號	記 號	記 號

給 年 額 內	至自	至自	至自	加 俸
年	年	年	年	年
月	月	月	月	月
日	日	日	日	日
退 職 前 一 年 內				加 俸 總 額

傷病年金額計算書	退 職 年 月 日	兵 役 免 除 年 月 日	退 職 (兵 役 免 除) ノ 事 由	退 職 當 時 ノ 階 等	傷 病 年 月 日	公 務 傷 病 ノ 原 因	症 狀 等 差 第 款
居 住 地 名 地 方	退 職 當 時 ノ 官 職 名	氏 名	氏 名	氏 名	傷 病 年 金 金 額	傷 病 年 金 金 額	右 取 調 候 處 相 違 無 之 ニ 付 給 與 相 成 度
便 支 局 給 名 郵 局							年 月 日
							内閣恩給局長 氏名 殿
							官 職 氏 名 印

第十七號書式

備考 普通恩給ニ關スル事項欄ニハ請求者カ普通恩給ヲ併給セララル者ナルトキハ其ノ證書ノ記號番號ヲ、普通恩給ヲ請求中ノ者ナルトキハ請求ノ年月日ヲ、普通恩給ヲ請求スル見込ノ者ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

一時恩給金額計算書		支給郵便局名	
退職年月日	年 月 日	請求者ノ退職當時ノ官職名	氏 名
退職ノ事由			
在職年數			
退職前ノ俸給月額	本俸 加俸 合計		
退職當時ノ階等	圓圓圓 錢錢錢	一時恩給金額	金
右取調候處相違無之ニ付給與相成度		年 月 日	官職氏名印
内閣恩給局長 氏名殿			
賞 在 職 年 內 課	在 職 年 內 課	算 除 算	年 年 年
始 期 年 月 日	始 期 年 月 日	終 期 年 月 日	終 期 年 月 日
至 年 月 日	至 年 月 日	至 年 月 日	至 年 月 日

〔文會例〕

退 職 前 一 年 內 加 俸 總 額												合計		至自	至自						
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	合計	年	年	年	年	年	年	年	年	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
退 職 前 一 年 內 本 俸 總 額												合計		至自	至自						
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	合計	年	年	年	年	年	年	年	年	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
退 職 前 一 年 內 本 俸 年 (月) 額												合計		至自	至自						
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	合計	年	年	年	年	年	年	年	年	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
退 職 前 一 年 內 加 俸 總 額												合計		至自	至自						
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	合計	年	年	年	年	年	年	年	年	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

〔文會例〕

改定 恩給證番號
前在職年
普通官職名又
恩給ハ階等
事項ハ額

退職前一年ノ期間	課内額			退職前一年ノ本俸總額	退職前一年ノ加俸總額	合計	至自	至自	至自	始終	開始日期	終止日期	事由	事由年數	
	至自	至自	至自												
	至自	至自	至自	加俸	退職前一年ノ本俸	合計	至自	至自	至自	始	終	開始日期	終止日期	事由	事由年數
	至自	至自	至自				退職前一年ノ本俸	退職前一年ノ加俸	合計	至自	至自	至自	始	終	開始日期
退職前一年ノ加俸總額															

第十四章 諸給與 第一節 恩給

〔文會例〕

公務員 = 關事ル事項		普通恩給年額		扶助料金額計算書		居方		支局	
恩給額	恩給率	普通恩給額	加給額	扶助料金額	給付金額	年額	地名	給付局名	支局名
恩給年額	恩給率	普通恩給額	加給額	扶助料金額	給付金額	年額	地名	給付局名	支局名
恩給年額	恩給率	普通恩給額	加給額	扶助料金額	給付金額	年額	地名	給付局名	支局名

〔文會例〕

改定 恩給 證書 記號 番號	前在 職年	普通 在職 年	恩給 官職 名又 階等	事項 ハ階 等
----------------------------	----------	---------------	----------------------	---------------

實 在 職 年	加 算 年	除 算 年	算 年	在 職 年 內 課 加 算 年	右取調候處相違無之ニ付給與相成度 年 月 日	公務員事務員 - 恩給事項										扶助料金額計算書	居住 地 名	支 局 名	郵 名	局
						普通恩給年額	除依二條十第給一時恩給基礎俸	差月數	恩給前ノ算出額	恩給年額算出率	等退職(死亡)當時ノ階	年額(死亡)前ノ俸給	在職年數	退職ノ事由又ハ死因	退職(死亡)年月日					
				內閣恩給局長 氏 名 殿				官 職 氏 名 印				公務員トノ續柄 氏 名 年 月 日生 給與 年 月 ヨリ								

〔文會例〕

算年 除算年 算年

退 職 前 一 年 內 ノ 加 俸 總 額	至自 至自 至自			加 俸	至自 至自 至自			退 職 前 一 年 內 ノ 本 俸 總 額	退 職 前 一 年 ノ 期 間	本 俸	退 職 前 一 年 ノ 期 間	月 數	本 俸 年 (月)	額	月 數 ト 月 額 ト ノ 積
	年 年 年	年 年 年	年 年 年		年 年 年	年 年 年	年 年 年								
總計		合計		合計		合計		合計		合計		合計		合計	
年		年		年		年		年		年		年		年	
月		月		月		月		月		月		月		月	
日		日		日		日		日		日		日		日	

〔文會例〕

改定 恩給 記號 番號	前在 職年	普通 恩給 官職 名又 ハ階 等	恩給 額	事 項 額
----------------------	----------	---------------------------------	---------	-------------

退職前ノ前職退		本 俸		加 俸		總 計	
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日
退職前一年ノ期間		退職前一年ノ本俸總額		加俸總額		總計	
月數		本俸年(月)數		月數ト月額トノ積		合計	
開始		開始		開始		開始	
終止		終止		終止		終止	
事由		事由		事由		事由	
年月數		年月數		年月數		年月數	
開始		開始		開始		開始	
終止		終止		終止		終止	
事由		事由		事由		事由	
年月數		年月數		年月數		年月數	

〔文會例〕

公務員ノ恩給ニ關スル事項									
普通恩給		特別恩給		加給額		扶助料		其他	
控除額	給付額	控除額	給付額	遺族數	加給額	扶助料	其他	扶助料	其他
年	月	年	月	年	月	年	月	年	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
普通恩給年額		特別恩給年額		加給額		扶助料		其他	
圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢
普通恩給率		特別恩給率		加給率		扶助率		其他	
百分之	十分之	百分之	十分之	百分之	十分之	百分之	十分之	百分之	十分之
普通恩給額		特別恩給額		加給額		扶助料		其他	
圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢
普通恩給率		特別恩給率		加給率		扶助率		其他	
百分之	十分之	百分之	十分之	百分之	十分之	百分之	十分之	百分之	十分之
普通恩給額		特別恩給額		加給額		扶助料		其他	
圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢	圓	錢

〔文會例〕

右取調候處相違無之ニ付給與相成度
内閣恩給局長 氏 名 殿

官職 氏 名 印

實在職年 加算年 除算年

居住地 支局給名 郵局

公務員トノ續柄 氏 名

年月日 生

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

年月日 給與

第十四章 諸給與 第一節 恩給
第十八號書式ノ四

改定 前記 普通 在職 年 恩給 額	前記 普通 在職 年 恩給 額	恩給 額	事項 額
--------------------------------------	--------------------------------	---------	---------

實 在 職 期 年 月 日	加 算 期 年 月 日	除 算 期 年 月 日	公務員事務員												扶助料金額計算書 居住地 地方廳名 支局名											
			恩給 額			普通恩給 額			退職(死亡)前ノ 俸給額			退職(死亡)ノ 事由又ハ死 因														
			恩給 額	普通 恩給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額		退職 前ノ 俸給 額	退職 前ノ 俸給 額									
<table border="1"> <tr> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> </tr> </table>												事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	扶助料金額計算書
事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額													
<table border="1"> <tr> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> </tr> </table>												事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	扶助料金額計算書
事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額													
<table border="1"> <tr> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> </tr> </table>												事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	扶助料金額計算書
事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額													
<table border="1"> <tr> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> </tr> </table>												事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	扶助料金額計算書
事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額													

〔文會例〕

第十九號書式

第十四章 諸給與 第一節 恩給
一 恩給法第八十一條ノ
一時扶助料金額計算書

支給局名

局

退 職 前 一 年 内 ノ 加 俸 總 額	退 職 前 一 年 内 ノ 本 俸 總 額	退職前ノ期間												合計 年 月 日												
		至自 年 年 年			至自 年 年 年			至自 年 年 年			至自 年 年 年				合計 年 月 日											
		至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年	至自 年 年 年		合計 年 月 日	合計 年 月 日										
<table border="1"> <tr> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> <td>事項 額</td> </tr> </table>												事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	合計 年 月 日
事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額	事項 額													

公務員関係事項				公務員ノ続柄		公務員トノ續柄	
普通恩給年額	恩給證書記號番號	退職ノ給(死亡)額前	退職ノ事由又ハ死因	退職(死亡)年月日	公務員トノ續柄	公務員トノ續柄	氏名
金第	第	合計			公務員トノ續柄	公務員トノ續柄	氏
圓號	號	圓圓圓					年月日
圓	號	圓圓圓					年月日
圓	號	圓圓圓					氏名
圓	號	圓圓圓					氏名

算年	除算年	在職年內課	實任	始	終	始	終	算	除算
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年 月 日

內閣恩給局長 氏名 職

官 氏 名 印

[文會例]

第二十號書式

退職前一年ノ期間		退職ノ前職			退職前一年ノ期間		退職ノ前職		
加俸	退職前一年ノ期間	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

合計	合計	合計	合計
年	年	年	年
月	月	月	月
日	日	日	日

[文會例]

恩給法第八十二條ノ料金額計算書

支給局名

局

死亡年月日 年 月 日

第十四章 諸給與 第一節 恩給

死亡	在職年數	死亡前ノ俸給月額	死亡當時ノ階等
死因	本俸	合計俸	
	圓	圓	
	圓	圓	
	錢	錢	

公務員トノ續柄

氏名

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年月日

内閣恩給局長 氏名 殿

官職 氏

名印

總計	合計	至自	至自	至自	始終	在職年數	實	在職年內課	加	算	除	算	年
		年	年	年	年								
本	合計	至自	至自	至自	始終	在職年數	實	在職年內課	加	算	除	算	年
		年	年	年	年								
年	合計	至自	至自	至自	始終	在職年數	實	在職年內課	加	算	除	算	年
		年	年	年	年								
月	合計	至自	至自	至自	始終	在職年數	實	在職年內課	加	算	除	算	年
		年	年	年	年								
月	合計	至自	至自	至自	始終	在職年數	實	在職年內課	加	算	除	算	年
		年	年	年	年								
月	合計	至自	至自	至自	始終	在職年數	實	在職年內課	加	算	除	算	年
		年	年	年	年								

[文會例]

[文會例]

譯 內 額 年 給 俸 ノ 前 職 退																										
退	職	前	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															
年	內	ノ	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															
年	內	ノ	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															
年	內	ノ	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															
年	內	ノ	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															
年	內	ノ	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															
年	內	ノ	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															
年	內	ノ	至自	至自	至自	加	退	至自	至自	至自	退	職前一年ノ期間	月	數	本	俸	年	(月)	額	月	數	ト	月	額	ト	積
			年	年	年	年	年	年	年	年	年															

第二十一號書式

傷病賜金額計算書				支給郵
年	月	日	職	氏 名
年	月	日	兵役免除	
年	月	日	免職ノ事由	
年	月	日	退職當時ノ官職名	
傷病二罹リ				局
年	月	日	傷病ノ階等	

公務員ノ傷病原因		右取調候處相違無之ニ付給與相成度	
症狀等差	第 目	金	傷病賜金
氏	名	額	金
氏	名	額	圓

第十四章 請給與 第一節 恩給
第二十二號書式

年月日		氏名		住所		退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係		恩給證書ノ記號番號		罪名		刑名		判決言渡年月日		判決確定年月日		刑期起算年月日		刑期滿了年月日	
								第													
内閣恩給局宛 (貯金局經由)																					
裁判所																					

〔文會例〕

第二十三號書式

年月日		氏名		住所		退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係		恩給證書ノ記號番號		罪名		刑名		判決言渡年月日		判決確定年月日		刑期起算年月日		刑期滿了年月日		執行猶豫言渡取消年月日	
								第															
内閣恩給局宛 (貯金局經由)																							
裁判所																							

〔文會例〕

第二十四號書式

恩給證書(裁定通知書)再交付申請書

一 恩給證書ノ記號番號(裁定通知書ノ番號)

一 恩給證書ノ日附(裁定通知書ノ日附)

一 恩給金額

右恩給證書(裁定通知書)ヲ亡失(毀損)致候ニ付再交付相成度申請候

年月日

退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏名

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

名印

第二十四號書式ノ二

恩給證書再交付申請書

一 恩給證書ノ記號番號

一 恩給證書ノ日附

一 恩給金額

右恩給證書別紙願末書ノ通呈示ノ用ニ供スルコト困難ニ付再交付相成度申請候

年月日

退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏名

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 ○○郵便局

名印

第二十五號書式

恩給受給權調査票

一、恩給證書記號番號

一、受給者住所氏名

一、受給權調査期月 昭和 年 月

備考 用紙ハ成ル可ク半紙四ツ切大又ハ半折大トスルコト

●恩給法附則ニ依ル増額恩給更正規則

○逕信省令第五十七號 大正十二年九月一日

- 第一條 貯金局ニ於テ大正十二年閣令第五號其ノ他恩給法第百一條乃至第百三條ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ニ支給額票貼附ノ手續ヲ爲サルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス
- 第二條 受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ支給郵便局ニ差出シ支給額票ノ貼附ヲ請求スヘシ
- 第三條 受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準シ當該證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ爲ス

〔文會例〕

前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

- 第四條 受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書ニ對スル受領證印ヲ爲シ之ヲ指定ノ郵便局ニ差出シ引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケヘシ
- 第五條 前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作製シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スヘシ
- 第六條 第三條ノ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス
- 第七條 恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給支給規則ヲ準用ス

附則

本規則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

○閣令第三號 昭和十三年六月一日

- 第一條 昭和十三年法律第五十六號(以下改正法律ト稱ス)附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ増額スベキ増加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ恩給法第七十五條第二項及昭和十三年勅令第二百八十二號(以下改正勅令ト稱ス)附則第五條ニ規定スルモノヲ除ク外受給者ノ請求ヲ待タズ之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

〔文會例〕

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スベシ

- 第八條 支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ内閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スベシ
- 第九條 昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ昭和十五年三月三十一日限り其ノ效力ヲ失フ
- 第十條 改正勅令附則第三條ニ依リテ準用セラルル同令第三十一條ノ第三項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定請求ヲ爲サントスル者ハ扶助料改定請求書(別記第三號様式)ニ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戸籍謄本、前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セントスル扶助料ノ證書ヲ添附シテ内閣恩給局長ニ差出スベシ

改正勅令附則第四條但書ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給部分ニ對スル更正ノ請求ヲ爲サントスル者ハ更正請求書(別記第四號様式)ニ公務員ノ死亡又ハ前扶助料權者ノ失權ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戸籍謄本ヲ添附シテ内閣恩給局長ニ差出スベシ

第十一條 改正法律附則第三條及改正勅令附則第五條ノ規定ニ該當スル者ニハ受給權者ノ請求ヲ待タズ假ニ増加恩給第七項ノ年額ヲ表示シタル支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ増加恩給第七項ノ恩給額ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ支給ヲ受クル者改正勅令附則第五條ノ規定ニ依リ從前ノ傷病年金第一款ノ年額ヲ増加恩給第七項ノ年額トシテ受ケントスルト

前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票(別記第一號様式)ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條 改正法律附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ増額スベキ増加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年四月一日以後裁定スベキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條 支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ待タズ内閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條 第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第五條 第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ交付請求書(別記第二號様式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受ケベシ

受給權者ハ内閣恩給局又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受ケルコトヲ得

第六條 前條ノ交付請求書提出後住所ヲ變更シタルトキハ其ノ新住所地ノ警察官署若ハ領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第七條 第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ

キハ更正請求書(別記第五號様式)ヲ内閣恩給局長ニ差出スベシ
 第十二條 改正法律附則第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ新ニ恩給ヲ給シ又ハ改正スベキ場合ニ於テハ受給權者ノ請求ヲ待チテ之ヲ更正ス
 改正法律附則第六條ノ規定ニ依リ扶助料ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ内閣恩給局長ニ差出スベシ

改正法律附則第七條ノ規定ニ依リ恩給ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第一條及第二條又ハ第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外北海道廳長官ヲ經テ恩給ノ請求書又ハ改正請求書(別記第六號様式)ヲ内閣恩給局長ニ差出スベシ
 第十三條 恩給ノ更正及請求ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (別記書式省略)

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則

○逓信省令第四十八號 昭和十三年六月一日
 第一條 貯金局ニ於テ昭和十三年閣令第三號其ノ他昭和十三年法律第五十六號附則ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ增加恩給、傷病年金及扶助料ノ受給者ニ對シ支給額票ヲ交付セントスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス
 第二條 受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ恩給證書ヲ支給郵便局ニ

〔文會例〕

差出シ之ニ支給額票ノ貼付ヲ請求スベシ
 支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外ニ支給額票ヲ貼付シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付ス
 第三條 支給額票ノ交付ヲ受ケベキ受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託スルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準ジ當該證書ニ對スル支給額票貼付ノ手續ヲ爲ス
 前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス
 第四條 受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケベシ
 前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作製シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スベシ
 第五條 年金恩給支給規則第十條ニ依リ貯金局ニ寄託中ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給ノ減額、補給及停止ニ關スル件

○法律第十三號 昭和七年六月十八日
 第一條 昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給額ト改正前ノ俸給ニ關スル規程ニ依リハ受ケヘカリシ俸給

〔文會例〕

ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金タル恩給ニ在リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ増給シ一時金タル恩給ニ在リテハ追給ス
 前項ノ規定ハ昭和六年六月一日以降勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ新ニ制定セラレ俸給ニ關スル規定ニ依リ俸給ヲ給セラレテ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ付テハ準用ス
 第二條 恩給法第九十九條第一項ノ規定ニ依リ從前ノ例ニ依リ普通恩給ト其ノ基礎ト爲リタル在職年ニ通算スルコトヲ得ル官職ニ就キ受ケル俸給トノ合算額ノ退職當時ノ俸給ヲ超過スル差額ヲ普通恩給ヲ停止スル場合ニ於ケル其ノ退職當時ノ俸給ハ本法施行後ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル時期迄昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規定ニ依リ其ノ俸給ニ相當スル俸給トス
 前項俸給額ノ算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和七年七月勅令第二百三號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

●昭和七年法律第十三號施行令

○勅令第二百四號 昭和七年七月三十日
 改正 昭和八年第二四七號
 第一條 昭和七年法律第十三號第一條第一項ノ規定ニ依リ増額シ又ハ追給スヘキ恩給金額ヲ算出スル爲ニ要スル改正前ノ俸給規程ニ依リ受ケヘカリシ俸給ハ左ノ各號ニ依ル
 一 昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シ俸給ヲ減額セラレタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレルコトナクシテ退

第十四章 請給與 第一節 恩給

職シ又ハ死亡シタルトキハ減俸直前ノ俸給トス
 二 昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職シ又ハ死亡シタルトキ及該俸給規程施行後就職シタル者退職シ又ハ死亡シタルトキハ
 (イ) 本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給力減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラサル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額カ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給ニ直近スル上位ノ級俸定額ノ改正前ノ級俸定額ニ還元セラレタル額ヲ超ユルコトナシ
 (ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官等俸給令、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ(イ)ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス
 (ハ) 本俸ニ準スヘキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額カ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準スヘキ俸給ヲ除シタル金額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額カ夫々改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ス

ヘキ俸給ノ額ニ依リテ補間計算シタル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準スヘキ俸給ヲ除シタル金額トス但シ本俸及本俸ニ準スヘキ俸給ノ改正前ノ俸給額ニ還元セラレタルモノノ合算額ハ改正前ノ俸給規程所定ノ最高限ヲ超ユルコトナシ

前項ノ場合ニ於テ前項各號ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圖位未滿ハ之ヲ切捨ツ

退職又ハ死亡當時ノ本俸ト本俸ニ準スヘキ俸給トノ合算額カ第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ノ規定ニ依リ改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ニ還元セラレヘキ最低額ニ達セサルモノナルトキハ第一項第二號(ハ)ノ規程ニ依リ算出ヲ行ハス

第二條 昭和六年六月二十二日以降官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準スヘキモノヲ含マス)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ又ハ二以上ノ官職ニ在職中死亡シタル者前條第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ本俸ニ付テハ退職又ハ死亡當時ノ各官職ノ俸給ニ互ニ他ノ俸給ノ額ヲ合算シ各合算額ニ付假ニ前條第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ニ規定スル算出方法ニ依リ減俸前ノ俸給額ニ還元シ各還元額ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給額ノ比率ニ依リテ按分シ其ノ各俸給ニ屬スヘキモノヲ以テ改正前ノ俸給規程ニ依リ受クヘカリシ各官職ノ俸給額トス

第三條 昭和七年法律第十三號第二條ノ規定ニ依リ退職當時ノ俸給ヲ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ依ル相當俸給ニ換算スルニハ左ノ各號ニ依ル

〔文會例〕

ル俸給規程ノ適用前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給額トス

(イ)ハ 本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給カ改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラサル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額カ之ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス

(ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官等俸給令、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ(イ)ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

(ハ) 本俸ニ準スヘキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額カ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準スヘキ俸給ニ乘シタル金額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額カ夫々改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準スヘキ俸給ノ額ニ依リテ補間計算シタル割合ヲ退職當時ノ本俸ニ準スヘキ俸給ニ乘シタル金額トス

〔文會例〕

二 大正十二年九月三十日以前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當

スル俸給ハ大正十二年十月一日恩給法ニ依リ更正増額セラレタル恩給ノ基礎ト爲リタル俸給額ヲ以テ退職當時ノ俸給額トシ前號ノ規定ニ依リテ算出シタル金額トス

第四條 昭和六年六月二十二日前官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基

キ二以上ノ俸給(本俸ニ準スヘキモノヲ含マス)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ其ノ合算額ヲ基礎トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ノ退職當時ノ本俸ノ額ノ換算ニ付テハ昭和六年勅令第四百三十三號ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ昭和六年六月一日以降同月二十二日前退職シタル者ニ付テハ其ノ俸給ハ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給トス

第五條 減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ於テ改正當時ノ在職者ニ付經過的ニ級俸定額ノ減率ヨリ低キ減率ニ依ル俸給ヲ給スル規定アリタル官職カ

退職當時ノ官職タリシ者ニシテ同規程施行ノ當時在職シタルモノニ關シテハ引續キ在職スル間ニ限り前二條ノ規定ニ依ル金額ニ依ラスシテ其ノ退職當時ノ俸給額ニ付定メラレタル低キ減率ニ依ル俸給ヲ以テ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給トス

第六條 第三條ノ規定ニ拘ラス退職當時ノ俸給(二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ合算額)ノ年額千四百四十圓以下ナルトキハ其ノ減額ヲ行ハス千四百四十圓ヲ超エ千二百圓以下ナルトキハ之ヲ千四百四十圓トス但シ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第七條 本令中退職又ハ死亡當時ノ俸給ノ換算ニ關スル規定ハ退職又ハ死

亡前一年内ノ各俸給ノ換算ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和八年勅令第四百七十七號)

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和七年法律第十三號恩給更正手續

○閉令第一號 昭和七年七月三十日

第一條 昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ増給ヲ爲サルヘキ年金額ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス其ノ金額ヲ更正シ從前ノ證書ニ代ヘ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ差額ヲ追給セラルヘキ一時金額ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル裁定通知書ニ依リ支給セラルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス其ノ追給スヘキ金額ヲ記載シタル追給裁定通知書ヲ發行ス

第二條 昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ増給ヲ爲サルヘキ年金額ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル裁定通知書ニ依リ追給セラルヘキ一時金額タル恩給又ハ差額ヲ追給セラルヘキ一時金額タル恩給ニシテ昭和七年八月一日以降裁定セラルモノニ付テハ裁定ニ當リ直ニ更正年額ヲ表示シタル證書又ハ更正額ヲ表示シタル裁定通知書ヲ發行ス

第三條 第一條ノ規定ニ依リ發行スル新證書又ハ追給裁定通知書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ交付請求書(別記様式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領

第十四章 請給與 第一節 恩給

事務ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受ケヘシ
 受給權者ハ内閣恩給局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受ケルコトヲ得
 第四條 前條ノ交付請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察
 官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速
 ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第五條 内閣恩給局ニ於テ第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ之ヲ貯金局
 ニ送付シ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シテハ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通
 知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證明ヲ
 爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケヘシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコ
 トヲ得サルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ
 得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由
 ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

第六條 内閣恩給局ニ於テ第一條ノ追給裁定通知書ヲ發行シタルトキハ貯
 金局ヲ經テ之ヲ交付請求書ヲ差出シタル者ニ送付ス

第七條 恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規
 則ヲ準用ス

附則
 本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)
 交付請求書様式

(面裏)

	交付請求書				
昭和七年法律第十三號ニ依ル更正證書及請求候也	追給裁定通知書	現住地	受給者氏名印	年 月 日	右現住者タルコトヲ證明ス
警察一分署長	警察官吏派出所員	町 村 長	氏 名	生 年 月	支 給 局 名
備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考

〔文會例〕

(面表)

手郵 ニ貼便 ト付切	きがは便郵
内閣恩給局	東京市豊町區丸の内

第十四章 請給與 第一節 恩給

●昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

○逕信省令第二十六號 昭和七年七月三十日

第一條 年金タル恩給受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證
 書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨記載シ記名調印ノ上
 指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受ケヘシ

第二條 受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給證書ヲ貯金
 局ニ寄託セルモノナルトキハ之ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ引換ヘ之
 ヲ保管ス

第三條 貯金局ニ於テ前條ニ依リ新證書ヲ保管シタルトキハ其ノ保管證書
 ハ支給郵便局ニ於テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條 受給者新證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ既ニ支給期月ヲ經過シ
 タル給與金ニ對スル更正增加額ハ支給期月ニ拘ハラズ一般ノ例ニ依リ之
 カ拂渡ヲ支給郵便局ニ請求スヘシ

第五條 一時金タル恩給ノ追給ヲ受ケル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經
 由シテ支給通知書ヲ送付ス

第六條 受給者前條ノ支給通知書ニ依リ追給ヲ受ケントスルトキハ追給裁
 定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通
 知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

第七條 恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給
 支給規則ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

○閣令第三號 昭和八年九月十一日

第一條 昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ加給スヘキ扶助料ニシテ昭和八年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラレルモノニ付テハ其ノ金額ヲ更正シ其ノ證書ニ更正年額及之ヲ給スル期間ヲ表示ス

第二條 扶助料證書ニ前條ノ表示ヲ受ケントスル者ハ更正額表示請求書(別記第一號様式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ扶助料證書ト共ニ之ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受ケヘシ受給權者ハ内閣恩給局ヨリ前項ノ更正額表示請求書ノ用紙ヲ受ケルコトヲ得

第三條 前條ノ請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第四條 内閣恩給局ニ於テ第一條ノ更正額ノ表示ヲ爲シタルトキハ恩給證書ハ之ヲ受給權者ニ送付ス

第二條第一項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ従前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ従前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ
第五條 昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ普通恩給ノ改定ヲ請求スル者ハ恩給給與規則第一條及第二條ノ規定ニ依ルノ外改定請求書(別記第二號様式)ヲ内閣恩給局長ニ提出スヘシ

(別記) 第一號様式

昭和八年法律第五十號附則第十四條ニ依ル更正額表示相成度扶助料證書添付及請求書也

現住地 受給者 氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

年 月 日

警察官署 警察官 署名

警察官署 警察官 署名

警察官署 警察官 署名

記	書	記	號	番	號
氏	名	年	月	日	支
氏	名	年	月	日	給
氏	名	年	月	日	局
氏	名	年	月	日	名
氏	名	年	月	日	考

更正額表示請求書

【文會例】

【文會例】

第二號様式

改定請求書

一、普通恩給證書記號番號

一、普通恩給證書日附

一、普通恩給年額

昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ前記普通恩給ヲ文官普通恩給ニ改定相成度此段請求候也

本籍地

現住地

文官退職年月日

年 月 日

請求者 氏 名印

内閣恩給局長 氏 名殿

支給郵便局 ○○郵便局

(表面)

東京市麹町區 丸ノ内

内閣恩給局 御中

郵便切手貼付ノコト

●恩給法上準教育職員ノ在職年月數及退職前ノ俸給年額等ノ計算ニ關スル件

○秘書課長通牒官祕百二十三號 昭和十年十月十二日

全直轄部局

昭和十年九月十三日付恩給第三四四號ヲ以テ内閣恩給局ヨリ別紙ノ通り通牒有之タルニ付右移牒ス

(別紙)

恩給法第四十二條第一項第四號ノ準教育職員ノ在職年月數及同法第五十九條ノ二ノ退職前ノ俸給年額等ノ計算ニ關シ別案ノ通局議決定致候條此段及通牒候也

追テ貴廳管下ノ關係廳ニハ貴廳ヨリ可然御通達方御取計相成度

(一)	大正十二年	九月五日	教諭ニ任ズ、五級俸給與
	昭和六年	六月三十日	二級俸給與(一三五圓)
	昭和七年	三月三十一日	六級俸給與(九五圓)減俸承諾
	昭和八年	十二月二十日	五級俸當分百圓給與
	昭和九年	二月二十一日	五級俸給與(一〇五圓)
	同	日	退職
(ロ)	大正十五年	三月三十一日	任文部屬 七級俸給與
	昭和五年	九月三十日	給四級俸
	昭和六年	六月一日	俸給令改正 月俸九七圓トナル
	昭和八年	三月十五日	給三級俸

〔文會例〕

(三)(二)

(ハ)	昭和八年	十月三十日	退官
	大正十二年	九月五日	教諭ニ任ズ 五級俸當分一〇五圓給與
	昭和三年	六月三十日	二級俸給與(一四〇圓)
	昭和六年	六月一日	俸給令改正 月俸一三一圓トナル
	昭和七年	六月三十日	二級俸當分月俸一三四圓
	昭和九年	三月三十日	一級俸給與
	同	日	退職

(改正規程) 一三五圓

恩給法第五十九條ノ二ノ規定ニ依リ俸給額ヲ計算スル場合ニハ設例ノ如ク減俸セラレテ後退職前一年内ニ増俸アリタルトキハ同條第一項第二號ニ所謂「前俸給二年以上据置ノ後」ノ「前俸給」ニ付テハハイノ如ク俸給規程ノ改正ニ依リ強制ニ依ラズシテ減俸セラレタル場合ニハ減俸セラレタル俸給ヲ前俸給トスルモ(ロ)ノ如ク俸給規定ノ改正ニ依リ減俸ヲ強制セラレタル場合ニハ之ヲ前俸給ト解スルハ酷ナルガ故ニ特ニ減俸前ノ俸給(昭和五年九月三十日附ノ四級俸)ヲ前俸給トシテ計算シハノ如ク一度俸給規程ノ改正ニ依リ強制的ニ減俸セラレタル場合ト雖後ニ其ノ強制ニ依ラザル俸給ノ變動ノ變動アリタル場合ニハ其ノ強制ニ依ラザル俸給(一三四圓又ハ一三五圓)ヲ前俸給トス

削除 (昭和十一年六月二十五日官祕八三號通牒長通牒ニヨリ變更)

右準教育職員ニ付テ(石川縣ニ俸給ニ關スル規則アリ)俸給ニ關スル規

〔文會例〕

全直轄部局長

改正恩給法中疑義ニ關シ北海道廳長官ヨリ照會有之別紙ノ通回答致シタルニ付爲念通牒ス

(別紙)

○秘書課長回答北祕七十一號 昭和九年四月二十日
客年十月五日付學第二〇〇三號ヲ以テ改正恩給法ニ關スル疑義ノ件ニ付御照會ノ處別紙ノ通内閣恩給局ヨリ回答有之タルニ付御了知相成度

(別紙)

在職年通算ト恩給ノ停止ニ關スル件

(昭和八年十月十九日附北祕第七一號通牒)

御來照ノ件(一)準教育職員ハ公務員ニ準スヘキモノニシテ恩給法第五十八條第一項第一號ニ所謂公務員ト謂フニ該當セサルヲ以テ將來恩給法第四十二條第一項第四號ノ規定ニ依リ準教育職員勤続年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數ヲ在職年ニ通算セラルコトアルモ準教育職員在職中ハ普通恩給ヲ停止セララルコトナキモノト被解(二)御例示ノ場合ヲモ包含セラルモノト被存(三)中等學校ノ書記ヨリ公立學校職員制ニ依リ職員(恩給法第十六條第三號ニ規定スル小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員タルモノヲ除ク)ニ轉シタル場合ハ改正法附則第十七條ニ所謂「其ノ官職ニ在職」スルモノト解セラル

○北海道廳長官照會學第二千三號 昭和八年十月五日

改正恩給法ニ關スル疑義ノ件

標記ノ件本年八月二十九日發祕三六七號御通牒ニ基キ別紙ノ通貴省經由及

(四) (五)

程ナク各廳區々ニ互リ月俸又ハ月手當(年手當)若ハ報酬トシテ給與スルモ之等ノ給與ハ何レモ職務ニ對スル反對給付ニシテ生活維持ノ性質ヲ有スルモノト被認ヲ以テ恩給法上ノ俸給ト解ス

在職年計算上準教育職員ノ休職期間ニ付テハ恩給法第四十條ノ二ノ規程ノ適用アルモノト解ス

恩給法第四十二條第一項第四號「引續キ」トハ左ノ條件ヲ兼テ具フル場合ヲ指稱スルモノト解ス

一、準教育職員ヨリ教育職員ニ轉任ノ形式ヲ採リ又ハ前者ヲ退職シタル當日又ハ翌日偶然ニ非ズシテ前後ノ任免間ニ連絡ヲ有シテ後者ニ就職シタルコト

二、準教育職員即教育職員ノ性質ヲ有スル者ヨリ教育職員タル教育職員ト爲リタルコト(從テ教育職員ニ非ザル教育職員即書記、主事、合監、圖書館職員等ヲ除外ス)

三、恩給法施行令第九條ノ準教育職員中保婦ヨリ判任官ノ待遇ヲ受ケル專任教員タル保婦ニ、准訓導ヨリ訓導ニ、助教諭心得ヨリ助教諭心得ヲ經テ又ハ經ズシテ助教諭又ハ教諭ニ、教諭心得ヨリ助教諭又ハ教諭ニ、大學以外ノ學校ノ助教諭心得ヨリ教授心得ヲ經テ又ハ經ズシテ助教諭又ハ教授ニ、同教授心得ヨリ助教諭又ハ教授ニ、大學ノ助教諭心得ヨリ助教諭ニ同教授心得ヨリ教授ニナリタルコト

●改正恩給法中疑義ニ關スル件

○秘書課長通牒北祕七十一號 昭和九年四月二十日

第十四章 諸給與 第一節 恩給

照會候也

(別紙)

改正恩給法ニ關スル疑義ノ件

左記ノ場合御力疑義相生シ候條御解答相成度

記

- 一、普通恩給ヲ給セラルル者改正法施行後準教育職員(教諭心得)トシテ再就職シ將來其ノ儘退職スレハ其ノ在職年數ハ通算セラレサルヲ以テ右在職中恩給ハ停止セラレサルモノト思料ス然レトモ準教育職員トシテ在職二年以上ヲ經タル後引續キ教育職員トナリ準教育職員トシテ在職二年一箇年ニ換算シテ曩ノ公務員ニ通算セラレルトスレハ準教育職員在職中ト雖モ原則トシテ恩給ヲ停止セラレヘキモノノ如クモ解セラレ疑義ヲ生ス
- 二、恩給法第四十二條第一項第四號ニ所謂「準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキ」トハ教諭心得ヨリ引續キ書記ニ轉シタル場合、或ハ准訓導ヨリ引續キ書記ニ轉シタル場合ヲモ包含セラレルルヤ
- 三、普通恩給ノ全額給與(或ハ差額停止)ヲ受ケツツアル中等學校ノ書記ヨリ改正法施行後教諭ニ轉シタル場合ニ於テモ改正法附則第十七條ノ「其ノ官職」中ニ包含セラレ引續キ恩給法第九十九條第一項ノ規則ニ依ルモノト解シ可然哉

●恩給法中疑義ノ件

○秘書課長通牒發秘四百六十號 昭和九年五月三日

全直轄部局

〔文會例〕

- 任官俸給令)ト同シク昇給ノ取扱ヲ爲スヘキモノト解シ候
- 2. (一)ノ後段ニ付テハ御見解ト少シク異リ恩給法第五十九條ノ二第四項ニ恩給ノ基礎在職年一年以上ナル場合ニハ適用ナキヲ以テ準本俸ヲ受ケルコト一年未滿ナル場合ニ於テモ其ノ準本俸ヲ一年分ニ換算スルコトナク月計算ニ依リ計算スヘキモノト被解候

●昭和八年法律第五十號附則第九條ニ關スル件

ル件

○會計課長移牒官會四十八號 昭和九年三月十三日

昭和八年法律第五十號附則第九條ニ規定スル「就職」ノ意義及就職ノ月ノ納金率ニ關シ内閣恩給局ヨリ別紙寫ノ通牒有之タルニ付爲念此段移牒ス

(別紙)

○内閣恩給局通牒發第十七號 昭和九年一月二十七日

昭和八年法律第五十號附則第九條ニ規定スル「就職」ノ意義及就職ノ月ノ納金率ニ付テハ今般左記ノ通決定致候條此段及通牒候也

記

- 一、改正法施行前ヨリ在職中ノ公務員カ改正法施行後(昭和九年四月一日以後)ニ退職シ退職ノ即日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シタル場合(即實質上ノ轉任ノ場合)ニハ附則第九條ノ適用アリトシ其ノ就職ノ月ハ從來ノ規定ニ依リ納金率トシ翌月ヨリ恩給法ノ改正第五十九條ノ新率ニ依リ納金セシムルコト
- 二、改正法施行後新ニ公務員ニ就職シ又ハ改正法施行前ヨリ在職者ニシテ退職ノ翌々日以後就職ノ者ニハ經過規定タル附則第九條ノ適用ナシ

豫テ内閣恩給局ニ對シ恩給法中疑義ノ件ニ關シ照會中ノ處別紙ノ通回答有之タルニ付爲念通牒ス

(別紙)

○秘書課長照會

恩給法中左記ノ點疑義有之ニ付何分ノ御回答相煩度

記

- 一、二以上ノ俸給(本俸、準俸給)ヲ併給セラルル場合ニ於テ各俸給ハ獨立性ヲ有シ各別ニ恩給法第五十九條ノ二ノ制限ヲ受ケヘキモノト解シ其中給與期間一年未滿ノモノアルトキハ同條第四項ノ適用アルモノト思料シ可然哉
- 二、今般圖書館職員令改正ニ依リ圖書館職員ノ俸給ニ關スル規定改正セラレタル處右ハ公立學校職員俸給令ニ準シテ定メラレタルモノナルヲ以テ其ノ恩給金額ヲ算出スル基礎俸給ニ付テハ昭和七年法律第十三號ニ準據シテ算定可然哉

○内閣恩給局回答

御來照ノ件(ハ御見解ノ通りニ候

(一)ニ付テハ左ノ區別ニ依ルヘキモノト了解致シ居リ候

- 1. 本俸及準本俸ハ共ニ別個ノ俸給ニシテ原則トシテ各別ニ恩給法第五十九條ノ二ノ制限ヲ受ケヘキコト御見解ノ通ナルモ準本俸ニ屬スル年功ニ因ル加俸ノ中一定年數以上其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケ居タルコトヲ條件トシテノミ給セラルル年功加俸(例ハ高等官官等俸給令十九)ハ其ノ實質ハ本俸ト相並ンテ給セラルルモノト其ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ判任文官ノ特別俸(判

〔文會例〕

ト解シ恩給法ノ改正第五十九條ニ依リ當然就職ノ月ヨリ新率ニヨリ納金セシムルコト

追テ改正法施行前ヨリ公務員トシテ在職スル者改正法施行後ニ俸給カ昇給シ若ハ増額セラレタル場合ニハ其ノ昇給若ハ増額ノ月ハ從來ノ規定ノ納金率ニ依リ納金セシム其ノ翌月ヨリ恩給法ノ改正第五十九條ノ新率ニ依リ納金セシムヘキモノナルニ付爲念申添候

●恩給法第五十九條ノ二第一項第二號ノ

「二年以上据置」ノ意義ニ關スル件

○秘書課長通牒官秘五十七號 昭和十年五月二十日

全直轄部局

恩給法第五十九條ノ二第一項第二號ノ「二年以上据置」ノ意義ニ關シ恩給局ヨリ別紙ノ通り通牒有之タルニ付御了知相成度

(別紙)

恩給法第五十九條ノ二ノ規定ニ依リ退職前ノ俸給額ヲ計算スル場合ニ於テ同條第一項第二號ノ「二年以上据置」ノ意義ヲ誤リ俸給額ヲ計算セラルル往々有之候處「二年以上据置」トハ前俸給ヲ受ケタル日ヨリ曆法ニ依リ計算シ滿二年間該俸給ヲ受ケ其ノ翌日以降ニ於テ昇給アリタル場合ヲ指稱スルモノニシテ例之左ノ履歴ニ於テハ昭和七年十二月十六日俸六十七圓ヲ受ケタル後昭和九年十二月十五日迄昇給セサルコトカ「二年以上据置」ニ該當スルヲ以テ其ノ翌十六日ニ昇給シタル(月俸七十圓)ハ「二年以上据置」ノ後爲サレタル昇給ト謂フニ該當シ右第一項第二號ノ適用ヲ受ケルモノニ有之候條此段及通牒候也

遺ア貴廳管下ノ關係ニハ貴廳ヨリ可然御通達方御取計相成度

履 歷 抄

左 記

昭和七年十二月十六日 月俸六十七圓ヲ給ス
昭和九年十二月十六日 月俸七十圓ヲ給ス
昭和十年三月二十二日 願ニ依リ本職ヲ免ス

改正恩給法附則第九條適用ニ關スル件(其ノ二)

○會計課長通牒東大會三十九號 昭和九年四月二十日

改正恩給法附則第九條ノ適用ニ關シ別紙甲號ノ通東京帝國大學會計課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答致シタルニ付爲念此段通牒ス

(別紙)

(甲號)

○東京帝國大學會計課長照會東大會第六十號 昭和九年三月二十四日
改正恩給法附則第九條ノ適用ニ關シ左記ノ點疑義相生シ候ニ付テハ至急何分ノ御指示ヲ得度及照會候

一、附則第九條ノ「俸給(又ハ給料)ハ昇給若ハ増額ノ直前ノ俸給額ヲ意味スル如キモ又本年三月三十一日現在ノ俸給額ヲ云フモノト解セラル其ノ何レニ依ルヘキカ

例 三月三十一日現在、本俸、講座給ノ總額四、三九〇圓ノ者
四月十日附兼擔(五四〇圓)ヲ解カレテ總額三、八五〇圓トナリ
更ニ四月二十日附分擔(四〇〇圓)ヲ命セラレテ總額四、二五〇圓トナル如キ場合アリ

〔文會例〕

(乙號)

○會計課長回答東大會三十九號 昭和九年四月二十日
三月二十四日附東大會第一六〇號ヲ以テ改正恩給法附則第九條適用ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ昭和九年四月一日以降ニ於ケル昇給若ハ増額直前ノ俸給(又ハ給料)額ノ謂ニ付左様御了知相成度此ノ段回答ス

改正恩給法附則第九條適用ニ關スル件(其ノ二)

○會計課長回答東大會七號 昭和九年五月十七日

四月二十三日付東大會第二六四號ヲ以テ改正恩給法附則第九條適用ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ何レモ増額ニ付昭和九年五月ヨリ恩給法第五十九條第一項ノ改正納金率ニヨリ御處理相成度此段回答ス

○東京帝國大學會計課長照會東大會第二百六十四號 昭和九年四月二十三日

改正恩給法附則第九條適用ニ關シ講座職務俸改定ノ場合左記ノ點疑義相生シ候ニ付テハ至急何分ノ御指示ヲ得度此段及照會候也

例 A 某教授ハ三月三十一日付行政法第二講座兼擔

本 俸 四、七四〇圓
講座兼擔 五四〇圓
命セララル然ルニ同第一講座ニ對シ別紙ノ通金千八十圓ニ改定ノ指合アリ

B 從來官職ナキ某氏ハ三月三十一日付教授ニ新任シ美學美術史第二講座兼擔ヲ命セララル(本俸 一、六五〇圓)然ルニ本講座ニ對シ

〔文會例〕

別紙ノ通改定ノ指合アリ
右ハ何レモ四月一日ヨリ増額セラレタルモノト解シ増額ノ翌月即チ五月ヨリ百分ノ二ノ恩給法納金ヲ納金セシムヘキヤ
又ハ「A」ノ場合ハ從來通百分ノ一ヲ納金セシムヘキヤ
(別紙一)
東大祕第一一號

東京帝國大學總長
其學醫學部及文學部ニ於ケル講座職務俸昭和九年四月ヨリ左ノ通改ム
昭和九年三月三十一日
文部大臣 齋藤 實

外科學第二講座 金千八十圓
美學美術史第二講座 金千八十圓

(別紙二)
東大祕第四號

東京帝國大學總長
其學法學部、醫學部、文學部ニ於ケル講座職務俸昭和九年四月ヨリ左ノ通改ム
昭和九年三月三十一日
文部大臣 齋藤 實

法學部 記

行政法第一講座 千八十圓
第十四章 賞給與 第一節 恩給

國際公法第一講座 千八十圓

醫學部

內科學第三講座 千八十圓

藥理學第二講座 千八十圓

文學部

宗教學宗教史講座 千八十圓

改正恩給法附則第九條適用ニ關スル件(其ノ三)

○會計課回答米工會十二號 昭和九年十月五日

九月十一日付ヲ以テ恩給法國庫納金率ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ同法附則第九條ニ基キ同施行令附則第四條第二號ニ準據シ本俸並ニ年功加俸共九年九月ヨリ恩給法第五十九條第一項ノ改正納金率ニ依リ御處理相成度此段回答ス

○米澤高等工業學校會計課照會 昭和九年九月十一日
當校々長八月三十一日付ヲ以テ年功加俸六百圓加賜相成候ニ付テハ右ニ對スル恩給法納金ニ關シ左記事項御指示相願度候

記

(イ)年功加俸ハ準俸給ニシテ(第四四條)第六十條ノ恩給基礎金額トナルヘキモノト存セラレ候

(ロ)故ニ九月ヨリ準俸給タル年功加俸ニ對シテモ百分ノ二ノ恩給納金ヲ要スルモノト被存候

(ハ)右ハ附則第九條ノ俸給増額セラレタルモノニ付恩給納金ハ本俸ノ勳

任俸給ヨリ百分ノ二、年功加俸ヨリ百分ノ二差引クモノニ候哉

●恩給法附則第十七條ノ字句ノ意義ニ關スル件

○秘書課長通牒官祕百二十二號 昭和九年八月二十四日 直轄全部局

昭和八年法律第五十號(改正恩給法)附則第十七條ニ規定スル「其ノ官職」ノ意義ニ關シ内閣恩給局ヨリ別紙ノ通り通牒有之タルニ付御了知相成度

昭和八年法律第五十號附則第十七條ニ規定スル「其ノ官職」ノ意義ニ付テハ左記各號毎ニ「其ノ官職」ヲ構成シ左記各號ノ中同一號ニ屬スル官職間ニ於テ轉官職シタル場合ハ「其ノ官職」ニ在職「スルモノト解シ左記各號ノ一ヨリ他ノ號ニ屬スル官職ニ轉シタルトキハ「其ノ官職」ニ在職」セザルモノト解スルコトニ局議決定致候ニ付テハ同條該當者ニシテ左記各號間ニ於テ轉官職アリタル場合ハ恩給法規則第三十條及第三十四條ノ例ニ依リ其ノ旨通牒相成度致度此段及通牒候也

追テ貴廳管下ノ關係廳ニハ貴廳ヨリ可然御通達方御取計相成度

左記

- 一、恩給法第十六條第三號ニ規定スル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員
- 二、前號ニ掲グルモノ以外ノ公立學校職員制ニ依ル教育職員
- 三、公立ノ圖書館職員
- 四、教官其ノ他教育事務從事ノ文官

〔文會例〕

五、前號ニ掲グルモノ以外ノ文官

六、軍人

七、恩給法第二十三條第一號ニ掲グル警察監獄職員

八、恩給法第二十三條第二號ニ掲グル警察監獄職員

九、恩給法第二十三條第三號ニ掲グル警察監獄職員

十、恩給法第二十四條第一號ニ掲グル待遇職員

十一、恩給法第二十四條第二號ニ掲グル待遇職員

十二乃至三十、恩給法施行令第十條各號ニ掲グル待遇職員(其ノ各號毎ニ「其ノ官職」ヲ構成ス)

三十一乃至三十七、恩給法施行令第十一條各號ニ掲グル待遇職員(其ノ各號毎ニ「其ノ官職」ヲ構成ス)

●恩給法附則第十七條ノ適用方ニ關スル件

○秘書課長通牒官祕六十號 昭和十一年五月二十八日 直轄全部局

昭和八年法律第五十號恩給法中改正法律附則第十七條ノ規定ニ依リ現ニ從前ノ規定ニ依リ恩給ノ差額停止ヲ受ケル公務員ノ俸給額ニ變動アリタル場合ノ通知方ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り内閣恩給局ヨリ通牒有之タルニ付御了知相成度

追テ爾後右該當者ニ對シ轉任、休職、退官、増俸又ハ職務俸増減御内申ノ際ハ内申書ニ右差額停止ヲ受ケ居ル旨必ス記載相成度致度

(別紙)

昭和八年法律第五十號恩給法中改正法律附則第十七條ノ規定ニ依リ現ニ從

〔文會例〕

ニ直接從事スル勤務(抄)

毒性化合物ノ研究又ハ製造ヲ爲ス場所ニシテ内閣恩給局長ノ特ニ指定スルモノ

二、危険ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接從事スル勤務

名	作業ノ場所及種類
東京及大阪衛生試験所 衛生試験所 府縣ノ港務部、臨時海檢所、臨時海檢所、臨時海檢所	研究室又ハ作業室ニ於ケル「コレラ」、「チフス」、「赤痢」、「傷寒」、「赤痢」、「傷寒」、「赤痢」等ノ各種細菌ノ研究及檢査作業
陸軍軍醫學校	防疫部ニ於ケル「コレラ」、「チフス」、「赤痢」等ノ各種細菌ノ研究及檢査作業
陸軍病院	病理試験室ニ於ケル「コレラ」、「チフス」、「赤痢」等ノ各種細菌ノ研究及檢査作業
陸軍軍醫學校	細菌室ニ於ケル「コレラ」、「チフス」、「赤痢」等ノ各種細菌ノ研究及檢査作業
海軍軍醫學校 海軍軍醫學校 要港部病院	防疫學教室又ハ病的檢査室ニ於ケル「コレラ」、「チフス」、「赤痢」等ノ各種細菌ノ研究及檢査作業

前ノ規定ニ依リ恩給ノ差額停止ヲ受ケル公務員ノ俸給額ニ變動アリタル場合之ヲ本屬廳ヨリ恩給支給廳(例ハ貯令局)ニ通知スベキヤ或ハ受給者本人ヨリ届出ヅベキヤニ關シ往々當局ニ照會有之候處受給者本人ヨリ届出ヅベキモノトセバ其ノ事實ノ眞否ヲ保シ難ク支給事務ニ支障ヲ來ス懼アルノミナラズ恩給法施行前ノ規定ニハ本屬廳ヨリ之ヲ通知スベキ者ヲ規定(例ハ大正十年閣令第八號公立學校職員退職料及遺族扶助料支給規則第十七條)スルモノアリ且恩給ノ差額停止ハ其ノ手續ニ於テ恩給法第五十八條第一項第一號ノ停止ト差異アルベキ理由ナキガ故ニ同號ノ停止手續ニ關スル恩給法規則第三十條及第三十四條ヨリ類推シテ考フルモ斯カル公務員ノ俸給ノ變動ハ總テ本屬廳ヨリ恩給支給廳ニ通知スルヲ相當ト被存候ニ付テハ將來ハ各廳共右ニ依リ漏ナク通知シテ支給事務ニ支障ヲ來サザル様致度貴廳管下ノ各廳(内地及外地ノ裁定官廳ニハ當局ヨリ通知濟)ニハ貴廳ヨリ可然通牒方御取計相成度及御依頼候也

●恩給法施行令第十七條第一項第一號ニ規定スル勤務指定ノ件(抄)

○内閣告示第二號 大正十三年四月二十六日

改正 昭和九年六月閣令第五號

恩給法施行令第十七條第一項第一號ニ規定スル勤務左ノ通定メ恩給法施行ノ日以後ノ勤務ニ付適用ス

- 一、左ノ場所ニ於テ有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣又ハ爆藥類ノ研究又ハ製造

傳染病研究所	實驗室、作業室又ハ附屬醫院ニ於ケル「ベスト」、「コレラ」、「發疹チフス」、「腸チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髄膜炎、赤痢、狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究、檢菌作業並ニ防疫液ノ製造
防疫調査所	實驗室又ハ作業室ニ於ケル狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究並ニ防疫液又ハ防疫液ノ製造

●恩給法施行令第二十四條ノ十二依ル恩給額算出ノ件

○秘書課長通課官百二十一號 昭和九年八月二十四日 全直轄部局

恩給法施行令第二十四條ノ十二依ル恩給額算出ノ件ニ關シ内閣恩給局ヨリ別紙ノ通り通牒有之タルニ付御了知相成度 (別紙)

恩給法施行令第二十四條ノ十二依ル恩給額算出ノ件

恩給法第五十九條ノ二第一項但書ニ規定スル一級昇給ノ場合ニ關スル同條第二項同施行令第二十四條ノ十並昭和七年法律第十三號及同法施行令ニ依リ恩給額ノ基礎タル俸給額ヲ算出スルニハ先ツ減俸後ノ俸給規程ニ依ル俸給又ハ級俸ニ恩給法施行令第二十四條ノ十ヲ適用シ然ル後右法律第十三號及同法施行令ノ還元規定ヲ適用スルコトニ局議決定致候條此段及通牒候也 (參照)

恩給法施行令第二十四條ノ十第三號ノ適用例

勅任官三級俸(一三二〇圓)ヲ二年以上給セラレ當日高等官ニ轉シ一六五

〔文會例〕

●恩給法施行令第二十四條ノ九第一項ノ規定ニ依リ納金ノ免除ヲ受クル者ノ範圍

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便官署ヲシテ年金及恩給ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件

○勅令第二十五號 明治四十三年三月十六日 改正 大正一四年第一二二號、昭和九年第三九五號

國庫ノ支辨ニ屬スル年金及恩給ノ支給ニ關スル事務ハ逓信省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東局、樺太廳及南洋廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一項給與金ノ支拂ニ關シテハ歳入金歳出金並歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔文會例〕

●從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件(其ノ一)

○内閣告示第五號 昭和八年十二月七日

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河並ニ其ノ接壤地帯ニ、昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間支那渤海ニ、昭和七年一月二十八日ヨリ同年六月二十五日ニ至ル期間前記地域ヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ戰鬥力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

●恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間

○内閣告示第二號 大正十二年十二月二十七日

恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間左ノ通動裁ヲ經テ國境警備及理蕃ノ加算ニ關スル件 大正十二年十月一日以後朝鮮ニ依ケル左ノ地ニ於テ國境警備ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル國境警備加算ヲ爲ス

(左記省略)

大正十二年十月一日以後臺灣ニ於ケル左ノ地ニ於テ理蕃ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル理蕃加算ヲ爲ス (左記省略)

○内閣告示第二號 昭和十一年三月十九日 義ニ勅裁ヲ經テ昭和八年十二月七日内閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河並ニ其ノ接壤地帯ニ在リテ戰鬥力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ノ地域ハ昭和九年四月一日以後

●從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件(其ノ二)

○内閣告示第二號 昭和十一年三月十九日 義ニ勅裁ヲ經テ昭和八年十二月七日内閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河並ニ其ノ接壤地帯ニ在リテ戰鬥力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ノ地域ハ昭和九年四月一日以後

昭和十年十一月三十日迄ハ之ヲ整理、龍鎮、通北、海倫、望奎、綏化、呼蘭、阿城、雙城(哈爾濱新京間鐵道沿線以西ヲ除ク)、榆樹、舒蘭、永吉、磐石、伊通(滿鐵本線沿線以西ヲ除ク)、西安、東豐、清原、興京、桓仁、寬甸ノ各縣ヲ連メル地域以東ノ滿洲トス昭和十年十二月以後ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

昭和十年四月一日ヨリ同年十一月三十日ニ至ル期間熱河ニ在リテ戰鬥力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和九年四月一日以後滿洲、其ノ沿海、東內蒙古及熱河(此ノ地域中前二項ニ依リテ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲サル部分ニ就テハ右加算ヲ爲サル期間其ノ部分ヲ除ク)ニ在リテ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

●擾亂地勤務加算ニ關スル件(其ノ三)

○內閣告示第六號 昭和十二年十一月五日
昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河(此ノ地域中昭和十一年內閣告示第二號ニ依リ外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲サル期間其ノ部分ヲ除ク)ニ在リテ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

●從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件(其ノ四)

○內閣告示第四號 昭和十三年六月十六日

〔文會例〕

〔文會例〕

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及職務ノ範圍並ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ趣動裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

第一 滿洲事件

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河並ニ其ノ接壤地帯ニ在リテ戰鬥力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ノ地域ハ昭和十年十二月一日以後ハ之ヲ撫遠、同江、綏濱、蘿北、湯原、東興、木蘭、通河、鳳山樺川、富錦、饒河、寶清、依蘭、方正、延壽、賓、勃利、虎林、密山、東寧、穆稜、撫松、濛江、金川、柳河、興京、桓仁、通化、輯安及寬甸ノ各縣トシ此ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二號ノ規定ニ依リテ爲ス加算ハ昭和十年十一月三十日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和十一年內閣告示第二號及昭和十二年內閣告示第六號ヲ以テ告示シタル恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲ス外國擾亂地勤務ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

第二 支那事變

昭和十二年七月七日以後支那及其ノ沿海ニ在リテ戰鬥力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條

第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和十二年七月七日以後前項ノ地域以外ノ地域ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和十二年七月七日以後支那及其ノ沿海ニ、同日ヨリ昭和十二年十二月十九日ニ至ル期間承德ト赤峰トヲ連メル線以西ノ滿洲國熱河省ニ在リテ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

第一項、第二項及前項前段ノ加算ノ終期ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

●一時恩給受給者再就職ノ場合一時恩給返還等ニ關スル取扱規程

○大藏省令第二十五號 昭和八年九月二十七日

第一條 國庫負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合(以下單ニ再就職者ト稱ス)恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セスシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第八條ノ規定ニ依リ之ヲ取扱フ爲ス

第二條 再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給ノ返還ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ就職ト同時ニ勤務廳(又ハ之ニ相當スルモノ)ヲ經由シ本廳(以下單ニ就職官廳ト稱ス)ニ對シ履歷書二通其ノ他一時恩給金額ヲ確證スヘキ書類ヲ添ヘ一時恩給返還請書ヲ提出スヘシ

前項ノ一時恩給返還請書ニハ一時又ハ分割返還ノ意思表示ヲ爲スヘシ

第十四章 請給與 第一節 恩給

第三條 前條ノ書類ノ提出ヲ受ケタル就職官廳ハ其ノ履歷書一通ニ再就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添ヘ直ニ再就職者ノ受ケタル一時恩給ノ裁定官廳ニ送付スヘシ

前項ノ書類ヲ受ケタル裁定官廳ハ之ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還額ヲ算定シ就職官廳ニ通知スヘシ

第四條 就職官廳ハ第二條ノ規定ニ依リ再就職者ヨリ提出ニ係ル書類ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還金額ヲ算定シ再就職者ノ就職ノ翌ヨリ一年以内ニ適宜納付期限ヲ定メ一般會計歲入トシ徵收スヘシ但シ再就職者一時恩給ノ返還ヲ完了セスシテ退職シ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生スヘキ場合ニ在リテハ其ノ殘額ニ付テハ其ノ際一時ニ之ヲ徵收スヘシ

前項但書ノ規定ハ再就職者死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ遺族扶助料ヲ受クル者ニ付テハ適用ス

第五條 就職官廳ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル一時恩給返還金額ニシテ第三條第二項ノ規定ニ依リ裁定官廳ヨリノ通知ニ依ル金額ト相違アリタル場合ニ於テハ之カ更正ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ更正ヲ爲シタル爲徵收金額不足アルトキハ之ヲ追徵シ過納アルトキハ其ノ基ク所ノ計算書ヲ添ヘ還付ノ手續ヲ探ルヘシ但シ還付ヲ要スヘキ金額ヲ其ノ後ノ一時恩給返還金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第六條 再就職者一時恩給返還ヲ完了セスシテ轉官職其ノ他ノ事由ニ依リ就職官廳以外ノ官廳ニ勤務スルニ至リタルトキハ其ノ本廳(以下轉官官廳ト稱ス)ニ於テ其ノ殘額ニ付第四條、第五條ノ規定ニ準シ徵收又ハ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四章 請給與 第一節 恩給

前項ノ場合ニ於テハ就職官廳ハ轉官官廳ニ一時恩給返還ニ關スル一件書類ヲ引續クヘシ

第七條 再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ基キ一時恩給ノ返還ヲ爲シ失格原因ナクシテ退職又ハ死亡シタルモ普通恩給又ハ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ就職官廳又ハ轉官官廳ニ一時恩給返還金還付ノ請求ヲ爲スヘシ

就職官廳又ハ轉官官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ審査ノ上還付スヘキモノト認メタルトキハ一時恩給返還額ヲ證スヘキ書類及履歷書寫其ノ他ノ證據書類ヲ添ヘ之カ支持ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第八條 就職官廳又ハ轉官官廳ハ一時恩給返還整理簿ヲ備ヘ各返還者毎ニ一時恩給返還金額、分納期間、分納金額、納期日(場所)、領收濟額、領收未濟額其ノ他一時恩給返還ニ關シ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第九條 國庫以外ノ經濟負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給ヲ受ケルノ權利ヲ生セシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第五條及第八條ヲ準用ス但シ第二條中本屬處及第三條乃至第五條並第八條中就職官廳トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟、第四條中一般會計歲入トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟ノ歲入トス

前項ノ規定ニ依リ再就職者一時恩給ヲ負擔シタル經濟ニ第二條ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テハ其ノ就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添付スルコトヲ要ス第十條 再就職者一時恩給返還ヲ完了セシテ轉官職其ノ他ノ事由ニ依リ他官廳ニ勤務シ更ニ其ノ勤務廳ヲ變更スルニ至リタル場合ニ於テハ轉勤

前ノ官廳ハ其ノ旨當該一時恩給返還金ヲ收納スヘキ經濟ニ通知スヘシ但シ一時恩給返還金ヲ收納スヘキ經濟ニ轉シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ再就職者退職又ハ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 再就職者一時恩給ノ返還ヲ爲シ失格原因ナクシテ退職又ハ死亡シタルモ普通恩給又ハ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ退職前勤務シタル官廳ヲ經由シ一時恩給返還金ヲ收納シタル經濟ニ一時恩給返還金還付ノ請求ヲ爲スヘシ

第十二條 恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ再就職者ノ返還スヘキ一時恩給カ國庫以外ノ經濟ノ負擔シタルモノナルトキハ當該經濟ハ前三條ニ據ルノ外其ノ定ムル所ニ依リ徵收又ハ還付スヘシ

附則 本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●一時恩給又ハ一時扶助料請求ニ添付スヘキ履歷書證明ノ件

○秘書課長通牒官祕六十三號 昭和四年六月二十八日

一時恩給又ハ一時扶助料請求ニ際シ添付スヘキ公務員ノ履歷書證明方ニ關シ別紙ノ通内閣恩給局ヨリ通牒有之タルニ付自今右ニ依リ御取扱相成度此段移牒ス

(別紙)

○内閣恩給局通牒

一時恩給又ハ一時扶助料請求ニ際シ添付スヘキ公務員ノ履歷書ニハ單ニ最

〔文會例〕

〔文會例〕

後ノ在職ニ關スル事項ノミナラス其ノ以前ノ凡テノ在職事實ヲモ記載スヘキモノナル處之方嚴守ナキ爲最後ノ在職ニ對シ一時恩給ヲ受ケタル後更ニ其ノ以前ノ在職ト右最後ノ在職トノ合計ニ對シ年金恩給ヲ請求スル(即同一ノ退職ニ因リ一時恩給ト年金恩給トヲ併セ得ントス)ノ不法ヲ往々ニシテ發見スルコトアリテ審査上支障ヲ來シ候ニ付今後ハ履歷事項ノ次ニ他ニ公務員トシテ在職シタルコトナキ旨記載ヲ爲シタル上履歷事項ヲ證明セラルル様致度此ノ趣責應管下ノ履歷事項證明官廳ヘ夫々御通達相煩度特ニ及通牒候也

●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

ノ規定ニ依ル裁定要項通知書書式

○内閣訓令第一號 大正十二年十二月七日

改正 昭和七年第一號、八年第一號

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第七條ノ規定ニ依ル普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料並ニ第八條ノ規定ニ依ル恩給裁定ノ要項通知ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

附則 (昭和八年九月内閣訓令第一號)

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

裁定要項通知書	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	氏名	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	氏名
---------	------------------	----	------------------	----

第十四章 請給與 第一節 恩給

右通知ス 年月日 廳御中	事務廳		事務廳		事務廳		事務廳	
	在職年數	在職年數	在職年數	在職年數	在職年數	在職年數	在職年數	
	第 年	第 年	第 年	第 年	第 年	第 年	第 年	
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	
	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	
	證書又ハ裁定通 知書記號番號	證書又ハ裁定通 知書記號番號	證書又ハ裁定通 知書記號番號	證書又ハ裁定通 知書記號番號	證書又ハ裁定通 知書記號番號	證書又ハ裁定通 知書記號番號	證書又ハ裁定通 知書記號番號	
	恩給金額	恩給金額	恩給金額	恩給金額	恩給金額	恩給金額	恩給金額	
	事務廳	事務廳	事務廳	事務廳	事務廳	事務廳	事務廳	

(参考)

●外國政府ノ聘用ニ係ル官吏ノ在官年數並恩給停止ニ關スル件

○内閣書記官長通牒第十六號 明治三十九年十月二十日

司法 次官

在職官吏ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ニ聘セラレタル者ノ備中ノ期間ハ官吏恩給法ノ在官年數ニ通算シ其官吏受恩給者ナルトキハ備中ノ期間ニ恩給ヲ停止スルモノト閣議決定相成候條此段及通牒候也

●恩給請求ニ關スル書類進達上注意ノ件

○秘書課長通牒發給三百九號 昭和三年八月十八日

恩給請求ニ關シ書類不備ノ爲照復ヲ重メルコトヲ要スルモノ近來頗ル多キヲ加ヘ處理上支障不尠ニ付恩給請求書進達ニ際シテハ左記事項御留意ノ上書類ヲ整備セララル様致度

記

- 一 書類ハ恩給ノ種別ニ依リ恩給給與規則ニ掲グルモノヲ完備シ其ノ書式ヲ定メラレタルモノニ付テハ恩給給與規則別紙各書式ニ依ルコト
- 二 履歷書ニ付テ
 - 1 記事欄ニハ恩給法ニ定メラレタル公務員及之ニ準スヘキ者トシテノ官職ニ付其ノ任免、轉任、休職、復職、俸給(加俸共)ヲ曆年順ニ記載スルコト但シ官職名ニ依リ一見教育文官タルヲ否テハ判別シ難キモノニ在リテハ其ノ勤務ニ關スル事項ヲ記載スルコト
 - 2 學歷、銜位、敘勳、賞與等直接恩給規定上關係ナキ事項ハ之ヲ記載セサルコト但シ教員養成ヲ目的トスル官公立學校ノ入學、卒業又ハ

〔文會例〕

半途退學等ノ學歷ニシテ在職年關係ヲ明瞭ナラシムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

3 休職滿期ニ因リ自然退職ト爲リタルモノハ必ス「何年何月何日休職滿期」ト朱記スルコト

4 退官、退職及休職ニ關シテハ其ノ理由ヲ當該記事ノ下ニ朱記スルコト

5 一旦恩給、退職料、退官賜金、退職給與金等ヲ受ケタルモノハ其ノ事項ヲ必ス記載スルコト(金額ヲ明記スルコト)

6 恩給法第三十二條乃至第三十九條ニ依リ加算年アルモノハ加算年算定ノ基礎トナルヘキ事項ヲ明記スルコト

三 恩給權者未成年者ナルトキハ其ノ親權者又ハ後見人ヨリ請求スヘク尙後見人ヨリ請求スルモノニ在リテハ添付スヘキ戶籍簿本ハ戶籍法第十八條第十三號ノ手續ヲ了シタルモノナルコト

四 大正十二年十月一日以前退職シタル事項ニ關シテハ其ノ當時ノ辭表寫ヲ添付スルコト尙傷疾疾病ニ因ルモノナルトキハ醫師ノ診斷書寫ヲモ添付スヘキコト

五 履歷事項中他官衙等ニ關係アルモノハ當該官衙等ニ就キ其ノ正否ヲ確メ必ス其ノ回答書ヲ添付スルコト

六 恩給金額計算書ヲ添付セラルル向アルモ右ハ添付ノ要ナキコト

●普通恩給受給者ノ受給權調査ニ關スル件

○秘書課長通牒官給九號 昭和九年一月二十三日

普通恩給受給者ニシテ受給權調査ニ關シ恩給法施行令第一條ノ二第二項

〔文會例〕

右者當職ニ勤務シ恩給法第九條第一項第一號及第三號ニ該當セサルモノナルコトヲ證明候也

年 月 日

(身分進退ヲ取扱フ職ノ長官ノ)官職名 氏 名

ノ規定ニ依ル官職ノ證明方ニ付別紙ノ通内閣恩給局ヨリ通知有之タルヲ以テ此段通牒ス

(別紙)

○内閣恩給局通知恩發第十一號 昭和九年一月十九日

貴廳勤務中ノ當局裁定ニ係ル普通恩給受給者ニシテ受給權調査(恩給法第九條ノ二參照)ニ關シ恩給法施行令第一條ノ二第二項ノ規定ニ依リ貴廳ノ證明ヲ以テ同條第一項第一號ニ規定スル書類ニ代ヘ當局ノ承認ヲ得ントスルモノアルトキハ貴廳ニ於テ便宜別紙書式ニ依リ一括シテ奥書證明シ當局ニ御送付相成様致度此段及通知候也

追而貴廳管下ノ關係職ニハ貴廳ヨリ可然御通達方御取計相煩度

承認申請書

左記證明ヲ以テ昭和 年 月ニ提出スベキ恩給法施行令第一條ノ二第二項第一號ニ規定スル書類ニ代ヘ承認相成候條

年 月 日

- 普通恩給權者 氏 名
- 普通恩給權者 氏 名
- 普通恩給權者 氏 名

内閣恩給局長殿

證明

證書記號	香號	官	職	名	氏	名

●政府ヨリ恩給ヲ受クル者ニ召集中手當ヲ支給スルノ件

○勅令第七十九號 明治三十八年六月

政府ヨリ恩給ヲ受クル者戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレ恩給ヲ停止セラレタル場合ニ於テ其ノ俸給ノ額恩給ノ額ヨリ寡少ナルトキハ手當トシテ其ノ不足額ヲ支給ス

附則

本令ハ開戦ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

●陸軍ニ召集セラレタル者ニ明治三十八年勅令第七十九號ニ依リ手當支給ノ件

○陸軍省令第十一號 明治三十八年六月十四日

第一條 手當ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ノ寫ヲ添ヘ俸給支給應ニ届出ツヘシ

第二條 手當ハ俸給月額ト恩給年額十二分ノ一トヲ對比シ其ノ不足額ヲ毎月(管内居住ノ下士)ハ第三句)俸給支給ノ際俸給支給應ニ於テ之ヲ給ス

ノハ全額ヲ其ノ都度支給ス

第二條 年金ハ二分シテ毎年九月三月之ヲ支給ス

附則

第三條 東京學士會院年金支給規則ハ之ヲ廢止ス

第二節 官吏療治料、死傷手當

●官吏療治料給與ノ件

○勅令第八十號 明治二十五年九月二十七日

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス

但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受ケル者ノ療治料ハ其ノ府縣ノ負擔トス

●技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ件

○内閣書記官長通牒内閣送第二十六號 明治四十四年十一月二十七日

文部 次官

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通大藏次官ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通回答致置候間爲念及通牒候也(別紙)

(甲號)

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニハ明治十二年太政官達第四號ニ依リ埋葬料及遺族扶助料並ニ俸給令ニ依リ死亡賜金ヲ給與シ遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ受ケル權利ヲ有スルモノト認メ從來ヨリ當省ハ勿論各省共手當金給與ノコトニ取扱來候處今般別紙農商務次官ヨリ照會ニ依レハ獨リ農商務省ニ於テハ明治十七年以來太政官ノ指令ニ依リ療養料ノ外ハ支給セサルコトニ相成居候趣ナルカ右ハ今日ニ於テモ尙太政官指令ノ通支給不相成御趣旨ニ有之候哉別ニ明文モ無之疑義ニ涉リ候間理由共詳細承知致度此段及御照會候也

(乙號)

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

【文會例】

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ儀ニ付御照會ノ趣了承右ハ死傷手當ハ死亡賜金及遺族扶助料ト併給スヘキモノニ非ラスト存候此段及回答候也

●官吏療治料ニ付職務ノ爲傷疾ヲ受ケタル者ノ解釋ニ關スル件

○會計課長移牒 大正十五年七月六日

○大藏省主計局長通牒 大正十五年六月二十五日

官吏療治料ニ付職務ノ爲傷疾ヲ受ケタル者ノ解釋ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙ノ通通牒アリタルニ付此段移牒ス

官吏療治料ニ付職務ノ爲傷疾ヲ受ケタル者ノ解釋ニ關シ別紙甲號ノ通大藏省府秘書課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答致置候爲念此段及御通牒候也(別紙)

(別紙)

(甲號)

官吏出張中汽車其他乗物ニ事故發生ノ爲傷疾ヲ受ケタル場合(自己ノ過失ニアラス)ハ明治二十五年勅令第八十號ニ所謂職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタルモノトシ療治料實費ヲ支給シ差支ナキモノト被認候得共御意見承知致度右ハ差掛リ居ル件有之候ニ付至急御回示相成度及照會候也

(乙號)

尙右ハ出張往返中不應ノ災厄ニ依リ受ケタル傷疾ト雖職務ノタメ傷疾ヲ受ケタルモノト看做シ差支ナキヤ併セテ御回示相煩度

第三條 前條ノ俸給額ニハ諸加俸ヲ加算シ戰時給與規則ニ依ル増給ヲ算入セシ

第四條 陸軍懲罰令又ハ陸軍給與令ニ依リ俸給ヲ減給若ハ停止又ハ歸郷療養手當ヲ給スル場合ニ在リテモ前二條ニ依リ俸給額ト恩給額トヲ對比シテ手當ヲ支給ス

第五條 手當ハ留守宅ニ於テ之ヲ受領スルコトヲ得其ノ手續ハ留守宅渡俸給ノ例ニ依ル

●年金恩給支給規則

○逓信省令第九十二號 大正十二年十一月十日

改正 昭和三年第五號、一三年第五四號

第一章 總則

第一條 國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一、明治二十七年勅令第七十三號金礦勸業年金令ニ依ル給與金

二、大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金

三、特ニ賜與ニ保ル年金、恩給ノ給與金

第二條 前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス

第三條 繼續給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス但恩給ヲ受ケルノ權利消滅シタル場合又ハ年金ノ支給ヲ廢止セラレタル場合ニ於ケル給與金ニ付テハ支給期月及期日ニ拘ハラズ之ヲ支給ス一時限ノ給與金ノ支給ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

〔文會例〕

第四條 受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條 受給者轉居又ハ其ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第六條 代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ届書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章 繼續支給

第七條 繼續支給セラレヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作成シ之ヲ差出スヘシ但シ年金タル恩給ヲ受ケル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印届ヲ作製シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條 受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ

〔文會例〕

前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一様式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條 受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高並支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ニ對シ貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ兼テ貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金(月掛貯金ヲ除ク)ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ給與金ハ其ノ支給期毎ニ貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十一條 受給者振替預入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號並請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添へ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條 貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第十三條 前條ニ依リ保管證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ給與金ノ支給期毎ニ郵便貯金通帳ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ振替預入金ノ記入ヲ受ケヘシ

第十四條 受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル届書ニ保管證書ヲ添へ之ヲ貯金局ニ差出スヘシ

第十四章 諸給與 第一節 恩給

貯金局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十五條 受給者保管證書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ、之ヲ毀損シタルトキハ保管證書ヲ添へ貯金局ニ其ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得保管證書ノ再交付ヲ爲シタルトキハ從前ノ保管證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三章 一時支給

第十六條 一時限ノ給與金ヲ受ケル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第十七條 受給者前條ノ支給通知書ニ依リ給與金ヲ受領セムトスルトキハ裁定官廳ノ裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ支給郵便局ハ必要ニ依リ受給者ニ對シ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ作成シタル印鑑證明書ヲ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●帝國學士院年金支給規則

○文部省訓令號外 明治三十九年九月三日

帝國學士院

第一條 年金支給ノ初年度ニ於テハ其ノ發令九月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ十月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ年九月三十日以前ニ保ルモノハ半額ヲ十月一日以後ニ保ルモノ

ノハ全額ヲ其ノ都度支給ス

第二條 年金ハ二分シテ毎年九月三月之ヲ支給ス

附則

第三條 東京學士會院年金支給規則ハ之ヲ廢止ス

第二節 官吏療治料、死傷手當

●官吏療治料給與ノ件

○勅令第八十號 明治二十五年九月二十七日

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス

但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受ケル者ノ療治料ハ其ノ府縣ノ負擔トス

●技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ件

○内閣書記官長通牒内閣送第二十六號 明治四十四年十一月二十七日

文部 次官

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通大藏次官ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通回答致置候間爲念及通牒候也

(別紙)

(甲號)

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニハ明治十二年太政官達第四號ニ依リ埋葬料及遺族扶助料並ニ俸給令ニ依リ死亡賜金ヲ給與シ尙遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ受ケル權利ヲ有スルモノト認メ從來ヨリ當省ハ勿論各省共手當金給與ノコトニ取扱來候處今般別紙農商務次官ヨリノ照會ニ依レハ獨リ農商務省ニ於テハ明治十七年以來太政官ノ指令ニ依リ療養料ノ外ハ支給セサルコトニ相成居候趣ナルカ右ハ今日ニ於テモ尙太政官指令ノ通支給不相成御趣旨ニ有之候哉別ニ明文モ無之疑義ニ涉リ候間理由共詳細承知致度此段及御照會候也

(乙號)

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

【文會例】

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ儀ニ付御照會ノ趣了承右ハ死傷手當ハ死亡賜金及遺族扶助料ト併給スヘキモノニ非ラスト存候此段及回答候也

●官吏療治料ニ付職務ノ爲傷疾ヲ受ケタル者ノ解釋ニ關スル件

○會計課長移牒 大正十五年七月六日

○大藏省主計局長通牒 大正十五年六月二十五日

官吏療治料ニ付職務ノ爲傷疾ヲ受ケタル者ノ解釋ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙ノ通通牒アリタルニ付此段移牒ス

官吏療治料ニ付職務ノ爲傷疾ヲ受ケタル者ノ解釋ニ關シ別紙甲號ノ通臺灣總督府秘書課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答致置候爲念此段及御通牒候也

(別紙)

(甲號)

官吏出張中汽車其他乗物ニ事故發生ノ爲傷疾ヲ受ケタル場合(自己ノ過失ニアラス)ハ明治二十五年勅令第八十號ニ所謂職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタルモノトシ療治料實費ヲ支給シ差支ナキモノト被認候得共御意見承知致度右ハ差掛リ居ル件有之候ニ付至急御指示相成度及照會候也

(乙號)

尙右ハ出張往返中不應ノ災厄ニ依リ受ケタル傷疾ト雖職務ノタメ傷疾ヲ受ケタルモノト看做シ差支ナキヤ併セテ御指示相成度

一一〇五

本人ニ重大ナル過失ナク且私用ニ非シテ職務上ノ必要ニ依リ搭乘シタル
事明ナルトキハ療治料ヲ支給シ可然ト存候ヘ共其ノ他ノ出張滞在中又ハ往
還中不慮ノ災厄ニ依リ傷損ヲ受ケタル場合ニ於ケル療治料ノ給否ニ付テハ
更ニ事實ヲ具シ御照會相成候様致度省議ヲ經此段及御回答候也
追テ傷損ノ事實ニ付テハ現認證明又ハ事實證明ヲ以テ之ヲ明瞭ナラシム
ルコトニ致度申添候

●官吏公務ニヨリ傷損ヲ受ケ治療ノタメ他

ノ地ニ轉送スル場合ニ於ケル必要ナル費

用ヲ官吏療治料ヨリ支出ノ件

○會計課長通牒秋續會六號 大正十五年四月七日

直轄各部局長

官吏療治料支給ニ關スル甲號ノ照會ニ對シ大藏省主計局長ヨリ乙號ノ通牒
答有之タルニ付此段通知ス

(甲號)

○文部大臣官房會計課長照會 大正十五年二月二十七日

官吏職務ノ爲傷損ヲ受ケタル場合左記ノ費用ハ療治料トシテ支給差支無之
候承知致度此段照會ス

- 一、傷損ヲ受ケタル地ヨリ療治地(入院ノ爲)ニ至ル迄ノ往復鐵道賃、船賃、車馬賃、
- 一、入院ノ爲傷損地出發ノ日ヨリ入院前日迄並退院當日ヨリ在勤地ニ至ル日當及宿泊料

(乙號)

〔文會例〕

○大藏省主計局長回答會計第六六號 大正十五年三月二十二日
二月二十七日付秋續會六號ヲ以テ官吏療治料ノ支給方ニ關シ御照會ノ趣了
承右ハ傷損地又ハ在勤地ニ適當ノ病院ナク他ノ地ニ轉送スル場合ニ於テ其
ノ往返旅行ニ必要ナル費用ヲ官吏療治料ノ費途ヨリ支出セラルルハ差支ナ
キ候ト存候ヘ共當該費用ハ格別ノ事情ナキ限り本官相當ノ旅費額(定額ア
ルモノハ其ノ定額)ヲ超エサル範圍内ニ於テ總テ實費ヲ精算シテ支給スル
コトニ致度省議ヲ經此段及御回答候也

●官吏療治料ハ「雇員」囑託員ニモ給與ノ件

○次官裁定 大正八年三月三日

明治二十五年九月勅令第八十號ハ「雇員」囑託員ニモ準用ス

(注意)

一 雇員ハ昭和三年六月勅令第九號雇員扶助令ニ據ルコト

●官吏療治料支給方ノ件

○會計課長回答北大會十九號 昭和八年五月九日

四月二十五日付北大第三二〇號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ御照會ノ趣右ハ雇員
人(直接雇員ノ臨時雇員ヲ含ム)ニモ準用相成差支無之候ニ付右様御諒知相
成度此段回答ス

○北海道帝國大學總長照會 昭和八年四月二十五日

官吏療治料支給ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ大正十五年四月七日秋續會六號ヲ以テ通牒有之候處右ハ雇
員人(臨時雇員ヲ含ム)ノ傷損ヲ受ケタル場合ニ於テモ之ヲ適用致差支無之
候哉御意見承知致度此段及照會候也

〔文會例〕

(參考)

●官吏療治料ニ關スル件

○内務省會計課通牒兵會第九十一號 大正十四年四月九日
標記ノ件ニ關シ客年六月十二日議第三二號ヲ以テ及移譯シタル次第モ
有之候處右ハ獨リ試補ニ限ラス廣ク待遇官吏ニ付テハ明治二十五年勅
令第八十號ニ準シ取扱相成可然義ニ有之候條爲念

(參考)

●試補及囑託員ニシテ職務上傷損ヲ受ケタル場合

治料支給方ニ關スル件

○司法省會計課通牒第三十二號 大正十三年六月十二日

首題ノ件ニ關シ本月六日付大藏省主計局長ヨリ司法大臣官房會計課ノ
別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答ノ旨通牒有之候ニ付爲念及移譯候

(別紙)

(甲號)

○司法大臣官房會計課照會甲第四千四百九十三號

大正十二年十二月二十日

試補及囑託員ニシテ其ノ職務ノ爲傷損ヲ受ケタル者アル場合ニ於テ
ハ明治二十五年勅令第八十號ニ準シ實費ヲ以テ療治料ヲ支給シ差支
無之候哉右ハ差掛リタル件有之候ニ付至急御回答相成度及照會候也
追テ本文ノ件支出差支ナキ義ニ有之候ハハ官吏療治料ノ費途ヨリ
支出致度ト存候

(乙號)

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

●雇員扶助令

○勅令第九十九號 昭和三年六月九日

○大藏省主計局長回答會計第六千六百八十四號 大正十三年六月六日
客年十二月二十日付甲第四四九三號ヲ以テ試補及囑託員ニシテ職務上傷
損ヲ受ケタル場合療治料支給方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ前例モ有之候
條官吏ノ事務ニ從事スル者ニハ明治二十五年勅令第八十號ニ準シ療治料
ヲ支給シ差支無之省議ヲ經此段及御回答候也
追而官吏療治料ノ費途ヨリ支出方是又差支ナキ候ト存候

第一條 政府ハ其ノ使用スル雇員カ職務上傷損ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死
亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス扶助金ノ支給ヲ受ケ
キ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶
助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

扶助金ノ支給ハ雇員ヲ解職スルモ變更スルコトナシ

第二條 扶助金ハ療治料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料
ノ五種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一 療治料ハ傷損ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療
ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス

二 障害扶助料ハ傷損又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存
スル者ニ之ヲ支給ス

三 打切扶助料ハ療養ノ期間一年六月ヲ經過スルモ傷損又ハ疾病ノ治癒
セサル者ニ之ヲ支給ス

四 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ支給ス

五 葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得
 打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セズ
 雇員重大ナル過失ニ因リ傷喪ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ障害扶助料又ハ遺族扶助料ヲ支給セザルコトヲ得
 第三條 障害扶助料、打切扶助料又ハ遺族扶助料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ傷喪疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
 第四條 療治料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス
 障害扶助料ハ雇員ノ傷喪又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ雇員ノ死亡後遲滞ナク之ヲ拂渡スモノトス
 第五條 傷喪又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス
 第六條 本令ニ於テ遺族トハ死亡者ノ配偶者、子、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ死亡ノ當時之同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ
 第七條 遺族扶助料ハ前條ノ遺族ノ順位ニ依リ之ヲ支給ス
 前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ雇員ヲ被相続人トシタル家督相続ノ順位ニ準シ之ヲ定ム
 父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ實父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス
 兄弟姉妹ニ遺族扶助料ヲ支給スルハ其ノ者カ未成年又ハ不具癡疾ニシテ

〔文會例〕

生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限ル
 遺族扶助料ヲ支給スヘキ順位ニ在ル者行衛不明ナルトキハ遺族扶助料ハ其ノ次順位ニ在ル者ニ之ヲ支給ス
 第八條 雇員健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケヘキトキハ其ノ期間療治料ヲ支給セズ
 雇員ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ但シ葬祭料ノ額カ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 健康保險法第六十二條第一項(第二號ノ規定ヲ除ク)第二項又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セズ
 第九條 解職後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ解職前ニ又ハ解職後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル傷喪又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第十條 扶助金算出ノ標準タル俸給月額ハ加俸ヲ含マサル基本給トシ日給者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス
 朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋羣島ニ在勤スル内地人又ハ外國ニ在勤スル者ニシテ別ニ在勤加俸ヲ受ケサル者ニ在リテハ其ノ在勤地ニ於ケル判任文官ノ月俸ト在勤加俸トノ割合ヲ斟酌シ大藏大臣ノ定ムル金額ヲ酌量ノ金額ヨリ控除ス

〔文會例〕

第十一條 政府ヨリ給與金ヲ受ケル相互救濟ノ目的トスル組合ノ組合員タル現業雇員ニハ本令ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セズ
 組合員タル現業雇員組合ヨリ療治料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受ケヘキトキハ第八條及第九條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給付ヲ受ケヘキトキハ本令ニ依ル打切扶助料ハ之ヲ支給セズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 各廳技術工員ノ者就業上死傷手當内規、臺灣總督府雇員死傷傷喪疾病手當規則及朝鮮臺灣滿洲樺太並在外陸海軍雇員死傷手當金給與規則ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前給與原因ノ生シタル手當金ノ支給ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル
 明治四十年勅令第二百二十七號中第五條創設
 明治四十二年勅令第五百一十一號、大正八年勅令第八十號、同年勅令第三百六號、同年勅令第三百六十一號、大正九年勅令第五百十號、同年勅令第五百七十四號、大正十一年勅令第六十號及大正十四年勅令第二百十四號中各第五條ヲ削ル
 他ノ法令ニ於テ各廳技術工員ノ者就業上死傷手當内規、臺灣總督府雇員死傷傷喪疾病手當規則又ハ朝鮮臺灣滿洲樺太並在外陸海軍雇員死傷手當金給與規則トアルハ之ヲ本令トス
 職務上傷喪ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹レル雇員ニシテ本令施行ノ際仍治癒セザル者ニ對スル本令施行後ノ扶助ハ本令ニ依ル
 本令施行前治癒シタル職務上ノ傷喪又ハ疾病カ本令施行前再發シ本令施行ノ際仍治癒セザルトキ又ハ本令施行後再發シタルトキハ本令ヲ適用ス但シ

第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル扶助料及傷喪疾病手當金ハ之ヲ本令ニ依ル障害扶助料ト看做ス
 (別表)

種別	療治料	障害扶助料	
		終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ	終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ
打切扶助料	終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ	終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	俸給月額二十四分以下
		終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	俸給月額十六分以下
遺族扶助料	終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	俸給月額十六分以下
		終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	俸給月額十二分以下
葬祭料	終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	俸給月額二十分以下
		終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	俸給月額二十分以下

(參照)
 ○大正十一年法律第七十號健康保險法抄錄
 第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

- 一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ
- 二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

第六十二條第一項及第二項

保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

- 一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
- 二 本法施行區域外ニ在ルトキ
- 三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ
- 四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受ケル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險

給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

(參考)

● 雇員扶助令別表ニ規定スル扶助金額ノ範圍アルモノノ裁定ニ關スル件

○ 司法省會計課長通牒會甲第三千五百九十六號 昭和三年八月八日
標記ノ件ニ關シ今般大藏省主計局長ヨリ別紙ノ通内牒有之候間御了知相成度及通牒候也

(別紙)

○ 大藏省主計局長内牒設計第五百五十九號 昭和三年七月十七日
司法省會計課長

雇員扶助令別表ニ規定スル扶助金額ノ範圍アルモノノ裁定ニ關シテハ文官ノ恩給及傭人ノ扶助金ト彼是權衡ヲ得ル爲先ツ症狀ノ程度及原因ニ付別表ニ照準シ之ヲ勸導年數ノ長短及扶養家族ノ多寡其ノ他ノ事情ニ依リ勸令別表ノ範圍内ニ於テ相當増減斟酌シテ支給スルコトトシ以テ各省其ノ支給金額ニ付大差アル取扱ニ出テサルコトニ致度依命此段及御内牒候也

(別表)

扶助名稱	區	身體障害ノ程度	扶助金額	
	分		甲	乙

[文會例]

[文會例]

扶助名稱	區	分	身體障害ノ程度	扶助金額
障害 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ	同	同	恩給法施行令第二十四條特別項症程ノ者	俸給 二十九月分以上迄
				同 二十七月分以上迄
扶助 終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	同	同	同 第二項症程度ノ者	同 二十五月分以上迄
				同 二十七月分以上迄
扶助 終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	同	同	同 第三項症程度ノ者	同 二十二月分以上迄
				同 二十七月分以上迄
扶助 終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	同	同	同 第四項症程度ノ者	同 十九月分以上迄
				同 二十二月分以上迄
扶助 終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	同	同	同 第五項症程度ノ者	同 十三月分以上迄
				同 十四月分以上迄
扶助 終身業務ニ服スルコト能ハサルモノ	同	同	同 第六項症程度ノ者	同 十一月分以上迄
				同 十二月分以上迄
打切 身體ニ障害ヲ存スルト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ	同	同	恩給法施行令第三十一條第二款症程度以上ノ者	同 七、八月分以上迄
				同 六、五月分以上迄
扶助 身體ニ障害ヲ存スルト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ	同	同	同 第三、四款症程度ノ者	同 七、六月分以上迄
				同 五、四月分以上迄
扶助 身體ニ障害ヲ存スルト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ	同	同	同 第五、六款症程度ノ者	同 五、四、三月分以上迄
				同 四、三月分以上迄
扶助 身體ニ障害ヲ存スルト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ	同	同	同 第七、八款症程度ノ者	同 四、三月分以上迄
				同 三、二月分以上迄

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

療養ノ期間一年六月ヲ超過スルモ傷
痕又ハ疾病ノ治癒セサルモノ

考	備	遺	族		扶		助		料
			族	扶	助	料			
	一 本表ノ甲、乙区分ハ傷痕、疾病又ハ死亡ノ原因ニ付各省適宜之ヲ区分スルコト								同第九款症程度以下ノ者 恩給法施行令第二十四條第二項症程度以上ノ者 同第三、四項症程度ノ者 同條第五項症程度以下ノ者
	二 備人扶助令ノ扶助金ニ付細則ヲ設ケアル各省ニ付テハ本表ニ準シ適宜本表ノ区分ヲ爲スコトヲ得ルコト		同	同	同	同	同	同	同
			二十七月半以上迄	同	同	同	同	同	三 月分以上迄
			十九月分以上迄	同	同	同	同	同	四 月分以上迄
			二十月分以上迄	同	同	同	同	同	二十五月分以上迄
			十七月分以上迄	同	同	同	同	同	三十月分以上迄
			十八月分以上迄	同	同	同	同	同	三十四月分以上迄
			十七月半分以上迄	同	同	同	同	同	三十九月分以上迄
				同	同	同	同	同	二十四月分以上迄
				同	同	同	同	同	二十九月分以上迄
				同	同	同	同	同	三十三月分以上迄
				同	同	同	同	同	三十八月分以上迄
				同	同	同	同	同	三十九月分以上迄

●雇員扶助令第十條第二項ノ規定ニ依リ控
除スヘキ金額ニ關スル件

○大藏省告示第百二十二號 昭和三年六月九日

雇員扶助令第十條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル内地人タル雇員及外國ニ在勤スル雇員ニ付同條第一項ニ規定スル俸給中ヨリ控除スヘキ金額左ノ通之ヲ定ム

- 一 朝鮮在勤者 俸給ノ十六分ノ六
- 二 臺灣及樺太在勤者 同 十五分ノ五
- 三 關東州在勤者 同 七分ノ七

〔文會例〕

●雇員扶助料支給方ニ關スル件

○會計課長移譯 昭和四年三月二日

昭和三年七月十七日附議計第五五九號ヲ以テ大藏省主計局長ヨリ別紙ノ通

〔文會例〕

内課有之タルニ付此段移譯ス
〔別紙〕
○主計局長内課 昭和三年七月十七日
雇員扶助令別表ニ規定スル扶助金額ノ範圍アルモノノ規定ニ關シテハ文官ノ恩給及備人ノ扶助金ト被是權衡ヲ得ル爲先ツ症狀ノ程度及原因ニ付別表ニ照準シ之ヲ勤年數ノ長短及扶養家族ノ多寡其ノ他ノ事情ニ依リ勤令別表ノ範圍内ニ於テ相當増減酌シテ支給スルコトトシ以テ各省其ノ支給金額ニ付大差アル取扱ニ出テサルコトニ致度依命此段及御内課候也
〔參考〕

●雇員扶助令ニ依リ扶助金支給方ニ關スル解釋ノ件
○商工省會計課長通譯商會課第百四十二號

昭和四年二月十四日

雇員扶助令ニ依リ扶助金支給方ニ關スル解釋別紙ノ通御了知相成度此段及通譯候也

〔別紙〕

- 一 「扶助金ノ算算科目」ハ現ニ技術工藝ノ者等ノ死傷手當ノ支出科目タル各省諸支出金中ノ「死傷手當」ヨリ支出スルコト
- 二 第一條第三項ノ「變更スルコトナシ」トハ「變更ヲ要セサル葬祭料」ヲ含ム趣旨ナルコト
- 三 第一條第三項又ハ第九條ノ「解職」ニハ「職務上傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹レル以後ノ身分變更」ヲ含ム趣旨ナルコト
- 四 第二條第一項第一號ノ「療養ヲ要スル者」トハ「療養ヲ要スル者」第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

- 五 休業扶助料ヲ設ケサリシハ療養中ノ期間ハ解職セシテ引續キ俸給ヲ支給スルコト官吏ノ例ニ準シタルモノナルコト
- 六 療養ノ爲入院ノ場合ニ於ケル「病室ノ等級」ハ特別ノ事情アル場合ノ外人ノ移送ニ要スル「鐵道貨船貨ノ等級」ニ準スルコト
- 七 打切扶助料ノ支給時期ハ滿一年六月ノ療養期間(再發ノ場合ハ前後ヲ通算ス)ヲ經過シタルモノナルコトヲ要スルコト
- 八 打切扶助料ノ支給ハ「事實上ノ解職」ノ場合ニ限リ之ヲ支給スル趣旨ナルコト
- 九 第二條末項ノ「重大ナル過失」中ニハ「故意ヲ含ム」(但シ惡意アルコトヲ要ス)ノ趣旨ナルコト
- 十 第三條中ノ「死亡ノ原因」トハ「死亡ノ原因ノ狀況」ト解スヘキコト
- 十一 障害扶助料ヲ受ケタル者「再發死亡シタル場合」ハ之ニ「遺族扶助料」ヲモ支給スル趣旨ナルコト
- 十二 障害扶助料ヲ受ケタル「再發ノ後扶助ヲ打切ル場合」ハ之ニ「打切扶助料」ヲモ支給スル趣旨ナルコト
- 十三 第六條中ノ「死亡者ノ配偶者云々」トハ「死亡者死亡當時ノ配偶者云々」ト解スヘキコト
- 十四 第六條中ノ「同一戸籍内」ニハ殖民地又ハ外國ニ於ケル「之ニ準スヘキモノ」ヲ含ム趣旨ナルコト
- 十五 第七條末項ノ「行衛不明」ハ官廳ヲ中心トシテ定メ死亡當時タルコトヲ要スルコト

第十四章 請給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

- 十六 第八條第三項ハ診断ヲ忌避セラレタル傷病ノ爲メ再發シタル古キ職務上ノ傷病ニ對シ療養ノ一部ヲ給スルヤ否ヤニ付テハ「忌避セラレタル傷病ノ餘病(因果關係アルモノ)」ナルトキハ之ヲ療養セス「別途ノ傷病」ナルトキハ之ヲ別關係トシ取扱フコト
- 十七 第九條ノ規定ハ解職後職務上ノ傷病タリシコトヲ發見シタルモ在職中又ハ解職後ニ於テ療養ノ事實ナキ場合ハ他ノ扶助金ハ之ヲ支給スヘカラサル趣旨ナルコト
- 十八 第十條中ノ「俸給月額」ハ在職中ノ者ニ在リテハ「各扶助事項開始當時ノ俸給額」、解職後ニ於テハ「退職當時ノ俸給額」ニ依ルコト

●傭人扶助令

勅令第三百八十二號 大正七年十一月二十一日

- 第一條 政府ハ其ノ雇傭スル職工、傭夫其ノ他ノ傭人業務上ノ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金を支給ス
- 扶助金ノ支給ヲ受クヘキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス
- 扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ
- 第二條 扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス
- 一 療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス

〔支會例〕

- 二 休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサル者ニ之ヲ支給ス
- 三 障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス
- 四 打切扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ治癒セサル者ニ之ヲ支給ス
- 五 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族又ハ其ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス
- 六 葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ傭人死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得
- 打切扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依リ他ノ扶助金ハ之ヲ支給セス
- 傭人重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得
- 第三條 障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
- 第四條 療治料又ハ休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス
- 障害扶助料ハ傭人ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ傭人ノ死亡後遲滞ナク之ヲ拂渡スモノトス
- 第五條 負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定ム既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ

控除シテ之ヲ支給ス

- 第六條 遺族扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス
- 第六條ノ二 傭人健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ヲ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間療治料ハ之ヲ支給セス、健康保險法ニ依リ傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ
- 傭人ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ハ之ヲ支給セス但シ葬祭料ノ額カ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 健康保險法第六十二條第一項(第二號ヲ除ク)若ハ第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ療治料、休業扶助料又ハ葬祭料ハ之ヲ支給セス
- 第七條 負傷又ハ疾病カ傭人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セス
- 第八條 解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依リ扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得但シ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依リ保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテ工場法施行令第十六條第一項乃至第三項ノ規定ヲ準用ス
- 前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ主務官廳之ヲ定ム

第十四章 請給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

〔支會例〕

- 第十條 政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救済ノ目的トスル組合ノ組合員タル現業傭人ニハ本令ニ依リ障害扶助料及遺族扶助料ハ之ヲ支給セス
- 組合員タル現業傭人組合ヨリ療治料、休業扶助料及葬祭料ニ相當スル給付ヲ受クヘキトキハ第六條ノ二及第八條ノ規定ヲ準用シ打切扶助料ニ相當スル給付ヲ受クヘキトキハ本令ニ依リ打切扶助料ハ之ヲ支給セス

附則

本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際官費職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス

附則

(大正十五年勅令第二百三十九號)

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ官費治療ヲ受クル者又ハ從前ノ規定ニ依リ扶助金ヲ受クル者ニシテ本令施行ノ際引續キ官費治療又ハ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ハ本令施行後ハ本令ニ依ル、本令施行前ニ官費治療又ハ扶助金ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助金ヲ受クル者ニ對スル扶助ニ付亦同シ

附則

(昭和三年勅令第二百二十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹レル傭人ニシテ本令施行ノ際仍治癒セサル者ニ對スル本令施行後ノ扶助ハ本令ニ依ル

本令施行前治癒シタル業務上ノ負傷又ハ疾病カ本令施行前再發シ本令施行ノ際仍治癒セサル時又ハ本令施行後再發シタルトキハ再發ノトキマテ引續

キ履修スル備人ニ限リ本令ヲ適用ス
附則 (昭和十一年十二月勅令第四百十九號)

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受ケル者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受
ケルトキハ本令施行後ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スベシ
本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病ガ本令施行後再發シテ
扶助ヲ受ケルトキ亦同シ
(別表)

種別	療治料	實費	金額
療治料	病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキ 其ノ他ノ場合	一日ニ付賃金日額百分ノ六十	賃金五百四十日分以上 在リテハ四百三十日 以下ハ二百七十日 女子ニ在リテハ二百 十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
休業扶助料	一、終身自用ヲ辨ズルコト能ハザル者 二、終身勞務ニ服スルコト能ハザル者 三、從來ノ業務ニ服スルコト能ハザル者、健康ニ復スルコト能ハザル者又女子ニシテ其ノ外見ニ醜狀ヲ殘シタル者	賃金五百四十日分以上 在リテハ四百三十日 以下ハ二百七十日 女子ニ在リテハ二百 十圓ヲ下ルコトヲ得ズ	賃金三百六十日分以上 在リテハ二百八十日 以下ハ八十日 女子ニ在リテハ八十 日ヲ得ズ
陣替扶助料	一、療治料ハ手術料藥價繻帶雜品入院料及附添看護婦賃等如何ナル範圍マテ支給シ得ヘキ儀ニ有之候哉又入院料ヲ支給シ得ルトセハ等級ノ差異如何 二、治療ハ執レノ病院又ハ醫師ニテモ患者ノ選擇ニ任セ差支ナキヤ 三、療養ノ爲メ休業ノ者治療マテ長期ヲ要スル場合該期マテ「給助料」及治療料支給シ得ラレ候哉將タ第三條第一項後段ニ準シ中途解僱ノ精神ニ有之候哉 四、第五條ハ不具癩疾又ハ治療數月ヲ要スル見込ヲ以テ退業ノ者ニハ其ノ決定以後ニ於ケル療治料支給セサル儀ニシテ其ノ決定前ノ療治料ハ之レヲ支給スルノ精神ニ有之候哉	賃金百八十日分以上 在リテハ百五十日 以下ハ九十日 男子ニ在リテハ九十日 女子ニ在リテハ九十 日ヲ得ズ	賃金百八十日分以上 在リテハ百五十日 以下ハ九十日 男子ニ在リテハ九十日 女子ニ在リテハ九十 日ヲ得ズ

〔文會例〕

● 備人扶助料支給方ノ件
○ 會計課長回答 大正二年三月二十五日
二月十二日附大高第四一號ヲ以テ御照會相成候(官役職工人夫扶助令)ニ關スル件ハ左記ノ通御承知相成度此段及御回答候也
一、療治上必要ナル事項ニ對スル實費ハ全部給與スヘキモノナルモ治療ニ要スル諸般ノ程度ハ職工タル身令相應ニテ可然
二、法規上別段ノ制限ハナキモ患者ニ選擇セシメ承認ヲ與フルヤ若シクハ指定シ可然コトト被存候
三、支給スルコトヲ得
四、御意見ノ通り

種別	金額
打切扶助料	賃金四百日分以上 在リテハ三百二十日 以下ハ二百七十日 女子ニ在リテハ二百 十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
遺族扶助料	賃金四百日分以上 在リテハ三百二十日 以下ハ二百七十日 女子ニ在リテハ二百 十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
葬祭料	賃金三十日以上四十日 以下ハ三十日ヲ得ズ

○ 大阪高等工業學校 照會 大正二年二月十二日

〔官役職工人夫扶助令〕適用上不審ノ際有之左記事項ニ付御意見承知致度此段及照會候也

- 一、療治料ハ手術料藥價繻帶雜品入院料及附添看護婦賃等如何ナル範圍マテ支給シ得ヘキ儀ニ有之候哉又入院料ヲ支給シ得ルトセハ等級ノ差異如何
- 二、治療ハ執レノ病院又ハ醫師ニテモ患者ノ選擇ニ任セ差支ナキヤ
- 三、療養ノ爲メ休業ノ者治療マテ長期ヲ要スル場合該期マテ「給助料」及治療料支給シ得ラレ候哉將タ第三條第一項後段ニ準シ中途解僱ノ精神ニ有之候哉
- 四、第五條ハ不具癩疾又ハ治療數月ヲ要スル見込ヲ以テ退業ノ者ニハ其ノ決定以後ニ於ケル療治料支給セサル儀ニシテ其ノ決定前ノ療治料ハ之レヲ支給スルノ精神ニ有之候哉

● 臨時備人業務上ノ負傷ニ關スル件

○ 會計課長回答金工會五號 昭和八年六月八日
五月二十六日附金澤高工會第一二四號ヲ以テ貴校臨時備人業務上負傷ニ關スル件御照會ノ處右ハ備人扶助令適用ノ上扶助金支給相成差支無之此段同答ス
○ 金澤高等工業學校照會第百二十四號 昭和八年五月二十六日
本月六日學校ノ直督ヲ以テ電柱建替工事施行ノ爲學校直接ニ電工ヲ臨時備入レ保員指揮監督ノ下ニ工事實施中別紙擔當者ノ提出シタル公務負傷現認報告書ノ通り備人一名負傷セルニ意外ノ重傷ニテ直ニ金澤醫科大學附屬病院ニ入院引續キ治療中ニ有之就而備人扶助令等ノ適用ニヨリ何分ノ救済ヲ

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

要スト認メ候處就業ノ當日發生シタル事故ニ有之直接學校ニ於テ履修シタル者ナリト雖モ短期臨時備人ナル場合尙扶助令ヲ適用シ得ルヤ疑義有之至急何分御指示ヲ得度此段及照會候也
(別紙省略)

● 練習船乗組員寄港地ニ於ケル下船療養ノ件

○ 航海練習所長決定就座第二十三號 昭和十一年三月二十日
練習船海王丸第十三次航海ノ途次南洋「サイパン」寄港ノ際同船首席通信士囑託某、虫様突起炎ニ罹病、船内醫療設備ニテハ加療困難且開腹手術、絶對安靜ヲ要ストノ診斷ニテ動搖激シキ航海中在船治療ハ危險ヲ伴フコトト本人ヨリ下船療養ノ願出モアリ、航海ノ都合上出帆延期モ不可ナルニ付歸京ニ關シ左案施行相成可然
海王丸首席通信士囑託 某

昭和十一年二月十七日付下船療養ノ件許可ス
下船地南洋「サイパン」ヨリ三月三十一日迄ニ歸京スヘシ

● 傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル件

○ 法律第三十號 明治三十三年三月七日
第一條 判任以上ノ官吏ニ非スシテ傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者公務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本法ノ規定ニ依リ手當金ヲ給ス

第二節 手當金ハ左ノ四種トス

- 一 療治料
 - 二 給助料
 - 三 弔祭料
 - 四 遺族扶助料
- 第三節 病毒ニ感染シタル者ニハ療治料ヲ給ス感染患者治癒シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス
- 遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ヲ給ス
- 遺族中遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ノ順位ハ官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル
- 第四節 遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル給料ノ金額ニ應シ別表ニ依リ一時之ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ別表ノ範圍内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス
- 第五節 療治料ハ命令ノ定ムル區別ニ依リ一日三圓以内ヲ給ス給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス
- 弔祭料ハ月給一箇月分又ハ日給三十日分ニ相當スル金額ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ本屬長官適宜之ヲ給ス
- 第六節 手當金ハ國庫支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ國庫ノ負擔トシ府縣費支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ府縣ノ負擔トス
- 第七節 地方長官ハ市區町村ニ指示シ本法ノ規定ニ準シ其ノ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケシムルコトヲ得

〔文會例〕

●傳染病豫防救治ニ從事スル官吏準官吏及 備員ニ手當支給ノ件

(別表)

等級	給月	給遺族扶助料
一 等	二百圓以上	千圓
二 等	百六十圓以上	九百圓
三 等	百三十圓以上	八百圓
四 等	百圓以上	七百圓
五 等	八十圓以上	六百圓
六 等	七十圓以上	五百圓
七 等	六十圓以上	四百五十圓
八 等	五十圓以上	四百圓
九 等	四十圓以上	三百五十圓
十 等	三十圓以上	三百圓
十一 等	二十圓以上	二百五十圓
十二 等	十圓以上	二百圓
十三 等	十圓未滿	百圓

○勅令第七十一號 明治二十八年六月七日

改正 明治三十三年第一四〇號

傳染病豫防救治ニ從事スル官吏準官吏及備員ニシテ專ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ各其ノ俸給又ハ給料月額三分ノ一以内ノ月手當ヲ給スルコトヲ得

但府縣ノ收入ヨリ俸給又ハ給料ヲ受ケル官吏準官吏及備員ニシテ本官職ノ資格ヲ以テ從事スル者ニ給スル手當並ニ傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫員ト爲ル者ニ給スル手當ハ府縣ノ負擔トス

●傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ療治料ニ關スル件

○勅令第四百十一號 明治三十三年四月十一日

明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ハ給料ヲ受ケルモノニアリテハ其ノ給料額ニヨリ同法別表ノ等級ニ照シ一等乃至四等ノ者ニハ一日三圓五等乃至十二等ノ者ニハ一日二圓十三等ノ者ニハ一日一圓ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサルモノニアリテハ一日三圓以内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

●官吏公務上傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染又ハ死亡シタルトキ手當金給與方

○閣令第二十三號 明治十九年七月十三日

改正 明治三十三年第一四二號

官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

第十四章 諸給與 第二節 官吏療治料、死傷手當

〔文會例〕

- 一 手當金ヲ分チ弔祭料、救助料、療治料ノ三種トス
- 一 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 一 療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス
- 一 弔祭料ハ年俸十二分ノ一若ハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スルモノハ之ヲ給セス
- 一 救助料ヲ分テ二等トス
 - 一等 俸給五ヶ月分日給百五十日分
 - 二等 俸給三ヶ月分日給九十日分
- 一 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス
- 一 療治料ハ高等官ニハ一日三圓判任官ニハ一日二圓ヲ給ス

(參考)

●官吏公務上傳染病豫防ニ從事シ感染又ハ死亡ノ者 手當金給與手續

○内務省内訓第五百九十八號 明治十九年八月十九日

改正 明治三十年第四九五號

府 縣

傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者等へ手當金給與ノ儀ハ左ノ手續ニ依リ支給スヘシ

- 一 官吏〔準官吏〕ハ本年七月第二十三號閣令ニ依リ府縣ノ定額經費内ヨリ支給スヘシ
- 一 但高等官ニ係ルモノハ其都度具申スヘシ
- 一 該閣令ハ恩給令及一時賜金ノ法ニ拘ハラス特ニ其手當金ヲ支給

スルモノトス

- 一 【巡查看守ハ明治十五年七月第四十一號公達巡查看守給助例ニヨリ巡查ハ警察費ヨリ看守ハ監獄費ヨリ支給シ其感染死ニ至ラサル者ハ該閣令ニ據リ二年給助料ヲ支給スヘシ】
- 一 【但該給助例實施以前ニ在テ未ダ支給セサル者ハ明治八年第三號公達ニ依リ巡查ハ警察費看守ハ監獄費ヨリ支給スヘシ】
- 一 【該閣令以前ニ保ル者ニシテ給與未済ノモノハ此手續ニ據リ具申スヘシ】
- 一 【醫師檢疫掛看護夫人夫等ハ總テ明治十年十二月第八十九號公達ニヨリ地方稅中衛生費若クハ身分所屬ノ地方費ヨリ適宜支給スヘシ】

(參考)

●官吏公務上傳染病預防ニ從事シ感染又ハ死亡者 給與濟報告方

○内務書記官通牒檢甲第七十五號 明治十九年八月二十七日 廳 府 縣

傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者等ハ手當給與ノ儀ニ付本年閣令第五九八號ヲ訓令有之候ニ付テハ該訓令ニ依リ具申相成モノ竝ニ給與濟御報告ノモノハ左ノ廉々御附記相成度此段及御通知候也

追テ訓令第一項中廳府縣ノ定額經費内ヨリ支給シ云々ト有之候處右廳府縣ノ定額經費トハ官吏〔准官吏〕身分所屬ノ經費ヨリ支給スル義

(參考)

●傳染病豫防救治ニ從事スル官吏等ノ手當給與ニ關シ取扱方

○内務省臨時檢疫局庶務局通牒檢甲第五十六號 明治二十八年七月四日 廳 府 縣

訓第五三五號ヲ以テ本年勅令第七十一號ニ依リ手當支給方ノ儀ニ付訓令相成候處左ノ通御取扱相成度

- 一 勅令第七十一號ニ依リ國庫ヨリ支給スヘキ手當金ハ別途下付セラルヘキ旨ニ付其手當ヲ給スヘキ人員及給與額ヲ取調豫算ヲ定メ必要ニ臨ミ申請セラル、モノトス
- 一 但(明治十五年第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則)實施ノ地方ニ於テ閣令第五三五號ニ依リ其船舶檢査ニ從事ノ者ニ給與スヘキ人員及手當給與額ハ之ヲ別紙トナシ豫算ヲ定メ必要ニ臨ミ申請セラル、ヲ要ス
- 一 前項ノ手當金ハ(臨時檢疫部員)ノ次位ハ傳染病豫防救治従事者特別手當ノ(項)同一ノ目ヲ設ケ整理セラル、モノトス但(檢疫部)ヲ設置セサル地方ニ於テハ(臨時檢疫費ノ款)傳染病豫防救治従事者特別手當ノ(項)同一ノ目ヲ設ケ整理セラル、ヲ要ス
- 一 (明治十五年第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則)實施ノ地方ニ於テ第一項但書ニ依リ給スル手當金ハ(船舶檢査費)ノ次位ハ傳染病豫防救治従事者特別手當ノ(項)同一ノ目ヲ設ケ整理セラル、モノトス

右依命及通牒候也

ニ有之候條右様御了知相成度爲念此段申添候也

- 一 傳染病豫防檢疫等ノ職務ヲ命シタル辭令書ノ寫但辭令書ヲ附セサルモ當然其職務ニ從事セシモノアルトキハ其證左トナルヘキモノ
- 一 傳染セント認ムル場所竝ニ發病ノ狀況年月日(六種傳染病ノ種別ヲ記ス)及全治死亡等ノ年月日
- 一 擔當醫師ノ診斷書
- 一 該死者ニ依リ救助ヲ受クヘキ遺族ノ氏名年齢

(參考)

●傳染病豫防救治ニ從事スル官吏等ノ手當給與方

○内務省訓令第五百三十五號 明治二十八年七月四日

本年六月勅令第七十一號ニ據リ月手當ヲ給與スヘキ者ハ左ノ諸項ノ範圍ニ於テ特ニ病毒感染ノ虞アル劇務ニ服スル者ニ限ル義ト心得ラルヘシ

- 一 自ラ手ヲ下シテ傳染病患者又ハ病毒汚染ノ物品ヲ處置スルノ任務ニ在ル者ニシテ專ラ其事ニ當ルノ事實アルニ至リタルトキ
- 一 監督ノ任務ニ在ル者ト雖モ其職責上現場ニ臨ミテ患者又ハ病毒汚染ノ物品ニ關スル處置ヲ指揮監督スルノ事實アルニ至リタルトキ
- 一 前二項ニ該當スル者ト雖モ其職務ノ繁閑病毒ニ觸接スル危險ノ程度等ヲ斟酌シ手當ニ等差ヲ付スルモノトス

〔文會例〕

(參考)

●流行性感冒豫防救治ニ從事シタル者ニ手當支給ノ件

○内務省會計課長通牒官第九十八號 大正九年十月十三日 本省各局課 廳府縣

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通大藏省主計局長ヨリ通牒有之候條及通知候也(別紙)

- 大藏大臣請議官房祕甲第四十八號 大正九年三月三十日 流行性感冒ハ傳染病豫防法上ノ傳染病中ニハ之ヲ含マサルモ其惡性ニシテ而モ猛烈ナル傳染流行ノ實狀ニ徴シ之カ豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者ニ對シテハ明治十九年七月閣令第二十三號及明治三十三年法律第三十九號ニ所謂傳染病豫防救治ニ從事シタルモノト解シ手當ヲ給與スルコトニ致度 右閣議ヲ請フ
- 内閣總理大臣指令大甲第九十八號 大正九年五月十日 明治十九年閣令第二十三號、明治二十八年勅令第七十一號及明治三十三年法律第三十號ニ規定スル傳染病ニハ流行性感冒ヲモ包含スルモノト解シ取扱フヘシ

●官立病院看護婦見習生腸チフス患者看護
中傳染死亡者手當ハ「官役職工人夫扶助
令」ニ據リ支出ノ件

○文部次官裁定試會七號 明治四十一年三月三十日
當省所管醫術及藥劑師試驗附屬病院長ヨリ同院看護婦見習生ニシテ腸チフ
ス患者ノ看護ニ從事中該病者ニ感染シ遂ニ死亡シタルヲ以テ明治三十三年
法律第三十號ニ據リ之カ弔祭料及遺族扶助料第一豫備金ヨリ補充方申請有
之候處右法律第三十號ハ傳染病流行等ニ際シ之カ豫防救治ニ從事スル檢疫
委員及公吏等ヲ保護スルノ規定ニシテ普通病院ノ如キ偶々傳染病患者ヲ收
容シ之カ診療看護ニ從事中其ノ病者ニ感染シタルトスルモ之ヲ以テ直ニ此
ノ法律ニ所謂傳染病豫防救治ニ從事シタルモノトハ謂フヲ得サルモノト存
候從テ本件ノ如キハ該法律ノ適用ヲ受クヘキモノニ無之「明治四十年勅令
第百八十六號官役職工人夫扶助令」ニ據ルヘキモノト思考ス
(參照) 篤人扶助令(大正七年十一月勅令第三八二號)

●一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死
傷セシ者ノ弔祭扶助療治料支給方

○太政官達第六十七號 明治十五年十二月二十二日
警視廳 府縣 東京府 沖繩
(函館 札幌 根室) 四縣ヲ除ク
一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死傷セシ者弔祭扶助療治料支給方左ノ
通相定候條此旨相達候事

弔祭扶助療治料

- 一 弔祭料
重傷死ニ至ル者ヘ金三拾圓ヲ給ス親族故舊ナキモノハ戶長役場ニ付
シ便宜處分セシム
- 一 遺族扶助料
父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ヲナセシモノヘハ金五拾圓ヨリ
少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 一 傷痍扶助料
一等傷終身不具トナリ自用ヘ金六拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラ
サル額ヲ給ス
二等傷終身不具トナルモヘ金拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサ
ル額ヲ給ス
- 一 療治料
傷痍ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

●供給勞働者扶助令

○勅令第二號 昭和七年一月八日
工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ職工及鑛夫並ニ勞働者災害扶助法
ノ適用ヲ受クル事業ノ勞働者ニシテ勞務供給契約ニ基キ政府ノ使用スル者
業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ政府ハ勞働者災害扶
助法施行令第四條乃至第十二條及第十五條乃至第十七條ノ規定ニ準シ扶助
ヲ爲ス但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタ
ルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ地方長官ニ屬スル職務ハ所轄官廳之ヲ行フ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔文會例〕

○大藏省令第九號 昭和七年六月二十日
第一條 政府ハ昭和七年法律第七號ニ依リ五分利公債ヲ發行ス
第二條 本公債ノ額面金額ハ二十五圓五十圓百圓五百圓千圓五千圓及一萬
圓ノ七種トス
第三條 本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五年据置キ其ノ翌年ヨリ五十年内ニ
額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス
第四條 本公債ノ利率ハ年五分トシ賜金又ハ手當ノ給與發令ノ日ヨリ之ヲ
附ス
第五條 本公債ノ交付價格ハ額面金額百圓ニ付八十六圓八十錢トス
第六條 特別ノ賜金又ハ手當ノ給與發令日附ノ異ナル毎ニ別紙トシ受給者
ノ氏名別内譯書(書式第二號)及取扱官吏印鑑二通ヲ添付スヘシ
請求官廳ハ本公債ニ關スル取扱官吏ヲ定メ所管各省ヲ經由シテ豫メ之ヲ
大藏省ニ通知スヘシ

●行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シ
タル者等ニ交付スル公債ノ發行交付ニ關
スル規程

○大藏省令第九號 昭和七年六月二十日
第一條 政府ハ昭和七年法律第七號ニ依リ五分利公債ヲ發行ス
第二條 本公債ノ額面金額ハ二十五圓五十圓百圓五百圓千圓五千圓及一萬
圓ノ七種トス
第三條 本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五年据置キ其ノ翌年ヨリ五十年内ニ
額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス
第四條 本公債ノ利率ハ年五分トシ賜金又ハ手當ノ給與發令ノ日ヨリ之ヲ
附ス
第五條 本公債ノ交付價格ハ額面金額百圓ニ付八十六圓八十錢トス
第六條 特別ノ賜金又ハ手當ノ給與發令日附ノ異ナル毎ニ別紙トシ受給者
ノ氏名別内譯書(書式第二號)及取扱官吏印鑑二通ヲ添付スヘシ
請求官廳ハ本公債ニ關スル取扱官吏ヲ定メ所管各省ヲ經由シテ豫メ之ヲ
大藏省ニ通知スヘシ

第七條 大藏省前條ノ規定ニ依リ公債發行ノ請求ヲ受ケタルトキハ公債交
付通知書(書式第三號)ヲ所管各省ヲ經由シテ請求官廳ニ交付ス
第八條 前條ノ規定ニ依リ公債交付通知書ノ交付ヲ受ケタル官廳ハ其ノ領
收證欄ニ所定ノ記入ヲ爲シ日本銀行ニ提出シ之ト引換ニ公債ヲ受領スヘ
シ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(書式第一號省略)

第三節 諸手當

●年額又八月額手當支給方

○大蔵省令第一號 明治二十二年一月二十六日
 年額又八月額ノ手當金ハ毎月ノ年額ノモノハ〔末日時ハ繰上ケ〕之ヲ支給シ任
 轉免等ノ場合ハ其ノ月ノ現日數ニ由リ日割ヲ以テ計算ス
 但明治十六年當省達第五十七號ハ廢止ス

(注意)
 明治二六年勅令第七號備員俸給及備員其他ニ給スル諸手當支給方ノ件
 ニ依リ月額ヲ以テ支給スルモノハ毎月下旬ニ之ヲ支給スルコトヲ得ル
 コトハナル

●手當金支給差止

○文部大臣内訓 明治二十一年四月七日
 當省部内就職ノ者ヘ事項囑託ノ廉ヲ以テ手當金交付ノ儀ハ不相成儀ト心得
 ヘシ

●業務、囑託、委員各手當廢止整理ノ件

○秘書課長通牒 明治三十八年三月六日
 ○内閣書記官長通牒(閣議決定) 明治三十六年十月十九日
 兼務手當廢止ノ件
 兼任又ハ當然充當セラレタル官吏ニ之カ爲メ手當ヲ給スルコトヲ得ス

第十四章 諸給與 第三節 諸手當

本決定ハ明治三十七年度ヨリ之ヲ施行ス

囑託手當整理ノ件

官吏ニ本務以外ノ事務ヲ囑託シタル場合ニ於テ之カ爲メ手當ヲ給スルコト
 ヲ得ス但シ教職及特種ノ技術ニ關スルモノハ此ノ限リニ在ラス
 本決定ハ明治三十七年度ヨリ之ヲ施行ス

委員手當整理ノ件

一 各種ノ委員及其ノ附屬員ニ給スル手當ハ官吏ニハ之ヲ給スルコトヲ得
 ス
 一 試驗其他特ニ煩劇ナル事務ニ從事スル委員及附屬員ヲ命セラレタル官
 吏ニハ前項ニ拘ハラス特ニ手當ヲ給スルコトヲ得
 一 前項ニ依リ手當ヲ給スルヲ得ル者ノ種類及其給與額ノ最高限度ハ閣議
 ヲ以テ之ヲ定ム

●各種調査會委員會等ノ職員並關係官タル

高等官ニ支給スル手當ニ關スル件

○秘書課長移牒閣四十六號 昭和八年十一月十四日
 ○内閣書記官長通牒内閣閣甲第六十二號 昭和八年十一月九日
 各種調査會委員會等ノ職員並關係官タル高等官ニ支給スル手當ニ關シ内閣
 書記官長ヨリ別紙ノ通り通牒有之タルニ付御了知ノ上手當金給與ノ御上申
 ニ際シテハ右ニ依ラルル様致度
 (別紙)
 標記ノ件ニ付十一月二日次官會議ノ申合ニ基キ左ノ通決定相成候條此
 段及通牒候

- 記
- 一、各種調査委員會其ノ他名稱ノ如何ニ拘ラス其ノ職員タル高等官ニ支給スル手當ハ昭和七年度支給額ノ七割以下トス但シ三百圓ヲ超ユルヲ得ス
 - 二、警備府財局參與、同事務官、社會局參與、選信省事務官（選信省官制ニ依ルモノ）、貿易局參與ノ類ニ支給スル手當ニ付テモ前項ニ準ス
 - 三、高等官ニシテ各種調査委員會等ノ關係官タル者ニ支給スル手當ニ付テモ亦第一項ニ準ス但シ關係官ノ範圍ハ嚴選シ濫ニ涉ラサルヲ要ス
 - 四、前各項ニ據リ難キ場合ハ内閣ニ協議スルモノトス

- 六、昭和七年度ノ支給額ハ如何ニ少額ナルモ七割ノ制限ヲ適用スルヤ
- 七、昭和七年度ノ支給額如何ニ多額ナルモ七割迄許スヤ
- 八、七割以下制限トハ各個人ニ付テノ制限ニテ手當ノ支出總額ニ付テノ制限ニ非スト解シ然ルヘキヤ
- 九、昭和七年度ニ於テ普通委員トシテ會議ニ一回出席シ手當百圓ヲ受ケタルモノハ八年度ニ於テハ主査委員トナリタル爲出席回数増加スルト共ニ勤勞ノ程度ニ於テ著シク増加シ居ルニ普通委員百圓ノ七割七十圓ヲ受ケルコトトナルモ可ナリヤ

設	問	答
一、各種試験委員ヲ包含スルヤ	包含ス	包含ス
二、懲戒委員會、分限委員會ヲ包含スルヤ	包含ス	包含ス
三、審議會、審査會、評議會等モ亦包含スルヤ	包含ス	包含ス
四、會長、副會長、總裁、副總裁、議長、議員、評議員、幹事長ノ類ヲ包含スルヤ	包含ス	包含ス
五、法律、勅令、省令、閣議決定、省限決定等根據ノ如何ニ拘ラス包含スルヤ	包含ス	包含ス

極メテ少額ナルモノニ付テハ適用セサルモ可ナリ
 （此ノ場合決定第四項ニ依ル内閣ノ協議ヲ要セス）
 決定第一項但書ニ依リ三百圓ヲ超ユルヲ得サルモ特殊ノモノニ付テハ決定第四項ニ依リ内閣ノ協議ヲ經テ前年支給額ノ七割迄ハ支給シ得ヘシ各個人ニ付テノ制限ナリ

前項ニ同シ

【文會例】

ノ待遇官吏ヲ含ムトセハ判任官ニシテ高等官待遇タル者ヲ包含スルヤ

●日本文化講義手當等計算方ニ關スル件

- 文部省思想局長通牒發思八十七號 昭和十一年七月二十二日
- 標記ノ件ニ關シテハ別記ノ標準ニ依リ夫々計算致スコトトシ別途通牒ノ實施要綱ニ從ヒ豫算書作成ノ上講義計畫書ト共ニ思想局長宛御提出相成度此段及通牒
- 記
- 一 日本文化講義ノ謝禮ハ一時間十五圓以内ノ講義手當ニ「内國旅費規則」並「内國旅費規則ニ依ル鐵道貨船賃」ニ準シタル旅費、日當、宿泊料ヲ含メタルモノトスルコト
 - 官等ナキ者ニ付テハ右ニ準ジテ計算スルコト（親任官ノ取扱ヲ要スヘキ者ニ付テモ右ニ依ル相當額ノ支出差支ヘナキコト）
 - 二 一校ニテ支出スヘキ謝禮ハ一定ノ講義手當、講師ノ任地若クハ住所地ヨリ其校所在地迄ノ船車馬賃（往復）、講師ノ任地若クハ住所出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄ノ日數ニ依ル日當、日當ヲ支拂フヘキ日數ヨリ一日少ナキ夜數ノ宿泊料トヲ含メタルモノトスルコト
 - 三 前記ノ謝禮ニ端數ヲ生シタルトキハ圓位ニ止ムルコト
 - 四 速記者ニ支拂フヘキ速記料ハ一時間七圓以内トス、但地方ノ狀況ニ

- ナリシ爲ソレニ應シタル手當ヲ支給シタル處本年ハ勤務一年ナルニモ拘ラス前年支給額ノ七割以内ヲ支給スルヤ
- 一、調査會自體ノ關係ニ於テモ前年度ニ於テハ審議事項少カリシカハ八年度ニ入り諮問案又ハ會議事項ノ増加シタルモノアルヘシ此ノ場合ニ於テハ普通増額スヘキモノナル處逆ニ前年度ノ七割ト爲シ減額スルコトハ將來ノ會議事務運用上圓滑ヲ缺クコトナキカ
 - 二、今年度ヨリ新ニ調査會委員等ノ職員トナリタルモノノ手當ハ如何、三百圓以内ノ額ニ於テ適宜支給スルモノト解シ然ルヘキヤ
 - 一三、高等官中ニハ奏任待遇以上ノ待遇官吏ヲ包含スルヤ
 - 一四、高等官中ニ奏任待遇以上

前二項ノ趣旨ニ依リ支給セハ會議事務運用上圓滑ヲ缺クコトナカルヘシ

三百圓以内ニシテ同様ノ勤務アリシ者ニ前年支給シタル額ノ七割以内額ニ於テ適宜支給シ然ルヘシ

包含ス

包含ス

包含セス

依リ右ノ標準ニ據リ難キ場合ハ豫メ本省ニ合議スルコト

●【雜給】支辨ノ囑託員ノ進退ニ關スル件

○秘書課長通牒官第百三十一號 大正九年八月二十五日

直轄各部長

【雜給】支辨ノ囑託員ノ月手當金八十五圓以下ノ者ノ進退ニ關シテハ雇員ニ準シ貴官限リ專行サレテ差支アリマセン

●官立大學附屬專門部教官ニシテ官立醫科大學附屬醫院ノ醫員ヲ命セラレタル者ニ

手當給與ノ件

○勅令第四百十六號 大正十一年三月三十一日

官立醫科大學附屬專門部教官ニシテ官立醫科大學附屬醫院ノ醫員ヲ命セラレタル者ニハ當該官立醫科大學病院費ヨリ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●囑託者死亡ノ場合ニ手當支給方ノ件

○會計課長通牒 大正十一年十一月三日

囑託者死亡ノ場合ニ於テ往々月手當全月分ヲ支給セル向モ有之趣ニ候（共右ハ日割計算ヲ以テ支給ス）キ儀ト御了知相成度爲念此段申進候也

●外國人教師身分取扱方ニ關スル件

○秘書課長通牒發會第百九號 明治四十年八月十日

從來囑託ノ外國人教師ハ當初經何ノ上囑託ヲナシ次年度ニ於テモ其ノ囑託ヲ持續スルノ必要アルトキハ別ニ經何ノ手續ヲ要セザリシモ今般算施行上必要相生シ候ニ付右ノ場合ニ於テハ自今各年度毎ニ更ニ經何ノ手續相成度依命此段及通牒候也

●外國人教師名稱ヲ「備外國人教師」又ハ「外國人講師」ト稱スルノ件

○秘書課長通牒發會第百三十五號 大正十年三月四日

直轄各部長

帝國大學、官立大學及直轄諸學校ノ外國人教師ノ名稱ハ從來契約ニ依ル者ハ教師、備教師、外國教師、備外國教師、備外國人教師等又臨時囑託ノ者ハ講師、囑託講師、外國講師等何レモ區々ナルヲ以テ爾今契約ニ依ル者ハ「備外國人教師」臨時囑託ノ者ハ「外國人講師」ト稱スルコトニ決定シタルニ付御了知相成度

●備外國人受持時間外授業手當ノ件

○文部大臣訓令 明治十九年十月七日

備外國人教師ヲシテ通常授業受持時間外ニ於テ授業セシムルモ條約授業時間ヲ超過セサルトキハ別ニ報酬金ヲ贈與スヘカラス

●囑託講師ニシテ豫備ノ軍籍ニ在ル者召集中手當金補給相成ラサル件

○會計課長回答 明治二十八年二月十九日

○第四高等【中】學校長伺 明治二十七年八月十四日

囑託講師ニシテ豫備ノ軍籍ニ在ル者召集中ハ特ニ解囑不致其ノ手當金ノ儀ハ本官俸給額ニ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ノミヲ補給致度旨第四高等【中】學校長ヨリ伺出ノ處右ハ本官ニアラサルニ付明治二十四年勅令第四百六十二號（豫備後備ノ軍籍ニアル文官召集中俸給支給方）ニ依リ不足額補給ノ限ニアラサル旨回答アリ―注意参照

（注意）

本件ハ其ノ後ニ於テ補給可然ト省議變更相成タリ、同原議ハ震災ニテ燒燬セリ

●帝國大學、官立大學、高等師範學校及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件

○勅令第九十六號 明治二十六年九月十一日

帝國大學、官立大學、高等師範學校及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキ帝國大學總長、官立大學長、高等師範學校長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

【文會例】

●學校配屬將校生徒監督等服務ニ付手當支給ニ關スル件

支給ニ關スル件

○文部次官通牒官第百三十五號 昭和二年二月一日

今般標記ノ件ニ關シ別紙ノ通牒軍省ヨリ各軍部ニ通牒有之タルニ付其ノ旨御了知ノ上可然御措置相成度

（別紙）

學校配屬將校其ノ本務以外ニ於テ生徒監督等ヲ囑託セラレタル場合ニ於テ囑託者ヨリ之ニ對シ手當等ヲ支給シ度何有之ヤニ聞及ヒアリ此ノ種ノ手當ハ成ルヘク之ヲ受ケサルヲ可トスルモ若シ特ニ之ヲ受ケルヲ適當トスル場合ニ於テハ正規ノ手續（官吏服務紀律及大正二年陸普第一、三五八號參照）ヲ經テ之ヲ受ケルモ差支無之儀ニ付爲念通牒ス

●交通至難ノ場所ニ在動スル職員ニ手當給與ノ件

○勅令第四百五號 大正九年九月十六日

改正 大正一〇年第三〇號、一一年第一二四號、昭和九年第三九五號、一二年第六八五號

交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在動スル職員ニハ月額四十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ千島國幌廷島ニ在動スル職員ニ限リ月額百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

前項ノ交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ノ指定及手當ノ給與ニ關スル細則ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ

在リテハ臺灣總督、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

- 明治三十年勅令第二百四十六號
- 明治三十一年勅令第三百五十八號
- 明治三十二年勅令第二百十八號
- 明治三十三年勅令第七十七號
- 明治三十四年勅令第六十四號
- 明治三十五年勅令第五十三號
- 明治四十一年勅令第二百二十號
- 明治四十一年勅令第二百六十一號
- 明治四十二年勅令第二百十六號
- 明治四十二年勅令第三百十六號
- 明治四十三年勅令第三百八十八號
- 明治四十五年勅令第七十六號
- 大正元年勅令第二十號

●氣象臺職員交通至難地在勤手當支給細則

○文部省令第三十一號 大正十年六月三十日

改正 大正一〇年第四八號、一一年第一八號、昭和四年第三九號、五年第二三號、七年第一四號、一三年第一號、第二三號

〔文會例〕

明治四十年文部省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

- 第一條 氣象臺職員ニシテ交通至難ノ場所ニ在勤スル者ニハ大正九年勅令第四百五號ニ依リ別表ノ範圍内ニ於テ月手當ヲ支給ス
- 第二條 月手當ハ新ニ赴任ノ場合ハ著任ノ翌日ヨリ、在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命ノ場合ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ、轉勤ノ場合ハ舊任地出發ノ前日迄其ノ月ノ現日數ニ依リ之ヲ計算支給ス但シ命令到達ノ日ヨリ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第三條 退官、休職又ハ死亡ノトキハ當月分月手當ノ全額ヲ支給ス事務引續殘務調理ノ爲公務ニ従事スルトキハ其ノ事務終了ノ當日迄尙之ヲ支給ス
- 第四條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ驗ユルトキ又ハ私事故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ驗ユルトキハ月手當ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 歸省轉地療養其ノ他私事ノ爲在勤地ヲ離レタル日數ハ月手當ヲ支給セス
- 第六條 兼務者ニハ月手當ヲ支給セス
- 第七條 月手當ハ毎月俸給支給日ニ之ヲ支給ス但シ新任、轉任、轉勤、退官、休職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ支給日ニ拘ラス之ヲ支給ス
- 第八條 月手當ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ノ現日數ニ依リ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

附則

本令ハ大正十年六月分ヨリ之ヲ適用ス
(別表)

地域區分	金			
	奏任官	判任官	長タル者及一等	其ノ他ノ者
石垣島 古島 石垣島 古島	月額拾圓以上	月額貳拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
宮島 古島 宮島 古島	月額拾圓以上	月額貳拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
父島 古島 父島 古島	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
八丈島 八丈島	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
名島 名島	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
大屋島 大屋島	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
室戸岬 室戸岬	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
筑波山 筑波山	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
潮岬 潮岬	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
富島 富島	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
輪島 輪島	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
伊吹山 伊吹山	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
箱根山 箱根山	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
高層山 高層山	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内
柿岡地 柿岡地	月額拾圓以上	月額拾圓以内	月額拾圓以内	月額拾圓以内

氣象臺職員ニ在支那帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得ルノ件

勅令第二百九十五號 大正九年八月二十六日
第一條 文部大臣ハ氣象又ハ地磁氣觀測ノ爲氣象臺職員ニ在支那帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得
第二條 在支那帝國領事館附氣象臺職員ニハ在勤手當、加給手當ヲ支給ス其ノ額ハ別表ニ依ル
第三條 本令手當ノ給與ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年勅令第八十二號ハ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現ニ中央氣象臺技手ニシテ在支那帝國領事館附ヲ命セラレタル者ハ別ニ辭令書ヲ用キス氣象臺技手トシテ在支那帝國領事館附ヲ命セラレタルモノトス

Table with 4 columns: Position (技師, 書記, 技手, 履員), In-service allowance (在勤手當年額), Additional allowance (加給手當年額), and Total allowance (加給手當年額). Values range from 1,800 to 6,250.

(參照) 大正十一年七月文部省令第二十五號

在支那帝國領事官附氣象臺職員手當支給規程

文部省令第二十五號 大正十一年七月十九日
第一條 在支那帝國領事官附氣象臺職員ニ支給スヘキ在勤手當及加給手當ハ別表ニ依ル
第二條 在勤手當ノ支給方法ニ關シテハ大正十年文部省令第三十一號氣象臺職員交通至難地在勤手當支給細則第二條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス
第三條 加給手當ハ其ノ妻任地ニ赴クトキハ到着ノ翌日ヨリ歸朝スルトキハ任地出發ノ前日迄之ヲ支給ス
任地ニ於テ妻帯シタル者其ノ旨中央氣象臺長ニ届出タルトキハ其ノ届出ノ翌日ヨリ加給手當ヲ支給ス
退官、休職又ハ死亡若ハ妻死亡ノトキハ其ノ當月分加給手當ノ全額ヲ支給ス
夫ノ死亡シタルトキ其ノ妻已ムヲ得サル事故ノ爲死亡當月内ニ舊任地ヲ出發スルコト能ハサルトキハ死亡ノ翌月以内ヲ限り其ノ事故ノ存スル間仍加給手當ヲ支給ス
轉勤シタルトキ又ハ事務引繼殘務調理ノ爲公務ニ從事シタルトキ在勤手當ヲ支給スル間仍加給手當ヲ支給ス
第四條 在勤手當及加給手當ノ支給方法ニシテ本規程ニ定ムルモノノ外ハ俸給支給ノ例ニ依ル

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔文部省令〕

大正十年文部省令第三十二號ハ之ヲ廢止ス (別表)

Table with 6 columns: Location (上海, 天津, 青島, 濟南, 漢口, 芝罘, 杭州, 沙市, 南市), Position (任所), Allowance type (在勤手當, 加給手當), and Amount (圓以内, 圓以上). Values range from 1,800 to 6,250.

(參照) 大正九年八月勅令第二九五號

勸勉手當給與令

勅令第五百四十五號 大正九年十一月二十二日
大正一〇年第一八八號、一一年第二二五號、第二〇五號、第四一〇號、一二年第二八三號、一三年第九六號、一九六號、第二七二號、第三三三號、一四年第九七號、第十四章 諸給與 第三節 諸手當

- List of 12 categories of work for which incentive allowances are granted, including government offices, military, and administrative tasks. Examples include '一 衛生試驗所ニ於ケル現業' and '二 大藏省所管ノ營繕工事ノ現業'.

第十四章 諸給與 第三節 諸手當

- 十二ノ二 臺灣總督府監獄ニ於ケル現業
- 十三 關東通信官署ニ於ケル現業
- 十四 樺太廳郵便局ニ於ケル現業
- 十五 樺太廳ニ於ケル鐵道ノ現業
- 十六 南洋廳ニ於ケル通信又ハ電燈ノ現業
- 十七 北海道廳ノ築港事務所及治水事務所ニ於ケル現業
- 第一條ノ二 官吏、官吏ノ待遇ヲ受ケル者、囑託員、雇員又ハ傭人ニシテ左ニ掲ケル事務ニ従事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得
 - 一 税關又ハ臨時海港檢疫所ニ於ケル海港檢疫又ハ獸類若ハ獸疫病毒汚染ノ疑アル物品ノ檢疫若ハ検査事務及其ノ事務ヲ直接補助スル事務
 - 二 税關、朝鮮總督府税關又ハ臺灣總督府税關ニ於ケル臨時開港ノ場合又ハ日没ヨリ日出迄ノ間若ハ休日ニ保税倉庫ノ開扉若ハ貨物ノ積卸搬出入其ノ他ノ取扱ヲ爲ス場合ノ臨時事務
 - 三 税關、朝鮮總督府税關又ハ臺灣總督府ニ於ケル輸出入又ハ移出ノ植物ノ検査事務及其ノ事務ヲ直接補助スル事務
 - 四 朝鮮總督府穀物検査所ニ於ケル穀物ハ叭ノ検査事務及其ノ事務ヲ直接補助スル事務
 - 五 朝鮮總督府水産製品検査所ニ於ケル水産製品ノ検査事務及其ノ義務ヲ直接補助スル事務
 - 六 臺灣總督府ニ於ケル茶検査事務及其ノ事務ヲ直接補助スル事務
- 第二條 工場ニ服務スル技工ニシテ第一條ニ該當セザル者ヲシテ定時間外ニ服業セシメタル場合ニハ日額ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得
- 第三條 前三條ノ規定ニ依リ給スル手當ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シ

〔文會例〕

一三四

テ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニアリテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第四條 法律又ハ勅令ニ依ルニ非サレハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得ス

附則

- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス
- 明治三十二年勅令第四百四十八號
 - 明治三十六年勅令第四十八號
 - 明治三十七年勅令第五百五十五號
 - 明治三十七年勅令第七十號
 - 明治三十九年勅令第三百五號
 - 明治四十年勅令第八號
 - 明治四十年勅令第六十四號
 - 明治四十一年勅令第六號
 - 明治四十三年勅令第二百一十一號
 - 大正三年勅令第一百七號
 - 大正七年勅令第三百一十一號
 - 大正七年勅令第四百號
 - 大正九年勅令第二十五號

附則 (大正十三年四月勅令第九十六號)

〔文會例〕

●現業員ノ共済組合ニ對スル政府給與金ニ關スル件

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年勅令第四百五十七號及大正十年勅令第二百十四號ハ之ヲ廢止ス

○勅令第八十號 大正九年四月一日

政府ノ事業ニ従事スル現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニシテ勅令ノ認ムルモノニ於テ退職年金又ハ癡疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ政府ハ當該勅令ニ依リ給與金ノ外毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ三ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス但シ其ノ金額ハ年金給付ノ爲組合員ヨリ増徴スル掛金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項組合員ノ給料總額中ニハ現業員タル判任官以上ノ組合員及現業員ニ非サル組合員ノ俸給給料ヲ包含セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●現業員ノ共済組合ニ對スル政府給與金ノ増額ニ關スル件

○勅令第五號 昭和元年十二月二十九日

改正 昭和一〇年第一三四號、一三年第二〇號

政府ノ事業ニ従事スル現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニシテ勅令ノ認ムルモノノ健康保險法施行令第七條ノ規定ニ該當スルモノナル場合ニ於テ

第十四章 諸給與 第三節 諸手當

組合カ其ノ健康保險ノ被保險者タル組合員ニ對シ健康保險法ノ規定ニ依リ保險給付ノ全部又ハ一部ニ相當スル給付ヲ爲ストキハ政府ハ當該勅令ニ依リ給與金ノ外當該給付(厚生大臣ニ於テ健康保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ指定ヲ爲スニ必要ナルモノニ限ル)ニ關シ政府カ健康保險法ノ規定ニ依リ國庫及事業主ノ負擔ト同一割合ノ負擔ヲ爲ス爲必要ナル金額ヲ組合ニ給與ス但シ特別ノ事情アルトキハ豫算ノ範圍内ニ於テ所管大臣ハ大藏大臣ト協議シテ其ノ負擔スル割合ヲ増加スルコトヲ得

政府部内ノ職員ヲシテ前項ニ規定スル組合事務ニ従事セシムル場合ニ於テハ之ニ要スル經費ハ前項ノ健康保險法ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔ニ相當スル給與金額ヨリ之ヲ控除スルモノトス

第四節 賄料、文具、被服其ノ他

●宿直等ノ食料給與並特別用文具備付ノ件

○勅令第二十七號 明治二十四年三月
 明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十二年閣令第四號ハ本年三月三十一日限り廢止ス但宿直又ハ徹夜勤務使役ノ者ニハ適宜食料^{現品又ハ給與シ}又特別用ノ文具ハ官廳ニ備ヘテ使用セシムルコトヲ得
 (參照) 明治六年大藏省達第百六十一號辨當料改定ノ件同二十二年閣令第四號ハ文具料支給規則ナリ

●勅任官ニ賄料支給方ノ件

○會計課長回答岡醫會三十八號 昭和九年九月二十六日
 九月十日付會第二二八號ヲ以テ貴學勅任教授ニ對スル徹夜勤務賄料支給方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ御來旨ノ通明治三十一年五月文部大臣訓令官吏職員及傭人賄料支給方ノ件ニ準シ御處理相成可然此段回答ス
 追テ施行前豫メ支給額等開申相成度
 ○岡山醫科大學長照會會第二百二十八號 昭和九年九月十日
 當縣附屬醫院ニ於テハ屢夜間ニ於テ救急手術ヲ爲ス必要有之午後六時ヨリ翌日午前八時迄ノ手術勤務者ニシテ院外居住者ニ對シテハ明治三十一年五月文部大臣訓令官吏職員及傭人賄料支給方ノ件ニ據リ賄料支給致居候處第二外科主任某教授ハ勅任官ニシテ同訓令中ニハ勅任官ニ關スル規定無キヲ以テ同教授ニ對シテハ徹夜手術ニ從事スルモ賄料支給ノ途無キカ如ク思料致サレ候モ奏任官ニ準シ賄料支給致シ差支無之候哉若シ右訓令ニ據リ支給

第十四章 賄給與 第四節 賄料、文具、被服其ノ他

不可ナレハ支給方ニ關シ何分ノ御配慮仰度此段及照會候也
 ○岡山醫科大學長通知會第二百四十五號 昭和九年十月三日
 九月二十六日付岡醫會三八號ヲ以テ御回答相成候勅任官ニ對スル賄料支給方ニ關シテハ奏任官ニ準シ一食金三十錢ヲ支給スルコトニ致シ十月一日ヨリ實施致度候條此段及御通知候也

●官吏職員及傭人賄料支給方ノ件

○文部大臣訓令戊會甲七百六十七號 明治三十一年五月七日
 一 賄料ハ宿直及徹夜勤務ノ者ニ支給ス
 但休日當直ノ晝賄料ハ支給セズ
 一 賄料ハ宿直ノ者ニ二分徹夜勤務ノ者ニ三分ヲ支給ス
 一 賄料一食分ヲ奏任官ハ金參拾錢以內、判任官及職員ハ金貳拾五錢以內、傭人ハ金貳拾錢以內トス
 ○會計課長通牒 明治三十一年五月七日

直轄各部長

官吏傭人ニ賄料支給方本日訓令相成候ニ付右賄料ニ關スル既往ノ通牒ハ自然消滅ノ義ト御承知相成度且今回改定ノ支給額範圍內ヲ以テ適宜支給額御決定豫メ當課へ御通報ノ上支給相成可然命ニ依リ此段申進候也

(參照)

●宿直賄料年度區分方

○內務省會計課通牒會甲第四百十號 明治三十四年七月一日

廳府縣 土木監督署 衛生試驗所

宿直賄料ニシテ一宿直ニ付金額ヲ定メタル場合ニ於ケル三月三十一日ノ宿直賄料ハ前年度所屬トシ整理スヘキコトニ決定相成候條爲念此段及通牒候也

●夜間圖書閱覽開始ノ爲之ニ從事ノ雇員へ 辨當料支給相成ラサル件

○會計課長回答 明治四十四年十月二十五日

○第八高等學校伺 明治四十四年十月十八日

明治四十四年十月十八日付發第三六二號ヲ以テ辨當料支給ノ件御照會相成候處食料ノ支給ハ明治二十四年勅令第二十七號ニ依リ宿直又ハ徹夜勤務以外ニハ支給シ能ハサル儀ニ有之候

●特別用文具相定メ開申ノ件

○文部大臣訓令會甲八百四號 明治二十四年四月三十日

直轄各部

明治二十四年三月勅令第二十七號但書ニ依リ使用セシムル特別用文具ハ各部ニ於テ相定メ文部大臣ニ開申スヘシ

●文部本省守衛長、守衛及自動車運轉手居 住制限竝宿舎料支給ニ關スル件

○次官裁定 昭和十二年三月三十一日

第一條 守衛長、守衛及自動車運轉手ハ命令ニ基キ本省附屬家ニ居住スル

コトヲ要ス

第二條 附屬家ニ居住ヲ命セラレザル者ハ勤務廳所在地ヨリ三軒以内ノ區域ニ居住スルコトヲ要ス

第三條 前條ノ者ニシテ所定ノ区域内ニ居住スル者ニ對シテハ毎月末左ノ區分ニ依リ宿舎料ヲ支給ス

區	宿舎料(月額)	分		
		單身者	家族五人未滿ノ者	家族五人以上ノ者
		五圓	八圓	十圓

右表ニ於テ家族ト稱スルハ祖父母、父母、妻子ニシテ現ニ同居セル者ヲ謂フ

第四條 宿舎料ノ支給ヲ受クル者附屬家ニ居住ヲ命セラレ其月ノ十五日以前ニ居住シタル場合ハ當月分ノ宿舎料ハ之ヲ支給セズ

第五條 附屬家ニ居住中ノ者退去ヲ命セラレ其月ノ十六日以後ニ退去シタル場合ハ當月分ノ宿舎料ハ之ヲ支給セズ

第六條 新任命セラレタル者ニシテ任命時期其月ノ十六日以後ナルトキハ當月分ノ宿舎料ハ之ヲ支給セズ

第七條 退職シタル者ニシテ退職時期其月ノ十五日以前ナルトキハ當月分ノ宿舎料ハ之ヲ支給セズ

第八條 第二條ノ区域内ニ居住スルコト能ハザル特別ノ事由アル者ハ會計課長ノ許可ヲ受ケ他ニ居住スルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル宿舎料ハ之ヲ支給セズ

附則

本件ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔文會例〕

第十五章
旅
費

第十五章 旅費

第一節 内國旅費

●内國旅費規則

○勅令第二百七十四號 明治四十三年六月十八日

改正 明治四三年第三九一號、四四年第一九二號、大正九年第一七六號、一三年第三〇六號、昭和五年第五六號

第一條 官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ鐵道貨、船貨、車馬貨、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス

鐵道貨及船貨ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬貨日當宿泊料食卓料及移轉料ハ別表ニ掲グル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第三條 鐵道旅行ニハ鐵道貨、水路旅行ニハ船貨、陸路旅行ニハ車馬貨ヲ支給ス

鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第四條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄フ爲ササルトキハ食卓料ヲ支給ス

第五條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ三百三十料、

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

〔文會例〕

水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第六條 赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス

家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道貨船貨車馬貨日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ相當スル金額トス但シ十二歳未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル給額ノ半額トス

赴任者赴任後一年内ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セサルトキハ家族移轉料ヲ支給セス

第七條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道貨、船貨、車馬貨ヲ支給セス

第八條 陸路六里未滿、鐵道七十八料未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ十三料水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條 在勤處所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ルトキハ定額半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ必要ナル費用ヲ支給スルコトヲ得

第九條ノ二 前條第二項ノ規定ハ在勤處所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ遠

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

一二四〇

距離ニ涉ラサル場合又ハ在勤處所在地外ノ市町村内ヲ旅行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滞在スル者轉任ヲ命セラレ又ハ新任用セラレ滞在地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滞在地ヨリ新任地ニ至ル旅費額力舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十一條 新任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

第十四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス

第十五條 旅行中退官、退職、休職又ハ非職ト爲リタル者ニハ舊任地ニ至ル前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ失官シ又ハ免官セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

〔文會例〕

前項ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス

旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十六條 事務引繼義務調理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 所管大臣ハ測量土木工事等ノ爲現場ヲ巡回スル官吏又ハ常時旅行ヲ要スル官吏ニ關シ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十七條ノ二 日當及宿泊料ハ同一地ニ滞在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滞在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第十八條 武官、陸海軍文官、鐵道事務ニ従事スル官吏及警察官ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第二十條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內ノ旅行ニ限り所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅費ノ定額ヲ増加スルコトヲ得

〔文會例〕

第二十一條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤二年以上ニシテ退官、退職、休職又ハ非職ト爲リ三十日以内ニ同地出發歸郷スル者ニハ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

在職中死亡シタルトキハ第一項ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第二十二條 樺太ニ赴任スル者、千島國幌筈島以北ニ赴任若ハ出張スル者、朝鮮ニ赴任スル者ニシテ江原道平安南道平安北道咸鏡南道咸鏡北道ニ赴ク者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樺太ニ出張スル者ニハ當分ノ内支度料ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

旅費額	區分		車馬賃	日當	一日ニ付	宿泊料	一夜ニ付	食卓料	移轉料
	親任官	勅任官							
一里ニ付	一圓五十錢	一圓二十錢	八圓	十二圓	十圓	甲地方	乙地方	甲地方	乙地方
						甲地方	乙地方	四圓	三百圓以内
								三圓五十錢	二百二十圓以内

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

一二四一

本令施行前轉任ヲ命セラレ、新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル場合又ハ退官、退職、休職、非職ト爲リ若ハ死亡シタル場合ニ關シテハ舊令ニ依ル

附則 (大正九年五月二十八日勅令第百七十六號)

本令ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第二百八十五號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル者本令施行後著任シタルトキハ本令ニ依リ赴任手當及移轉料ヲ支給ス

前項ニ規定スル者ノ家族本令施行後新任地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給ス

附則 (大正十三年十二月十五日勅令第三百六號)

本令ハ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滞在スル者ニ對スル第十七條ノ二ノ規定ノ適用ニ關シテハ本令施行前ノ日數ハ之ヲ通算セス

判任官	奉任官	
	五等以上	六等以下
六級俸以下	七十五錢	九十錢
五級俸以上	三圓	四圓
六級俸以下	二圓五十錢	三圓
五級俸以上	二圓二十錢	三圓五十錢
六級俸以下	四圓五十錢	五圓五十錢
五級俸以上	四圓	五圓
六級俸以下	二圓	三圓
五級俸以上	二圓五十錢	三圓五十錢
六級俸以下	四圓	五圓
五級俸以上	二圓	三圓
六級俸以下	百圓	百圓
五級俸以上	百圓	百圓

備考

- 一 甲地方トハ大藏大臣ノ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ云フ
- 二 一日中甲地方及乙地方ニ互ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到着地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル
- 三 鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額、宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依ル
- 四 赴任手當ハ甲地方ノ日當及宿泊料ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

●内國旅費規則第二條ニ依ル鐵道貨船貨指定

○大藏省令第十六號 大正九年五月三十一日

改正 大正一〇年第一號、昭和五年第五號

内國旅費規則第二條ニ依リ鐵道貨、船貨左ノ通相定メ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 鐵道貨ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)及急行料金ニ依リ之ヲ計算ス
- 一 高等官ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃
- 二 判任官ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車ニ乗車シ

〔文會例〕

- 三 運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ高等官判任官共上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃
- 四 八十五料以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料金ヲ概セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 五 百七十料以上ノ特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ特別急行料金ニ特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ前二號ノ規定ニ拘ラス其ノ乘車ニ要スル急行料金
- 第二條 船貨ノ旅客運賃(通行稅、船賃、棧橋賃、渡船料及普通運賃ノ對スル所定ノ)及急行料金ニ依リ鐵道貨ノ例ニ準シ之ヲ計算ス

〔文會例〕

●内國旅費規則別表ニ定ムル甲地方指定ノ件

○大藏省令第二十八號 大正十三年十二月十六日

改正 大正一四年第一號、第二號

内國旅費規則別表ニ定ムル甲地方左ノ通指定シ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 道府縣廳、師團司令部、鎮守府又ハ帝國大學所在ノ市町村
- 二 前號ノ外左ニ掲グル市町村
 - 北海道函館市
 - 同 小樽市
 - 同 室蘭市
 - 同 釧路市
 - 同 常呂郡野付牛町
 - 【京都府紀伊郡伏見町】
 - 【同 加佐郡新舞鶴町】
 - 【同 中舞鶴町】
 - 大阪府堺市
 - 【神奈川縣鎌倉郡鎌倉町】
 - 同 三浦郡【葉山村】
 - 兵庫縣尼崎市
 - 同 西宮市
 - 群馬縣高崎市
 - 栃木縣上都賀郡日光町
 - 三重縣宇治山田市

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

一二四三

●文部省所管内國旅費規則

○文部大臣訓令 明治四十三年十一月十四日

改正 大正五年、九年、一四年

- 三 前二號ニ定ムルモノノ外左ノ區域内ニ在ル町村
 - 【東京府南葛飾郡】
 - 【同 南足立郡】
 - 【同 北豐島郡】
 - 【同 豊多摩郡】
 - 【同 荏原郡】
 - 神奈川縣足柄下郡
 - 兵庫縣武庫郡

本省各部
直轄各部

第十五章 旅費 第一節 內國旅費

備考 第五條中ノ手當月額ハ昭和六年七月二十日大官通牒發會三七三號ヲ以テ減額セルニ付同通牒參照

第一條 文部省所管國內旅費ハ別ニ定ムルモノノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 試補其ノ他委任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ委任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第三條 見習其ノ他判任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第四條 雇員ニハ左ノ區分ニ依リ支給ス但シ日給ノ者ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一 給料月額五十五圓以上ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

二 給料月額五十五圓未滿ノ者ニハ別表第一號ノ額

第五條 委員及囑託員ニハ左ノ各號ニ依リ支給ス

一 在官者(退職者)又ハ其ノ待遇ヲ受クル者ハ各其ノ官等又ハ待遇官相當ノ額

二 常時一定ノ手當ヲ給スルモノハ其ノ手當額(年額ハ十二分ノ一日額ト看做ス)ニ依リ一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ハ其ノ爵位、勳功、學位等ニ依リ左ノ區別ニ從フ但シ數種ノ資格ヲ併有スルモノハ高キニ從ヒ其ノ額ヲ定ム

一 手當月額三百圓以上ヲ受クル者又ハ有爵者、正六位以上、勳五等以上、功四級以上ノ者ハ內國旅費規則ニ依リ委任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

一 手當月額百七十圓以上ヲ受クル者又ハ從六位、勳六等、功五級ノ者及學位ヲ有スル者若クハ學位ヲ有スル者ト同等以上ト認ム可キ者

〔文會例〕

ハ內國旅費規則ニ依リ委任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額
一 手當月額百七十圓以上ヲ受クル者又ハ正七位、從七位、勳七等及功六級ノ者ハ內國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額
一 手當月額五十五圓以上ヲ受クル者又ハ正八位以下勳八等及功七級ノ者ハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額
一 前各號ニ該當セサル者ハ別表第一號ノ額
前項ニ依リ難キ特別ノ事情アル者ニ付テハ其ノ都度之ヲ定ム
第六條 備外國人ハ勤任待遇ヲ受クル者ニハ內國旅費規則ニ依リ勤任官ニ支給スヘキ額其ノ他ノ者ニハ前條ノ例ニ依リ支給ス但シ特ニ約定アルモノハ其ノ約定ノ額ニ依ル
第七條 學校學生生徒ニハ別表第一號ノ額ヲ支給ス
第八條 省丁、巡視、門衛及給仕、小使、諸職工等ノ備人ニハ別表第二號ニ依リ支給ス但シ常備ニアラサル職工其ノ他ノ備人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料若クハ食卓料ヲ支給セス
第九條 朝鮮、臺灣及樺太內ノ旅行ハ別表第三號ニ依リ旅費ヲ支給ス
第二條乃至第五條ノ規定ハ本條ニ準用ス
第十條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ旅行スル者ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ノ最初ニ於ケル發着船地ヲ以テ內地旅行ト朝鮮、臺灣及樺太內ノ旅行トヲ區分ス但シ內地ヨリ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ著船當日ノ日當ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ノ旅費額朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ內地ニ發船當日ノ日當ハ內國旅費ノ額ヲ支給ス
第十一條 樺太ニ赴任スル者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樺太ニ出張スル者ニハ別表第四號ニ依リ支度料ヲ支給ス

〔文會例〕

第十一條ノ二 朝鮮ニ赴任スル者ニシテ江原道、平安南道、平安北道、咸鏡南道、咸鏡北道ニ赴ク者ニハ別表第五號ニ依リ支度料ヲ支給ス

第十一條ノ三 朝鮮、臺灣又ハ樺太在勤二年以上ノ者刑事裁判懲戒處分若ハ自己ノ便宜ニ依リニアラシテ退職、休職又ハ解職ト爲リ三十日以内ニ前任地出發歸郷スルトキハ內國旅費規則若ハ本規則ニ依リ前官、前職又ハ本官相當ノ内地旅費ヲ以テ前任地ヨリ原籍地マテノ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給ス

朝鮮、臺灣及樺太ニ在勤スル者在職中死亡シタルトキハ前項ノ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十一條ノ四 朝鮮、臺灣及樺太在勤ノ者内地旅行中前條ニ該當スルトキハ其ノ旅行公務タルト私事タルトヲ問ハズ支給スヘキ金額ハ之ヲ半額トス

第十一條ノ五 家族移轉料ヲ支給スル場合ニ於ケル家族トハ本人ト同一戶籍内ニアリテ同居スル親族ヲ謂フ

第一號
朝鮮、臺灣及樺太ニ在勤スル者在職中死亡シタルトキハ前項ノ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス
第十一條ノ四 朝鮮、臺灣及樺太在勤ノ者内地旅行中前條ニ該當スルトキハ其ノ旅行公務タルト私事タルトヲ問ハズ支給スヘキ金額ハ之ヲ半額トス
第十一條ノ五 家族移轉料ヲ支給スル場合ニ於ケル家族トハ本人ト同一戶籍内ニアリテ同居スル親族ヲ謂フ

〔文會例〕

第十一條ノ六 路程ノ計算ニ付テハ郵便線路圖ニ示ス各市區町村內ノ郵便局ヲ以テ其ノ起點トス若シ其ノ郵便局ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方官廳又ハ市區町村長ノ證明スル元標又ハ之ニ準スルモノヲ以テ其ノ起點トス鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニハ前項市區町村ニ於ケル起點及停車場又ハ波止場間ノ里程ハ陸路旅行ノ旅程ニ算入ス

第十二條 本規則規定ノ外旅費ノ支給ニ關シテハ內國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

附則 (大正九年七月訓令)
雇員其ノ他ノ者大正九年五月三十一日以前轉勤ヲ命セラレ又ハ新ニ採用セラレ若ハ新ニ採用ノ爲召喚セラレタル者六月一日以後勤務地ニ到着シタルトキハ本規則ニ依リ赴任手當及移轉料ヲ支給ス前項ニ規定スル者ノ家族ニシテ六月一日以後勤務地ニ到着シタルトキハ本規則ニ依リ家族移轉料ヲ支給ス

附則 (大正九年七月訓令)
雇員其ノ他ノ者大正九年五月三十一日以前轉勤ヲ命セラレ又ハ新ニ採用セラレ若ハ新ニ採用ノ爲召喚セラレタル者六月一日以後勤務地ニ到着シタルトキハ本規則ニ依リ赴任手當及移轉料ヲ支給ス前項ニ規定スル者ノ家族ニシテ六月一日以後勤務地ニ到着シタルトキハ本規則ニ依リ家族移轉料ヲ支給ス

第二號

區分	鐵道賃		船賃		車馬賃	一里ニ付	宿泊料		夜ニ付	日當		一日ニ付	食卓料	一夜ニ付	移轉料
	三等定額通	行稅ヲ含ム	三等定額通	行稅及積荷賃ヲ含ム			甲地方	乙地方		甲地方	乙地方				
區分	三等定額通	行稅ヲ含ム	三等定額通	行稅及積荷賃ヲ含ム	六十錢	三圓五十錢	三圓十錢	二圓	一圓八十錢	一圓二十錢	五十圓以内				

第十五章 旅費 第一節 內國旅費

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

省丁、巡視、門衛等	同	同	四十五錢	二圓八十錢	二圓六十錢	一圓五十錢	一圓三十錢	八十錢	三十五圓以內
給仕、小使、諸職工等	同	同	三十五錢	二圓五十錢	二圓四十錢	一圓二十錢	一圓十錢	六十錢	三十五圓以內

第三號

第一號及第二號表中甲地方トハ大正十三年十二月大藏省令第二十八號ニ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

等 級	親 任 官	勅 任 官	奏任官		判任官		備 員	備 員	人 員
			五等以上	六等以下	五級以上	六級以下			
車馬貨	一里ニ付	二圓五十錢	一圓五十錢	一圓五十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	九 十 錢	七 十 錢	三圓五十錢
宿泊料一夜ニ付	甲地方	二十二圓	十五圓	十圓	七圓	六圓	四圓五十錢	三圓五十錢	二圓八十錢
	乙地方	十八圓	十二圓	八圓	七圓	六圓	四圓五十錢	三圓五十錢	二圓五十錢
日當一日ニ付	甲地方	十三圓	九圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓五十錢
	乙地方	十二圓	八圓	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓	一圓五十錢
食卓料	一夜ニ付	四圓	三圓五十錢	二圓五十錢	二圓五十錢	二圓五十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	八 十 錢
移轉料		三百圓以內	二百二十圓以內	二百五十圓以內	二百五十圓以內	二百五十圓以內	百圓以內	五十圓以內	三十五圓以內

第四號

一 鐵道貨、船貨ニ付テハ内地ト同様トス
二 本表中甲地方トハ大正十三年十二月大藏省令第二十九號ニ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

區 分	支 赴	任 出	料 張	區 分	支 赴	任 出	料 張
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

〔文會例〕

第五號

勅 任 官	奏任官及奏任官ト同等ノ旅費ヲ支給スル者	判任官及判任官ト同等ノ旅費ヲ支給スル者	區 分		備 員	備 員
			支 赴	任 出		
三百圓以內	二百圓以內	百圓以內	七十圓以內	七十圓以內	五十圓以內	三十五圓以內
二百圓以內	百五十圓以內	百圓以內	七十圓以內	七十圓以內	三十圓以內	二十圓以內

注意 (一) 一定ノ手當ヲ受クル者ニシテ位、勅等ノ高キモノアラハ尙其ノ高キニ從ヒテ旅費額ヲ定ム
(二) 第五條(末項)特別ノ事情アル者ニ付テハ其ノ都度御協議相成候モノト認メ御同意致候(明治四十三年十一月一日大藏大臣回答)

附 則
本令ハ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル官吏ニ
支給スル旅費額ノ件

○會計課長移課官會三百八十四號 大正十年八月五日 直轄部局長
○大藏省主計局長通牒 大正十年七月二十五日
本年五月勅令第二百二十五號ニ依リ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル官吏ニ支給スル旅費ニ關シ今同逓信省ヨリ別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通回答
第十五章 旅費 第一節 内國旅費

致候間爲念此段及御通牒候也 (別紙)
(甲號) 本年五月勅令第二百二十三號文官優遇ニ關スル件ニ依リ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル官吏ニハ各其ノ待遇官相當ノ旅費ヲ支給シ可然哉折返シ貴省議承知致度
(乙號) 七月八日附查第九四三號ヲ以テ御照會相成候勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル官吏ニ對シテハ旅費規則ノ解釋上勅任官又ハ奏任官ノ旅費ヲ支給スヘキ省議ニ有之候條右様御承知相成度此段及同答候也

●諸調査會等ノ職員旅費支給規則

○勅令第十三號 大正十年一月三十一日

改正 大正一二年第三二九號、第三三三號、第三六二號、一三年第一八號、第二六〇號、一四年第二五九號、昭和一〇年第一五七號、第二一九號、一二年第二八六號、一二年第一六〇號、一三年第四五四號、第七〇八號

- 第一條 都市計畫中央委員會、特別都市計畫法ニ依ル補償審査會、中央衛生會、日本藥局方調查會、保健衛生調查會、國寶保存會及勞働者災害扶助責任保險審査會ノ會長委員及臨時委員、都市計畫中央委員會ノ委員代理、都市計畫地方委員會及退職金審査會ノ會長並ニ選舉公正委員會ノ會長及會長代理其ノ資格ヲ以テ旅行スルトキハ在職官吏ニハ其ノ本官相當ノ旅費ヲ、其ノ他ノ者ニハ別表第一號ニ依ル旅費ヲ支給ス但シ會長ニシテ在職官吏ニ非サル者ニハ内國旅費規則ニ依ル勅任官ノ旅費ヲ支給ス
- 第二條 都市計畫地方委員會ノ委員臨時委員及委員代理並ニ土地區劃整理委員會、退職金審査會及選舉公正委員會ノ委員其ノ資格ヲ以テ旅行スルトキハ在職官吏ニハ其ノ本官相當ノ旅費ヲ、其ノ他ノ者ニハ別表第二號ニ依ル旅費ヲ支給ス
- 第三條 本令ニ依ル旅費ハ會議ノ召集セラレタル場合ニ在リテハ會議地又ハ會議地ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ニハ之ヲ支給セス
- 第四條 本令ニ定ムルモノノ外旅費ノ支給ニ關シテハ内國旅費規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス
明治四十四年勅令第六十一號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和十年勅令第五百五十七號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十年勅令第二百十九號)
本令ハ社會保險調査會官制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十一年勅令第二百八十六號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十二年勅令第六十號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

區分	第一號	第二號
車馬賃ニ付日	一圓二十錢六	九十錢五
當一日宿泊料ニ付	圓九	圓八
食卓料ニ付	圓三	圓二圓五十錢
及鐵道賃	例ニ依ル	右ニ同シ

●國庫ヨリ俸給ヲ受ケル府縣ノ官吏ニ對シ
府縣費ヨリ旅費支出ニ關スル件

○勅令第五號 大正十一年一月十日

改正 大正一二年第三四三號、一二年第四四三號

府縣ハ國庫ヨリ俸給ヲ受ケル府縣ノ官吏ニ對シ府縣事務ノ爲ニ要スル旅費

〔文會例〕

ヲ内務大臣ノ許可ヲ受ケ府縣費ヨリ支出スルコトヲ得
前項ノ規定ハ北海道地方並朝鮮ノ道地方費及府ニ之ヲ準用ス但シ朝鮮ノ道地方費及府ニ付テハ内務大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ
朝鮮ノ道地方費ハ國庫ヨリ俸給ヲ受ケル府縣ノ官吏ニ對シ道地方費ノ事務ノ爲ニ要スル旅費ヲ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ道地方費ヨリ支出スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國民精神總動員諸費内國旅費ニ關スル件

○會計課長通牒發會五十六號 昭和十三年五月五日

北海道廳長官
府縣知事

貴廳職員又ハ市町村吏員ニシテ文部省所管國民精神總動員ニ關スル事務賜
託ヲ發令セラレタル者當該用務ヲ以テ出張スル場合之ニ支給スベキ旅費額
ハ左記ノ通決定相成ルニ付御了知相成度
追テ貴廳ニ於ケル國費並地方費支辨現行旅費規則ニ部宛至急御送付相成
度

記

- 一 文部省所管國民精神總動員諸費内國旅費ノ目ヨリ支辨ノコト
- 二 官吏並同待遇者ハ明治四十三年十一月十四日文部大臣調令文部省所管内國旅費規則第五條第一項第一號ニ準據スルコト
- 三 道府縣吏員、市町村吏員ハ其ノ職ニ於ケル旅費規則ニ準據スルコト

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

〔文會例〕

○文部大臣協議發會百十四號 昭和十三年一月十七日
當省所管國民精神總動員計畫ノ實施ニ伴ヒ道府縣吏員又ハ市區町村吏員ヲ
囑託(無給)スルノ必要生シタルヲ以テ右囑託者ニ支給スル旅費額ハ内務省
ニ於ケル當該用務囑託者トノ權衡上當該道府縣又ハ市區町村ニ於テ定メ
ル旅費額ヲ支給スルコトト致度内國旅費規則第十九條ニ依リ此段及協議候
也

追テ本件ハ昭和十三年一月三十一日ヨリ適用致度

(備考)

内國旅費規則第十九條

雇員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣
ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

○大藏大臣回答發會第四百六十七號 昭和十三年四月三十日

一月十七日附發會第一一四號ヲ以テ國民精神總動員諸費内國旅費ニ關シ御
協議ノ趣了承右具存無之此段及回答候也

●六級俸ト五級俸トノ中間ノ俸給ヲ受ケル
者ニ旅費支給方ノ件

○會計課長移譯官會五百二十九號 大正九年十月十一日

内國旅費規則別表ノ定ムル所ニ依レハ判任官ニ支給スル旅費ハ五級俸以上
ノ俸給ヲ受ケル者ト六級俸以下ノ俸給ヲ受ケル者トニ依リ其ノ支給額異ナ
ル次第ニ有之候處本年勅令第二百五十八號附則第二項ノ規定ニ依リ新令ノ
規定ニ依ル六級俸及五級俸ノ中間俸給ヲ受ケル者ハ旅費規則ニ所謂「五級

停以上「又ハ六級俸以下」ノ何レニモ該當セサルコト相成候モ本年勅令
第二百五十九號ノ規定ニ依レハ月俸八十五圓未滿ノモノハ之ヲ六級俸ヲ受
ケル者トシテ判任官三等トシテ規定セラレタル趣旨ヨリ解スルトキハ内
國旅費規則別表ノ適用ニ關シテモ此等中間ノ俸給ヲ受クル者ハ六級俸以下
ヲ受クル者ノ内ニ包含スルモノト解シ旅費ヲ支給スルヲ相當ト被存候ニ付
右ノ如ク解釋スルコトニ致度
右開議ヲ請フ(大正九年九月十三日官詔第一四二號大藏大臣ヨリ請議閣議
決定セリ)

(注意)
一 大正九年勅令第二百五十八號附則第二項ハ高等官官等俸給令改正同
第二百五十九號ハ文武判任官官等給令改正ナリ

● 休職者タル資格ヲ有スル囑託員ニ旅費支 給方ノ件

○會計課長回答 大正三年十一月十一日
十月十五日附北農會第一八九號ヲ以テ休職者タル資格ヲ有スル囑託員旅費
額ノ件ニ付御照會相成候處右ハ前段御見解ノ通官等相當ノ旅費額ヲ支給ス
ヘキ儀ト御了知相成度此段及回答候也
○東北帝國大學照會 大正三年十月十五日
本學囑託講師ニシテ現ニ休職農商務省技師ニ對スル旅費ハ文部省所管内國
旅費規則第五條第一項ニ據リ其ノ官等相當旅費額支給致差支無之様被認候
ハ共條文中退職者ナル文字ヲ廣義ニ解釋セハ休職者ヲ在官者ト見做シ能ハ
ズ

〔文會例〕

階級ニ依ルベキキニ付御照會ノ件了承右ハ赴任手當ハ後官ニ依リ、支度料
及移轉料ハ前官ニ依リ、家族移轉料ハ之ヲ構成スル内容ニ付本人ニ對スル
各種旅費額ヲ基礎トシテ決定セラレヘキモノト被存候

● 出張旅費支給ニ關シ資格解釋ノ件

○會計課長通牒 大正十四年七月二十三日
直轄學校奉任教授ニシテ他ノ直轄學校ノ勸任教授ヲ兼スルモノ奉任教授ノ
資格ヲ以テ其ノ學校ノ用務ニ依リ出張スル場合ハ奉任ノ旅費額ヲ支給スヘ
キモノト解釋スルヲ妥當ト認メラルルニ付爾今右ノ趣旨ニ依リ御取扱アリ
度此段通牒ス

● 囑託員旅費額ニ關スル件

○會計課長回答 昭和八年八月三十日
八月十一日付北大第七三七號ヲ以テ申請相成タル貴學囑託員某ニ對スル旅
費ハ學位ヲ有スル者ト同等以上ト認メ左記ノ通支給方決定相成タルニ付御
了知相成度

記

奉任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額
○北海道帝國大學總長照會北大第七百三十七號 昭和八年八月十一日
本學工學部臨時授業囑託員某ハ在外研究員ヲ命セラレタル某助教ノ代
員トシテ嶺山地質學ノ授業ヲ擔任セル者ニ有之學科ノ性質上學生實地指導
ノ爲屢地方出張ヲ要シ候處同人ハ位階勸等ハ無之候得共別紙履歷書ノ通

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

サル様ニモ被存聊カ疑義相生候ニ付貴省ノ御見解承知致度此段及照會候也
○會計課長通牒 明治二十七年一月十七日
○大藏大臣回答 明治二十七年一月十日
直轄各部長
官吏公務旅行中奉任官ヨリ判任官トナリタル如キ資格變更ノ場合ニ於ケル
旅費ハ發令翌日ヨリ總テ後官相當ノ額ヲ支給スル儀ニ有之候條爲念此段及
御通牒候也

● 官吏赴任ノ途中官階ニ變更ヲ生シタル場 合ニ支給スル旅費ノ件

○會計課長照會京大第三十二號 昭和五年七月二十六日
官吏赴任旅行中判任官ヨリ奉任官トナリタル如キ資格變更アリタル場合ノ
旅費支給ニ關シ赴任手當、支度料、移轉料及家族移轉料ハ新舊何レノ資格
ニ依ルベキヲ御意見承知致度右ハ差迫リタル案件有之候條至急御回報相煩
度
○大藏省主計局長回答會計第七百五十二號 昭和五年十一月十四日
本年七月二十六日附京大第三十二號ヲ以テ官吏赴任旅行中官階ニ變更ヲ生シ
タル場合ニ支給スル赴任手當、支度料、移轉料及家族移轉料ハ新舊何レノ

〔文會例〕

リ經歷有之之カ旅費支給ニ關シ文部省所管内國旅費規則第五條ニ據ル奉任
官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給致差支無之候條
御意見承知致度此段及御照會候也
(履歷書略)

八月七日付電信ヲ以テ本學工學部囑託員某ニ對スル出張旅費支給資格認定ニ
關シ御照會ノ件了承左記ノ通參考論文目錄トシテ追加送付候條可然御取計
相成度此段及申請候也

記

- 一、夕張地方ノ地質的觀察
- 一、夕張炭田ノ地質的觀察
- 一、斷層ニ就テ
- 一、石狩炭田ノ炭層狀態ニ就テ
- 一、地質ヨリ見タル大和民族
- 一、地球ト石炭
- 一、天然瓦斯
- 一、水成岩ノ累積ニ就テ
- 一、幌內層ノ研究
- 一、栗山地方ノ地質

● 講師ニ對スル旅費額ノ件

○會計課長回答長發會十二號 昭和十年五月七日
三月二十七日附長發會第一八四號ヲ以テ御申請相成タル貴學講師某ニ對ス
ル内國旅費ハ大藏大臣ト協議ノ上左記ノ通支給方決定相成タルニ付御了知

相成度

判任官六級俸以下ノ者ニ支給スベキ額

昭和十年三月二十七日

○長崎醫科大學長照會
當大學ニ於テ講師トシテ月手當金五拾五圓未滿ノ者(勤、功、學位等ヲ有セ
ス)有之候ニ就テハ當該者ノ内國出張ニ對シテハ文部省所管内國旅費規則
第五條第一項第二號ノ五ニ依リ雇員ノ支給額ヲ支給スヘキ候ニ有之候處右
講師ハ執モ助手タリシ古參者ヲ囑託致シ從テ事實助手又ハ助手ノ上位ニ在
リテハ學術ニ關スル職務ニ服シ居リ候間助手ト同様ニ判任官六級俸以下ノ
者ニ支給スヘキ旅費額ヲ支給致度候間御認可相成度此段相候也

●副手ニ對スル旅費ノ件(其ノ一)

○會計課長通牒發會三百三十八號 大正十一年六月五日
帝國大學ノ副手ニ對シテハ内國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支
給スヘキ額ヲ支給ス

●副手ニ對スル旅費ノ件(其ノ二)

○會計課長通牒發會五百五十三號 昭和二年十二月十二日
官立醫科大學ノ副手ニ對シテハ内國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者
ニ支給スル旅費額ヲ支給ス

●備外國人學術實地研究旅費支給方ノ件

○會計課長回答 大正十三年二月二十八日

二月二十一日付會第二八號ヲ以テ貴校外國人教師ノ學術研究旅費ヲ備外國
人諸給ヨリ支辨相成旨ナルモ右ハ豫算ノ性質上不穩當ニ付校館費ニテ支辨
相成度此段申進ム

○大分高等商業學校照會 大正十三年二月二十一日

當校英語科備外國人教師ヲ學術實地研究ノタメ兵庫縣へ出張セシメ度右ニ
要スル旅費ハ備外國人諸給ノ項手當ノ目ヨリ旅費ノ目へ流用支辨致度ニ付
御許可相成度此段及稟申候也

●學術實地研究旅費支給方

○文部大臣訓令發會百五十六號 大正八年十二月二十六日

直轄部局長

直轄學校職員學生徒等學術實地研究上ニ要スル旅費ハ内國旅費規則及文
部省所管内國旅費規則ノ範圍内ニ於テ適宜減額支給スルコトヲ得

●學校配屬將校ノ旅費ニ關スル件

○文部次官通牒發會二百五十八號 大正十四年八月二十九日

陸軍現役將校學校配屬令ノ規定ニ依リ學校ニ配屬セラレタル現役將校ハ當
該學校長ノ指揮監督ヲ承ケテ體操科中教練ヲ擔任スルモノニシテ學生々徒
ノ教育ヲ掌ル點ニ於テハ學校ノ職員ト看做スヘキ者ナルニ付現役將校、學

●工業教員養成所學術實地研究旅費支給方

○文部大臣訓令 明治三十二年二月二十日

東京工業學校附設
工業教員養成所

工業教員養成所囑託講師等學術實地研究旅費ハ東京工業學校ノ例ニ依リ支
給スヘシ

●農業及商業教員養成所學術實地研究旅費
支給方

○文部大臣訓令 明治三十三年十一月二日

東京帝國大學農科大學並
高等商業學校附設農(商)
業 教 員 養 成 所

農(商)業教員養成所囑託講師等學術實地研究旅費ハ東京帝國大學(高等商
業學校)ノ例ニ依リ支給スヘシ

●體育研究所及傳染病研究所無給技手ニ對
スル旅費額ノ件

○大藏大臣回答 昭和四年六月十三日

六月一日付發會第一五六號ヲ以テ貴省所管體育研究所及傳染病研究所ニ置
カレタル無給技手ニ對シ内地旅行ヲ命シタル場合内國旅費規則ニ依リ判任
官六級俸以下相當ノ旅費ヲ支給スルノ件御協議ノ趣了承右異存無之此段及
回答候也

〔文會例〕

〔文會例〕

校教練ニ關スル事務ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ當該事務ノ爲メニ出張ヲ
囑託シ出張旅費ヲ支給スル様致度ニ付其ノ旨御了知ノ上自今可然御取計相
成度

●呼出ノ際日當支給方

○大藏省總務局長通達 明治二十年四月三十日

轉任又ハ新任ノ爲メ他所ヨリ呼出ノ際其ノ採用處へ到達スルモ休暇又ハ其
ノ處ノ都合ニヨリ即日辭令書ヲ交付セサルトキハ交付ノ當日迄ハ内國旅費
規則ニヨリ日當支給スヘキノ處從來辭令交付ノ前日迄支給ノ向モ有之ニ付
二十年度以降ハ總テ當日マテ支給ノ儀ト心得ラルヘシ

●拜命後赴任セシテ直ニ留學生トシテ出
發シ歸朝シタル者ノ旅費等支給方ノ件

○會計課長回答 明治四十年十一月四日

旅費ハ支給スルヲ要セス俸給ハ著任ノ翌日ヨリ支給相成可然ト存候

○山口高等商業學校照會 明治四十年十月七日

當校教授某去ル三十八年三月十七日助教授拜命同月十八日歐洲へ留學ヲ被
命候爲メ赴任ノ時日無之直ニ出發致候處四十年八月二十一日歸朝九月十一
日教授ニ被任今同就任候ニ付テハ右旅費之義ハ原住地(大阪)ヨリ當校迄乘
任旅費支給可然哉尙右様次第ニ付歸朝ノ際ニ於ケル俸給支給日區分ハ八月
二十一日ヲ以テ在職學校所在地著ト見做シ差支ヘ無之哉

●留學ノ内命ヲ受ケ身體検査ノ爲上京ヲ命

シタル者ニハ旅費支給スヘカラサル件

○會計課長回答 明治四十一年十月六日
○熊本高等工業學校長伺 明治四十一年九月二十二日
明治四十一年九月二十二日會第二七六號ヲ以テ留學ノ内命ヲ受ケ身體検査ノ爲上京セシムル場合旅費支給方ノ件ニ付キ何出ラレ候處右ハ單ニ身體検査ノ爲ニノミ出張ヲ命シ旅費ヲ支給スルハ不可能ト存候

(參考)

●異級連絡ノ場合ニ於ケル鐵道貨船買計算方

○内務省會計課通牒第百八十二號 大正十年五月二十五日
異級連絡ノ場合ニ於ケル鐵道貨船買ノ計算方ハ左記異級連絡乗車券發賣手續並通行稅徵收手續ニヨリ御取扱相成度

異級連絡乗車船券發賣手續

○鐵道院達第千二百六十七號 大正八年十二月二十二日
第一條 優等級ノ客車ヲ連結スル列車ノ運轉區間又ハ優等級ノ船室ヲ有スル汽船ノ運航區間ト之レカ運轉區間ト之レカ運轉又ハ運航ヲ缺ク區間トヲ通シテ旅行スル旅客ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ異級連絡乗車船券ヲ發賣スルモノトス
船車連絡旅客ニシテ汽船内ニ限リ優等級乗船ヲ希望スル場合亦前項

〔文會例〕

- ニ準ス
- 第二條 異級連絡乗車船券ニ對スル運賃左ノ如シ
 - 一 陸上ニ於テハ等級ヲ異ニスルトキハ全乘車區間ノ劣等級規定運賃ニ優等級區間ニ於ケル優劣等級各規定運賃ノ差額(優等級區間方二區ニ分ルトキハ各別ニ計算シタルモノ)ヲ加算シタル額但シ全乘車區間ニ對スル優等級規定運賃力右運賃ヨリ低廉ナルトキハ之ニ依ル
 - 二 陸上ト海上ト等級ヲ異ニスルトキハ各相等運賃ノ併算額
 - 第三條 異級連絡ノ場合ニ於ケル乘車船券ハ其ノ等級中優等ナルモノヲ使用シ適當ノ箇所ニ「何々間何等」ト劣等級ニ依ル區間ヲ明記スルモノトス
 - 第四條 本手續ハ定期、回数、團體乗車券發賣ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 通行稅徵收手續(抄)
- 鐵道院達第九百八十八號 大正二年四月二日
- 第八條 異級連絡乗車券ヲ發行スル場合ニハ優等乘車區間ノ哩程トヲ比較シ其何レカ長キ方ノ等級ニ依リ又雙方同一ナルトキハ優等級ニ依リ全乘車區間ノ哩程ニ相當スル通行稅ヲ徵收スルモノトス
- 第九條 連帶ノ乗車券ヲ發行スル場合ニハ院社ノ通算哩程ニ相當スル通行稅ヲ徵收スルモノトス

●臺灣滿鮮及樺太ト内地トノ間ニ於ケル旅費支給方

〔文會例〕

○會計課長回答 大正三年十月六日
九月二十一日附盛會第一四六號ヲ以テ臺灣滿鮮及樺太ト内地トノ間ニ於ケル旅費計算ニ關シ御照會相成候處同一額マテニ減額シ支給セラルル場合ニハ端哩數通算相成差支無之ト存候此段及回答候也
○盛岡高等農林學校照會盛會第四百四十六號 大正三年九月二十一日
明治三十九年五月十一日文部次官裁定臺灣滿鮮及樺太ト内地トノ間ニ於ケル旅費計算上哩數等ノ端數ハ切捨テ計算ノコトニ有之候實地指導ノ爲メ旅費額同一額マテニ減額シタル場合ニ於テモ各別端數ヲ切捨テ計算スヘキ候ニ有之候哉何分ノ御回答ヲ煩度及照會候也

●今回ノ行政整理、軍備整理又ハ軍制改革

ニ際シ職ヲ離ルル者ノ歸郷旅費ニ關スル件

○勅令第二百八十二號 昭和六年十二月五日
朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤者ニシテ今回ノ行政整理、軍備整理又ハ軍制改革ニ際シ職ヲ離ルル者ノ歸郷旅費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ内國旅費規則第二十一條ノ規定ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ得
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

内國旅費規則第二十一條
當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤二年以上ニシテ退官、退職、第十五章 旅費 第一節 内國旅費

●公務出張中發病轉地療養死亡者ニ對スル旅費支給方ニ關スル件

○大藏省主計局長回答第百二十二號 昭和二年一月十八日
八月六日付省會第九二號ヲ以テ出張中發病轉地死亡者ノ旅費支給方ニ關シ御照會ノ趣了承本件ハ本人ノ願意ヲ容レ一旦用務ヲ打切歸任ノ途中順路外ノ滞在療養ヲ爲スコトヲ許可セラレタルモノナルニ付字都宮今市間ノ鐵道賃及今市大原間ノ車馬賃ハ支給セサルコトトシ願意ニ依ル數日間ハ其ノ經過地又ハ滞在地ニ付定メラレタル日當及宿泊料ヲ支給相成可然省議ヲ經此段及御回答候也
追テ死亡後遺族ニ支給スル旅費ニ相當スル金額ニ付テハ字都宮及舊任地間又ハ大原及舊任地間ノ旅費ニ相當スル金額中少ナキモノヲ支給セラレ度申添候
○會計課長照會省會九十二號 大正十五年八月六日
公務出張中病氣ノ爲迂路經過療養ノ件別紙ノ通願出ニ依リ許可セシ處明治二十年三月三日大藏省主計局長回答ニ準シ相當期間旅費支給スヘキト尙本

人右旅費地ニ於テ死亡シタル場合旅費規則第十五條ニ依リ遺族ニ對シ在勤地迄ノ旅費ニ相當スル金額ヲ支給スヘキト併テ照會ス

- 一、栃木縣豐谷郡藤原村ハ本人ノ郷里
- 一、本人ノ住所ハ東京市外戸塚町諏訪一七七
- 一、病名ハ氣管枝肺炎
- 一、五月廿五日死亡
- 一、公務旅行豫定日數ヨリ超過期間八日間

(別紙)

病氣療養御願

私儀

豫算事項取調ノ爲本月四日東京發上田靈絲專門學校、新潟醫科大學、秋田山崎專門學校及米澤高等工業學校ニ出張中ノ處四日夜行列車急冷ノ爲上田市ニ於テ惡感ヲ覺エ候モ輕微ノ感冒ト被感候間押シテ新潟ニ用務ヲ果シ十一日秋田ニ來リ候處此頃ヨリ就寢中發汗アリ咳嗽益々甚シク體温三十八度ヲ超エ引續公務遂行難致候ニ付靜養致候ヘ共經過良好ナラス旅行中不安ニ不堪候ニ付任地ヘノ歸途栃木縣豐谷郡藤原村大字大原ニ於テ茲數日間療養ノ御許可相成度此段奉願候也

大正十五年五月十三日

秋田市ニテ

文部局 大 島

宏

文部大臣 岡田良平殿

●建築課出張所臨時費支辨ノ旅費ハ現金前渡金ヨリ支出方ノ件

○建築、會計課長決定 明治四十三年三月二十九日
出張所勤務ノ本官者ノ旅費ハ臨時費支辨ノ分モ從來本省會計課ニ要求シ是カ送金ヲ受クルコトニ相成居候處右ニテハ命令ヲ受ケ直ニ出發ヲ要スル場合ノ如キハ概算費請求ノ時日無之爲出發ニ際シ實際ニ差支ヲ來スコト有之候ニ付今後ハ現金前渡金ヲ以テ支拂ヲ受度旨今般出張所長會議ノ節各出張所長ヨリ申出有之候ニ付四十三年度ヨリ出張所勤務技師技手臨時費支辨ノ旅費ハ現金前渡金ヲ以テ支拂フコトニ致度相伺候也

●學生生徒ニ旅費支給ノ件

○會計課長決定 昭和五年九月二十日
御親閱ヲ受クルカ爲メ代表者ヲ選ヒテ學生生徒ヲ旅行セシムルカ如キ場合ハ旅費ヲ支給シ得ラルルヤ
學校代表者タル學生生徒ハ公務ニ依リ旅行スルモノニシテ内國旅費支給差支ナシ

●御親閱拜受ニ要スル經費ノ支辨科目ノ件

○會計課長通牒發會百九十三號 昭和十四年五月十八日
各大學及直轄諸學校長
貴學(校)學生、生徒ニシテ本月二十二日ノ御親閱拜受ニ要スル經費(往返、滞在旅費ノ外ニ汽車中ノ辨當代等ヲ含ム)ハ訓育費ヨリ支出相成様致度此

〔文會例〕

●赴任旅費年度區分ニ關スル件

○會計課長移譯 昭和二年六月十一日
○大藏省主計局長通牒 昭和二年五月三十一日
赴任旅費年度區分ニ付内務大臣官房會計課長ヨリ別紙甲號ノ通り照會有之候間別紙乙號ノ通り回答致シ置キ候爲念此段及御通牒候也

(別紙)

(甲號)
兩年度ニ跨リテ赴任旅行ヲ爲シタル場合ノ赴任手當、移轉料及家族移轉料ハ新舊何レノ年度所屬トスヘキ哉御意見承知致度

(乙號)

四月十三日附錄第四號ノ内ヲ以テ兩年度ニ跨リ旅行ヲ爲シタル場合ノ赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ年度區分ニ關スル御照會ノ趣了承右ハ赴任手當ハ後年度、移轉料ハ前年度、家族移轉料ハ其ノ構成スル内容ニ付本人ニ對スル各種旅費ノ年度區分ト同様ノ方法ニ依リ區分セラレ可然省議ヲ經此段及御回答候也

●赴任旅費支給方ニ關スル件

○會計課長回答 昭和三年一月二十五日
昭和二年十一月二十一日付會第一八四號ヲ以テ御照會相成タル貴校講師某ニ對スル赴任旅費支給上疑義ニ關スル件一ニ就テハ御意見ノ通ニ就テハ赴任者赴任ノ時即チ昭和二年十一月月上旬ヲ起算點トシテ處理スヘキモノト御了知相成度此段回答ス

○彦根高等商業學校長照會 昭和二年十一月二十一日

●轉任者ハ新任ノ爲召喚ノ際採用廳ヘ到着當日以降ハ旅費ヲ支給セサル件

(參考)

○内務省會計課依命通牒發會第一號 大正十年一月二十二日
客年勅令第七十六號ヲ以テ内國旅費規則中改正相成候ニ付テハ轉任若ハ新ニ任用スル爲召喚ノ際本人カ其ノ採用廳ヘ到着スルモ休暇又ハ其ノ廳ノ都合ニ依リ即日辭令書ヲ交付セサルコトアルモ到着當日以降ハ(註)到着當日宿泊料ヨリ支給セサル意)旅費ヲ支給スヘキモノニ無之候條御了知相成度

●樺太ヘ赴任スル者ニ對スル赴任手當ノ件

○會計課長回答 大正九年十月十一日
十月九日附會第四〇一號ヲ以テ赴任手當支給方ニ付御照會ニナリマシタカ右ハ樺太内旅費額ヲ標準トセラレ可然右同答ス

○京都帝國大學照會第四百一號 大正九年十月九日

本學職員今般當地ヨリ樺太演習林事務所ヘ赴任スルモノ有之候ニ付テハ赴任手當ノ儀ハ内國旅費規則第六條ニ依リ赴任地ニ於ケル日當五分宿泊料五夜分ニ相當スル額ヲ支給スヘキモノト相考ヘ候ヘ共右規則中赴任手當ハ出發地ニ於ケル定額ナルヤ又ハ赴任地ニ於ケル分ナリヤ明文無之候ニ付一應御意見承知致度

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

一、本校教師某大正十五年四月九日囑託他校ヨリ兼任講師(勿論名稱ハ單ニ講師)トシテ居住地京都市ヨリ通勤セリ然ルニ昭和二年十月二十日本校ノ專任講師トナリ當地ニ轉任スル必要ヲ生シ本月上旬赴任セリ内國旅費規則ニハ赴任者ニ對シ支給期間ニ制限ナキ様思考スルニ依リ支給シテ差支ナキヤ

二、家族ニ對スル家族移轉料ハ大正十五年四月九日ヨリ起算スレハ一年ヲ經過セルニ依リ當然支給不能ナルモ專任講師トナリタル昭和二年十月二十日ヨリ起算シテ支給差支ナキヤ

●帝國大學農學部助教赴任旅費支給方ニ關スル件

○會計課回答 昭和九年五月三十日

五月十六日付ヲ以テ貴學農學部助教ニ對スル赴任旅費支給方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ内國旅費規則第十條ニ依リ赴任旅費(鐵道賃、船賃、日當、宿泊料)ハ支給スル限ニ非ルモ同第六條所定ノ赴任手當、移轉料並ニ家族移轉料ハ支給差支無之ニ付右様御了知相成度此段回答ス

○九州帝國大學會計課照會 昭和九年五月十六日

本學農學部附屬樟太演習林勤務ノ助教某本學へ出張ヲ命セラレ出張期間滿期後私費ニテ福岡市ニ滞在中(病氣ノ爲)農學部附屬樟太演習林勤務ヲ免シ農學部附屬演習林兼農學部附屬樟太演習林勤務ヲ命セラレタリ

右ニ關シ本人ハ既ニ當地ニ出張後滞在中ノ者ナルヲ以テ赴任ノ事實ナシ依ツテ赴任旅費ハ支給シ得サルモノト解スルモ家族及家財類ハ前任地タリシ

〔文會例〕

〔文會例〕

●移轉料支給標準ニ關スル件

○文部大臣裁定 昭和十一年四月六日

内國旅費規則ニ依リ移轉料ノ支給標準内規別紙ノ通改正相成可然哉別紙

文部省移轉料支給標準内規

官階	區分	一六五軒未満	三三〇軒未満	六六〇軒未満	六六〇軒以上
親任官		一三五・〇〇〇	一八〇・〇〇〇	二二五・〇〇〇	二七〇・〇〇〇
勳任官		九九・〇〇〇	一三二・〇〇〇	一六三・〇〇〇	一九八・〇〇〇
奉任官		六七・〇〇〇	九〇・〇〇〇	一一三・〇〇〇	一三五・〇〇〇
判任官		四五・〇〇〇	六〇・〇〇〇	七五・〇〇〇	九〇・〇〇〇

備考

一、内國旅費規則ニ於テハ三三〇軒ヲ以テ一日行程ト規定スルカ故ニ其ノ半ニ相當スル一六五軒未満ヲ以テ半日行程ト推定シ次テ一日行程、二日行程及三日行程以上ト四ニ區分セリ

二、判任官ノ移轉貨物ヲ一噸半(自動車一臺)ト推定シ之カ鐵道運賃、荷造費、集配料等ノ合算額ヲ以テ移轉所要經費ト看做シ左ノ要領ニ依リ算出セリ

(イ) 一六五軒未満ニ付テハ其ノ最高軒程迄ノ經費ヨリ約二割ヲ減セリ、本省現行標準並ニ他省ノ規定等ヲ比較考量ノ上相當ト認ムルニ依ル

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

樟太ニアルヲ以テ之等ノ移轉ヲ要スヘク此場合内國旅費規則第六條所定ノ赴任手當

移轉料

家族移轉料

右旅費支給差支無之ヲ否ヤ(一)(二)(三)ニ付御教示被下度追而差迫リ決定ノ要有之何卒御含ミノ上及御依頼候

(參考)

●居住地ニ於テ任用後赴任シタル者ニ赴任旅費支給方

○内務省會計課回答第九十號 大正八年十一月三日

右ハ赴任手當移轉料共支給可相成モノト存候

○大阪府照會第三千七百五十號 大正八年十月二十五日

内國旅費規則第十一條ニ依リ新任者赴任旅費ヲ支給セントスル場合ハ必ス召喚ノ事實相伴フヘキモノト存候處茲ニ東京市内ニ居住ノ者ヲ便宜該居住地ニ於テ當府技手ニ任命スルト同時ニ同所ニ滞在狩獵取締事務講習ヲ受クヘキ旨ノ命令ヲ發セラレ該用務終了後始メテ登壇セルモノアリ此ノ場合ニ於テモ家具運搬等ニ多少ノ經費ヲ要シ一般赴任ト何等異ナル點無之候就テハ赴任旅費ヲ支給致度候處差支無之候哉疑義相生シ居候條折返シ何分ノ御指示相煩度候

(ロ) 一日行程二日行程共各其ノ最低及最高軒程ニ於ケル經費ヲ合算シ其ノ半ヲ取レリ、蓋シ各行程ノ半ニ相當スル經費ヲ支給スルコトニ依リ中庸ヲ得ントセルニ依ル

(ハ) 三日行程以上ハ最高額支給ヲ妥當ト認メ最高額ヲ揭ク

三、高等官ニ於テハ判任官ノ移轉料ヲ標準トシ内國旅費規則ニ依ル最高額ノ比例ニ依リ算出セリ

●内國旅費規則ノ移轉料支給方ニ關スル件

○會計課長通牒發會七十五號 大正八年六月二十四日

内國旅費規則ノ移轉料支給方ニ關シテハ豫算ノ經理上從來同規則所定額ニ一定ノ制限ヲ附シ減額相成居候處本年七月一日ヨリ右制限ヲ廢シ所定額ノ範圍内ニ於テ從前ノ通り路程ノ遠近、家族ノ多寡等ヲ參酌シ適宜支給スル事ニ決定相成候條御了知相成度此段及通牒候也

(參考)

●内國旅費規則ニ依リ家族移轉料ヲ支給スヘキ家族ノ範圍ニ關スル件

○内務省會計課通牒第二千五百一十一號 大正九年六月十七日

標記ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通奈良縣知事ノ問合ニ對シ別紙乙號ノ通回答致候條爲御參考及通牒候

(別紙)

(甲號)

○奈良縣問合 大正九年六月十一日
今同改正相成候内國旅費規則ニ家族ノ移轉料支給ノ規定有之候處右家
族トハ民法上ノ家族ノ謂ヒニ候哉若シ否ラストセハ如何ナル範圍ヲ意
味スル義ニ候哉疑圖ヲ生シ候ニ付乍御手数折返シ御意見承知致度及御
問合候也
(乙號)

○内務省會計課答第百二十五號 大正九年六月十七日
六月十一日付會第三〇四〇號御問合ニ係ル標記ノ件ハ赴任者ト同一戸
籍内ニ在ル家族ニシテ赴任者カ扶養セルモノト解シ可然存候

●家族移轉料支給方ノ件(其ノ一)

○會計課長移轉官會四百六十九號 大正十年十月二十五日

直轄部局長

(別紙)

○大藏省主計局長回答

七月二十八日附乙二第八四九號ヲ以テ内國旅費支給方ニ關シ御照會ノ趣
了承右ハ支給シ得サル儀ト御了知相成度此段及回答候也

○農商務省會計課長照會乙二第八四十九號 大正十年七月二十八日
内國旅費規則ニ關シ左記事項疑義ニ涉候條貴省ノ御意見承知致度此段及
照會候也

一 夫ノ赴任後其ノ妻出產シテ一箇年以内ニ嬰兒ヲ伴ヒ夫ノ任地ニ移轉
シタル場合ニ嬰兒ニ對スル家族移轉料ハ支給差支ナキヤ

〔文會例〕

二 甲地ヨリ乙地ニ轉任シタル者赴任後一箇年内ニ甲地ヨリ妻ヲ娶リ任
地ニ呼寄セタル場合ニ妻ニ移轉料ヲ支給シ得ルヤ

●家族移轉料支給方ノ件(其ノ二)

○會計課長移轉官會五百三十四號 大正十年十二月十四日

直轄各部局長

○大藏省主計局長通牒

内國旅費規則ニ依ル家族移轉料支給方ニ關シ疑義ノ件内務大臣官房會計課
長ヨリ別紙乙號ノ通照會ニ對シ甲號ノ通回答致置候條爲念此段及通牒候也
(別紙)

(甲號)

○大藏省主計局長回答第一萬二千二百三號 大正十年十一月二十九日
五月十日附長第二六號ヲ以テ御照會相成候内國旅費規則ニ依ル家族移
轉料支給方ニ關シ疑義ノ件左ノ通御了承相成度此段及御回答候也

記

一 丙地ニ赴任ノ場合ニ於テ舊任地以外ノ甲地ニ滞在スル家族ノ移轉
料ハ旅費規則第十條ノ二ノ規定ニ準シ支給スルヲ原則トス但シ家族
カ本人ノ甲地出發ノ翌日ヨリ起算シ一年内ニ甲地ヨリ新任地タル丙
地ニ移轉スルトキハ旅費規則カ家族移轉料ヲ支給スルノ精神ニ鑑ミ
恰モ本人カ甲地ヨリ直ニ丙地ニ赴任シタル場合ト同様ニ甲地丙地間
ノ額ヲ支給スヘキモノト解釋スルヲ適當ト認ム

〔文會例〕

〔文會例〕

三 執レモ本人出發ノ日ノ現在人員ニ依ル
四 第一項(前記)本文ノ場合ニ於テハ乙地出發ノ日ノ翌日ヨリ又但書
ノ場合ニ於テハ甲地出發ノ日ノ翌日ヨリ起算スルモノトス
(乙號)

○内務省會計課長照會第二十六號 大正十年五月十日
家族移轉料支給方ニ關シ左記ノ疑義有之候條御意見承知致度
記

- 一 甲地ヨリ乙地ニ赴任シ更ニ丙地ニ赴任セル者ノ家族カ甲地ヨリ丙
地ニ移轉ノトキ家族移轉料ハ甲地丙地間ノ額ヲ支給スヘキヤ
- 二 前號ノ場合家族移轉料ヲ支給スヘキ家族ハ何時ノ現在員ニヨルヘキ
ヤ
- 三 家族カ赴任者ト同時ニ新任地ニ移轉スル場合又ハ家族ナキ赴任者
カ赴任ノ場合ニ於テ轉任辭令發令ノトキ若ハ新々ニ任用ノ爲召喚セ
ラルル者其ノ通知ヲ受ケタルトキヨリ赴任旅行ヲ終ル直前迄ニ家族
トナリタル者ニモ家族移轉料ヲ支給スヘキヤ
- 四 第一號ノ場合ニ於テ内國旅費規則第六條第四項ノ所謂一年ハ何時
ヨリ起算スヘキヤ

●鐵道貨支給方ノ件

○會計課長決定 大正二年三月二十八日
大正二年度ヨリ内國旅費規則第二條中ノ鐵道貨トアルヲ鐵道法ニ依リ敷設
セラレタル鐵道ニ依リ運搬セラレタル場合ト認メ處理ヲ要ス
(備考)

●順路並ニ急行料金及日當支給方ノ件

○内務省會計課回答第二十一號 大正十三年五月五日
五月二日附子會發第五六一號御照會ニ係ル標記ノ件第一第三第四ハ御
見込ノ通り第二ハ前段御見込ノ通りト存候

○東京府照會子會發第五百六十一號 大正十三年五月二日
左記ノ廉聊カ疑義相生シ候條何分ノ御回答相煩度候也
記

- 一 汽車旅行ノ場合其ノ用務地ニ達スルニ二線以上ノ鐵道アルトキ其
ノ哩程ノ近キノミヲ以テ順路ト認メ至便ナル線路ニ依リ旅行スル
ヲ順路ト認メ可然哉例ヘハ東京ヨリ京都市又ハ大阪市及其ノ以西ヘ
旅行ノ場合名古屋ヨリ關西線ニヨリ柘植、貴生川ヲ經テ京都市ヘ又
柘植、奈良ヲ經テ大阪市ヘ及柘植、木津、京都、大阪等ノ驛ヲ經テ
山陽線ニ連絡スル如キ線路ニ依ラス東海道線ニ依リ岐阜、米原等ノ
驛ヲ經由スヘキヲ順路トシ又三重縣山田ヘ旅行ノ場合四日市驛津驛
間社線ニ依ラスシテ省線龜山驛ヲ經由スヘキヲ順路ト認メ可然哉
- 一 義ニ岐阜縣ノ照會ニ對シ大正九年六月課第二六六號御回答ニ依レ
ハ「一回ノ乘車區間五十哩以上ナルニ於テハ其ノ内急行列車ノ運轉
アル區間五十哩未滿ナルモ急行料金を支給シ得」ト有之右一回ノ乘
車トハ出發地ヨリ用務地ニ到着スル迄ノ間列車運轉系統上乘繼又ハ
乗換ヲ要スルコトアル場合アルモ之ヲ通シテ一回ノ乘車ト認ムヘキ
ヤ或ハ乘繼又ハ乘換迄ヲ以テ一回ノ乘車ト認ムヘキヤ
- 一 五十哩以上ノ汽車旅行ニシテ其ノ區間急行列車ノ運轉ナキモ其ノ
列車通過路ノ一部分カ急行列車ヲ運行スル線路ニ依ル場合例ヘハ門

司馬ヨリ大分縣迄乗車ノ場合該列車ハ門司小倉間ハ急行列車ヲ運行スル線路ヲ通過スルヲ以テ之ニ對シ急行料ヲ支給スヘキヤ

一 鐵道四十八哩未滿ノ旅行ニ在リテハ規則第八條ニ依リ日當ハ定額ノ半額ヲ支給スヘキモ都合上鐵道ニ依ラスシテ官用ノ車馬ヲ給シ旅行ノ場合其ノ里程六里以上ナルニ於テハ日當一日分ヲ支給シ可然哉例ハ東京橫濱間ヲ汽車旅行ノ場合ハ日當半額ヲ支給シ官用ノ車馬ヲ給シテ旅行ノ場合ハ日當一日分ヲ支給シ差支無之哉

●急行料支給方ニ關スル件(其ノ一)

○會計課長回答 大正十五年六月五日

一、米澤仙臺間(七五哩三)

右ノ急行料ハ米澤福島(乘替)間二六哩一ノ分ト福島仙臺間四九哩二ト二線路分ノ急行料

理由 出發地ト用務地間ノ哩數七五哩三ナリ、途中福島ニ於テ乘替ヲ要スル爲之ヲ區分ストキハ何レモ五哩未滿トナルモ出發地ト用務地間五十哩以上ノモノニ付二線路分ノ急行料ヲ支給スルモノトス

二、米澤上野間(一九四哩一)

右一等運賃支給者ノ急行料ハ米澤福島間二六哩一ノ分ト福島上野間一六八哩ト二線路分ノ急行料

理由 出發地ト用務地間ノ哩數一九四哩一ナリ、米澤福島間ハ一等車ノ運轉ナキ爲運賃ハ區分計算スルヲ要ス、此ノ場合米澤福島間ハ二六哩一福島上野間ハ一六八哩トナルモ是亦出發地ト用務地間五十哩以上ノモノニ付二線路分ノ急行料ヲ支給スルモノトス

○米澤高等工業學校長照會 大正十五年五月二十八日

〔文會例〕

(乙號)

○大藏省主計局長回答藏計第二百九十二號 昭和二年五月十九日

客年十二月二十三日附會甲第四、四六三號ヲ以テ大正九年大藏省令第十六號第一條第四號ニ依ル急行料金支給方ニ關シ御照會ノ件

右ハ一ニ付テハ中村ヨリ福島迄ノ旅行ハ順路ニ依リ急行列車ニ乗車シ得サルヲ以テ其ノ二區間ニ對スル一等及二等急行料金、二ニ付テハ福島ヨリ小牛田迄ノ旅行ハ一等急行料金ヲ以テ支辨シ得ルヲ以テ仙臺ヨリ小牛田間ノ如キ前途五十哩未滿ノ上級急行料金、三ニ付テハ小倉ヨリ小郡迄ノ旅行中小倉門司間ハ乘車區間近距離ニシテ急行ノ要ナキヲ以テ其ノ區間ノ急行料金ハ孰レモ之ヲ支給セサルコトニ致度省議ヲ經此段及御回答候也

○會計課長通牒 明治二十九年十月九日

●汽船ノ通セサル水路ノ旅費支給方

直轄各部長

内國旅費支給方ニ關シ別紙甲號寫ノ通大藏省主計局ハ照會候處乙號寫ノ通回答有之候此段及御通牒候也

(別紙)

(甲號)

- 一 汽船貨ハ河、海、湖、沼ヲ間ハス水路ヲ旅行セシトキ之ヲ支給スヘキヤ又ハ汽船ノ通スル水路ヲ旅行セシ場合ノミ之ヲ支給スヘキヤ
- 一 前項末段ノ通トセハ汽船ノ往復ナキ水路ヲ帆船等ニテ旅行セシトキハ陸路ニ換算車馬賃ヲ支給スヘキヤ又ハ沿岸等ノ陸路ニ依リ車馬賃ヲ支給スヘキヤ

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

米澤仙臺間及米澤上野間ノ急行料ハ左記ノ通り支給可然哉何分ノ御回報相煩度此段御照會候也

(左記省略)

●急行料支給方ニ關スル件(其ノ二)

○會計課長移譯官會百十二號 昭和二年六月十三日

直轄各部長

○大藏省主計局長通牒 昭和二年五月十九日

司法大臣官房會計課長ヨリ急行料金支給方ニ關シ別紙甲號ノ通り照會有之候間別紙乙號ノ通り回答致シ置キ候此段爲念及御通牒候也

(別紙)

(甲號)

○司法大臣官房會計課長照會會甲第四百六十三號

大正十五年十二月二十三日

大正九年五月大藏省令第十六號第一條第四號ニ依リ急行料金支給方ニ付委任官方左記旅行ノ場合ニ於テ各區間相當級ノ急行料金ヲ支給シ差支ナキヤ若シ一個分ヲ支給スルトセハ何レノ等級ニ依リ支給スヘキヤ御意見承知致度

- 一、中村ヨリ福島迄ノ旅行ニ於テ中村岩沼間一等急行料金ヲ徵スル線路二十二哩五分岩沼福島間二等急行料金ヲ徵スル線路三十八哩二分
- 二、福島ヨリ小牛田迄ノ旅行ニ於テ福島岩沼間前項ノ通り岩沼小牛田間一等急行料金ヲ徵スル線路三十八哩一分
- 三、小倉ヨリ小郡迄ノ旅行ニ於テ小倉門司間七哩三分門司下關間一哩五分下關小郡間四十三哩五分

〔文會例〕

(乙號)

内國旅費規則汽船賃支給方ノ件ハ汽船ノ通スルト否トニ拘ハラス旅行順路カ水路ナルトキハ汽船賃ヲ支給シ可然存候得共海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ニハ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給シ可然回答

●水路旅行ヲ爲ス場合ノ順路ニ關スル件

○會計課長通牒官會百八十二號 昭和十二年十月四日

官吏以下公務ニ依リ水路旅行ヲ爲ス場合ノ順路ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙寫ノ通牒有之タルニ付御了知相成度移譯ス

(別紙)

官吏以下公務ニ依リ旅行スル場合水路旅行ニ付テハ旅費規則上本邦船舶ニ依ルヲ以テ順路トスルコトニ決定相成候條爾今右ニ依リ御取扱相成候様致度此段及通牒候也

●内國旅費規則ニ依ル船賃支給方ニ關スル件

○會計課長移譯官會百九十九號 昭和八年一月十九日

收支ヲ執行スル部局長

内國旅費規則ニ依ル船賃支給方ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙寫ノ通牒有之タルニ付御了知相成度此段爲念移譯ス

(別紙)

○大藏省主計局長通牒藏計第七百五十二號 昭和八年十月十一日

内國旅費規則ニ依ル船賃支給方ニ關シ司法大臣官房會計課長ヨリ別紙

甲種ノ通照會アリタルニ付別紙乙種ノ通照會致置候條依命此段及通照候也

(別紙)

(甲號)

船賃支給ノ計算方ニ付テハ大正九年大藏省令第十六號ノ規定スル處ナルモ尙船賃ニシテ一、二、三等ノ外特別一等又ハ一、二、三等ノ内二等ヲ甲乙ニ區分スルモノニ在リテハ高等官、判任官ニハ如何ナル船賃ヲ支給スヘキヤ御意見承知致度

(乙號)

七月十九日附司法省會甲第二四五二號ヲ以テ内國旅費規則ニ依ル船賃支給方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ内國航路ノ船舶ニ限リ特別一等ハ之ヲ一等トシ高等官ハ兩種一等ノ中、判任官ハ二等ノ中上級ノ運賃ハ實際ニ於テ乘船シ且右ノ乘船力當該事情ニ鑑ミ適當ト認メラル、場合ニ於テハ之ヲ支給相成可然ト被存候條經省議此段及回答候也

●航路ニ關スル旅費計算方ノ件

○會計課長決定 明治四十年九月二十一日

甲種ヨリ乙種ニ向テ航行中事故アリテ甲乙間ニ於ケル丙港ニ上陸シタル場合ノ海里計算上甲乙間ノ海里數ハ本省使用ノ海里程表ニ揭示シアルモ甲丙間ノ海里程表揭示ナキ場合ニ於テ郵便線路圖ニ依リ計算スルトキハ寄港ノ箇所多キ爲メ甲丙間ノ海里數ハ甲乙間ノ海里數ヨリモ却テ増加スル場合ヲ生スルコトアリ右増加ノ儘ニテ計算シ旅費ヲ支給スルハ甲乙間ノ旅費支給ニ對比シ程ナラサル取扱ト相成候ニ付此ノ如キ場合ニハ便宜甲乙間ノ海里數

ニ於テ計算シ旅費支給相成可然

(參考)

●航海中暴風ニ遭ヒ目的外ノ地ニ漂着セシトキ旅費支給方ノ件

○司法省通達會檢甲第三百九十一號 明治二十二年五月十七日

航海中暴風ニ遭ヒ目的外ノ地ニ漂着ノ節旅費ヲ支給スルハ乘船ノ地ヨリ目的地迄ノ汽船賃ヲ給シ(船主ヨリ乘船賃ヲ返戻スルカ如キ場合ハ支給ノ限ニアラス)尙漂着地ヨリ御用地迄乗替ノ汽船賃又ハ陸行ナレハ汽車賃、車馬賃及ヒ其日數ニ應シ日當ヲ支給有之度此段及通達候也

●北海道帝國大學附屬水産專門部及文部省直轄商船專門學校練習船乘組員ニ支給スル日當及食卓料ノ件

○會計課長通達發會百九十三號 大正十五年六月七日

北海道帝國大學 附屬水産專門部 及文部省直轄商船專門學校練習船乘組員ニ支給スル日當及食卓料ハ内國旅費規則第十七條第二項、外國旅費規則第五條及南洋群島關東州南洋洲旅費規則第五條ニ依リ別表ニ掲グル金額ノ範圍内ニ於テ支給スルコトニ決定セシニ付右通達ス

〔文會例〕

別表

區分	日當		食卓料		一夜	
	外國航海	内國航海	内國航海又ハ定港港碇泊	外國航海	外國航海	外國航海
船長	五圓五十錢	三圓五十錢	一圓六十錢	二圓	二圓	二圓
其ノ他ノ者	四圓五十錢	二圓五十錢	一圓六十錢	二圓	二圓	二圓
判任官	三圓	一圓五十錢	一圓三十錢	一圓五十錢	一圓五十錢	一圓五十錢
職員	二圓五十錢	一圓二十錢	一圓二十錢	一圓四十錢	一圓四十錢	一圓四十錢
水夫	一圓五十錢	八錢	八錢	一圓	一圓	一圓
火夫	一圓二十錢	七錢	六錢	九錢	九錢	九錢
水手	一圓	六錢	六錢	九錢	九錢	九錢
木匠	一圓	六錢	六錢	九錢	九錢	九錢
船主	一圓	六錢	六錢	九錢	九錢	九錢

備考

一、南洋群島關東州南洋洲内ノ航海若クハ此等地域相互間ノ航海又ハ南洋群島關東州南洋洲ト其ノ他ノ地方トノ間ノ航海ニ就テハ外國航海ト同様ノ日當及食卓料ヲ支給ス

二、判任官以上ノ待遇ヲ受クル者、職託員及雇員ニ就テハ本表金額ノ範圍内ニ於テ「文部省及直轄各都府員其ノ他ノ旅費規則」判任官以上ノ待遇ヲ受クル者職託員及雇員ニ支給スル外國旅費規則」及「判任官以上ノ待遇ヲ受クル者職託員雇員及雇員ニ支給スル南洋群島關東州南洋洲旅費規則」ヲ適用ス

●海洋氣象臺觀測船乘組員日當及食卓料支給規程

○文部大臣決定氣會三十號 昭和二年五月二十六日

第一條 觀測船乘組員ニハ別表ニ依リ航海日當及食卓料ヲ支給ス

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

第十五章 旅費 第一節 内國旅費
一ヶ月分ヲ限リ前金拂トナスコトヲ得
別表

備人	其他ノ者	船長	区分		
			航海日當(一日ニ付)	食卓料(一夜ニ付)	外國航海
水夫、火夫、舵夫、油差、賄夫、給仕	判任官	判任官	一、二〇〇	〇、七〇〇	〇、五〇〇
囑託員、雇員(手當給料月額五十五圓未滿)	判任官	判任官	一、二〇〇	〇、七〇〇	〇、八〇〇
	奏任官	奏任官	二、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	判任官	判任官	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇
			五、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇

備考

- 一、南洋群島、關東州、南滿洲内ノ航海若クハ此等ノ地域相互間ノ航海又ハ南洋群島、關東州、南滿洲ト其他ノ地方トノ間ノ航海ニ就テハ外國航海ト同様ノ日當及食卓料ヲ支給ス
- 二、判任官以上ノ待遇ヲ受ケル者、囑託員及雇員ニ就テハ本表金額ノ範圍内ニ於テ「文部省及直轄各部雇員其ノ他ノ旅費規則」「判任官以上ノ待遇ヲ受ケル者、囑託員、雇員及傭人ニ支給スル外國旅費規則」及「判任官以上ノ待遇ヲ受ケル者、囑託員、雇員及傭人ニ支給スル南洋群島、關東州南滿洲旅費規則」ヲ適用ス

〔文會例〕

●航海練習所練習船乗組員航海日當及食卓料支給ノ件

○次官裁定 昭和六年一月二十一日
改正 昭和九年三月、一三年四月
本所練習船乗組員ニ支給スル航海日當及食卓料ニ關シテ昭和六年一月十五日ヨリ別表ノ通改正ノ上支給相成可然哉
別表

備人	其他ノ者	船長	区分		
			航海日當(一日ニ付)	食卓料(一夜ニ付)	外國航海
水夫、火夫、舵夫、油差、賄夫、給仕	判任官及囑託員(給料手當月額五十五圓以上)	判任官及囑託員(給料手當月額五十五圓未滿)	二、五五〇	〇、八〇〇	〇、八五〇
			一、〇五〇	一、二〇〇	〇、八五〇
			〇、七〇〇	一、二〇〇	〇、八五〇
			〇、五五〇	一、一〇〇	〇、八五〇
			〇、三五〇	一、〇〇〇	〇、八五〇
			〇、四五〇	〇、七五〇	〇、八五〇
			〇、三五〇	〇、五五〇	〇、八五〇
			〇、四五〇	〇、五五〇	〇、八五〇

備考

- 一、南洋群島、關東州、南滿洲内ノ航海若クハ此等ノ地域相互間ノ航海又ハ南洋群島、關東州、南滿洲ト其他ノ地方トノ間ノ航海ニ就テハ

●飛行機ニ依リ旅行シタル者ニ對スル旅費支給方ニ關スル件

○會計課長移譯官會ニ號 昭和五年一月十七日
○大藏省主計局長通譯 昭和五年一月六日
飛行機ニ依リ旅行シタル者ニ對スル旅費支給方ニ關シ別紙甲號ノ通達信省經理局長ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通り回答致置候條御了知相成度此段爲念及御通譯候也
(別紙)
(甲號)
當省職員ニシテ職務上ノ必要ニ依リ飛行機ニ依リ旅行シタル者有之候處斯ル場合ニ於ケル旅費支給方不明ニ付至急何分ノ御指示相煩度候
(乙號)
客年十一月十八日附查第二八一號ヲ以テ飛行シタル者ニ對スル旅費支給方ニ付御照會ノ件了承右ハ現行旅費規則ニ於テ豫想セサル所ナルヲ以テ明瞭ナル規定ヲ設ケル爲同規則改正方目下考究中ニ屬スルモ差當リ各旅費規則ノ定ムル車馬賃ニ關スル規定ヲ適用シ飛行機搭乗ニ要スル賃金ノ實費ヲ支給シ、宿泊料ニ付テハ水路旅行ノ場合ニ於ケル食卓料トノ權衡モ有之候ニ付各定額ノ範圍内ニ於テ相當減額支給スルコトト致度此段及回答候也

〔文會例〕

- 外國航海ト同様ノ日當及食卓料ヲ支給ス
- 一、昭和九年三月十六日改正、同年四月一日ヨリ施行
 - 二、昭和十三年四月二十八日、航庶第五十二號改正、同年五月一日ヨリ施行

●内國旅費規則陸路算定方ニ關スル件

○會計課長移譯會八十四號 昭和八年五月二十四日
○大藏省主計局長通譯計第三百三十號 昭和八年五月一日
内國旅費支給上路程ノ計算ハ陸路ハ原則トシテ最近刊行ノ郵便線路圖ニ依ルコトニ各省トモ一定シアル處今同刊行セラレタル郵便線路圖ハ「メートル」制ヲ採用シアル結果内國旅費規則運用上ノ便ヲ圖ル爲陸路ノ計算ニ付テハ當分ノ中昭和五年刊行ノ郵便線路圖ニ依ルコトトシ之ニ依リ難キモノハ最近刊行ノ郵便線路圖(四軒ヲ一里トス)ニ依ルコトニ一定致候條經省議此段及通譯候也
追而右郵便線路圖ニ依リ難キ場合ハ從來ノ如ク地方官廳若ハ市町村長ノ證明スル處ニ依ルハ勿論ノ義ニ付爲念申添候

●兩年度ニ跨ル端里數旅費計算方

○會計課長移譯 明治二十三年十二月十二日
○大藏省總務局長通譯 明治二十三年十二月九日
旅行中兩會計年度ニ相跨ルトキノ端里數ハ各切棄相成可然旨御問合ノ向ハ回答ニ及置候次第モ有之候處爾今ハ其端里數ヲ通算シ一里ニ滿ツルモノハ旅費支給シ之ヲ後年度ノ精算ニ立ツル方可然省議ヲ經テ此段御通譯ニ及候也

●旅行中資格ヲ異ニシタル時ノ端里數旅費支給方

〔文會例〕

〔注意〕

學術實地研究旅費ニ就テハ適宜減額支給スルコトヲ得ト改正(大正八年十二月二十六日發會一五六號文部大臣訓令參照)相成タルニ付必シモ減額スルヲ要セス

●内國旅費規則第十七條ノ二第二項ノ解釋ノ件

○會計課長移譯 大正十五年十月十四日
○大藏省主計局長通譯計第六百七號 大正十五年十月八日
通譯內容

(別紙)

○内務省照會 大正十五年五月二十四日
同一地ニ長期間出張ヲ被命タル者滞在中事務打合等ノ爲一時歸郷ノ場合ニ於テ其ノ旅費ハ内國旅費規則第十七條ノ二第二項ニ依リ前後ノ滞在日數ヲ通算シテ定ムヘキ儀ニ有之候哉至急御意見承知致度此段及照會候也

○大藏省主計局長回答 大正十五年十月八日
五月二十四日付長第一一號ノ内ヲ以テ内國旅費規則第十七條ノ二第二項ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ滞在中事務打合等ノ爲一時歸郷シタル場合ハ之ヲ包含スルモノニ有之候但シ適々前回ト同一地ニ更ニ出張ヲ命セラレタル如キ場合ハ此ノ限ニ在ラサル儀ニ付爲念右經省議及御回答候也

○次官裁定 明治二十八年三月四日

囑託者ニ給スル旅費額ハ其ノ待遇ノ資格ニ依リ支給スルコトニ相成居候處茲ニ北海道へ出張中二十七年七月十日マテ判任待遇翌十一日ヨリハ奏任待遇トナリタル者アリ其ノ總旅行ノ里數ヲ計算スルトキハ左記ノ通ニ有之而シテ壹里以上ニハ旅費ヲ支給スルノ規定ナルニ依リ右各端數ヲ通スル時ハ壹里以上トナリ旅費支給ヲ要スルモ右ハ兩資格ノ分ヲ通シテ壹里以上トナリタル義ニ付奏判任何レノ資格ニ應シテ支給スヘキキ右支給方法ニ付テハ何等ノ規定無之候就テハ右ハ判任ノ方即チ旅行ノ多キ方ノ端數ヲ壹里ニ繰上ケ奏任ノ方即チ旅行ノ少ナキ方ノ端數ヲ切捨テ計算支給シ可然ト被存候依テ此段相伺候也

Table with 2 columns: 汽 車 and 陸 路. Rows include 判任 (四四四哩六六領, 二七三〇丁一八間), 奏任 (五四四哩二七領, 三六六里 八丁 九間).

●内國旅費規則第十七條ノ取扱方ニ關スル件

○會計課長通譯 明治四十三年七月十三日
直轄各部長
内國旅費規則第十七條第二項ノ執行方ハ學校長團長等ニ委任セラレ候ニ付必要ノ場合ニ於テハ適宜御執行相成度尙學術實地研究旅費支給方ハ從來ノ訓令ニ依リ適宜減額支給可相成義ニ有之候依命此段及通譯候

〔文會例〕

●内國旅費規則第十七條ノ二ノ意義ニ關スル件

○會計課長移譯 昭和二年八月二日
○大藏省主計局長通譯計第五十號 昭和二年七月十八日
内國旅費規則第十七條ノ二ノ同一地ノ意義ニ關シ内務大臣官房會計課長ヨリ別紙甲號ノ通り照會有之候ニ付別紙乙號ノ通り回答致置候間爲念此段及御通譯候也

(別紙)

(甲號)

内國旅費規則第十七條ノ二ニ所謂同一地トハ市町村ノ全區域ヲ指スモノナリヤ果シテ然リトセハ同一市町村内ニ滞在スルコト十日ヲ超ユル以上北海道ニ於ケル町村ノ如ク其ノ區域非常ニ廣汎ニ涉リ旅行上日々宿泊場所ヲ異ニセサルヲ得サル場合ト雖定額ヲ減少セサル可ラサル次第ニシテ聊カ權衡ヲ失スルモノト被存候ニ付テハ一應貴省ノ御意見承知致度候

(乙號)

四月七日附北第二五號ノ内ヲ以テ内國旅費規則第十七條ノ二ノ同一地ノ意義ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ一市町村ト同様ノ趣旨ト解セラレ可然但シ一市町村内ト雖陸路三里、鐵道二十四哩又ハ水路十五海里以外ノ地ニ出張シ鐵道貨船貨車馬賃ノ支給ヲ受ケ公務ノ都合ニ依リ異リタル場所ニ宿泊ヲ要シタル場合ノ如キハ之ヲ同一地トシテ取扱ハサルコトニ致度經省議此段及御回答候也

●建築又ハ會計事務ノ爲同一地ニ滞在三十日以上ニ渉ルトキ月額旅費支給ノ件

○次官裁定發會七十七號 大正九年七月七日
改正 大正九年一六號

建築又ハ會計事務ノ爲地方ニ派遣スル吏員ニシテ滞在三十日以上ニ渉ルトキノ月額旅費支給額左ノ通改正ス

- 一 高等官 月額 六拾五圓以内
- 一 判任官及囑託 月額 五拾圓以内
- 一 雇員(月俸五拾五圓以上ノ者)月額五拾圓以内
- 一 雇員(月俸五拾五圓未滿ノ者)月額參拾五圓以内
- 一 一ヶ月未滿ノ端日數ハ前乘、後除ノ法ヲ以テ日割計算トス
- 一 前記月額ノ範圍内ニ於テ會計課長ハ實況ニ應シ適宜其ノ支給額ヲ決定スヘシ
- 一 大正九年六月一日ヨリ前記ノ月額ニ依リ支給ス

●月額旅費減額ノ件

○文部次官通牒發會三百四十三號 昭和五年七月三日

大官房會計課、同建築課

建築又ハ會計事務ノ爲地方ニ派遣スル吏員ニシテ滞在三十日以上ニ渉ルトキノ月額旅費ハ當分ノ中左ノ通改正ス

- 一 高等官 月額五十八圓以内
- 一 判任官及囑託 月額四十五圓以内

〔文會例〕

- 一 雇員(月俸五十五圓以上ノ者) 月額四十五圓以内
- 一 雇員(月俸五十五圓未滿ノ者) 月額三十二圓以内

昭和五年七月十五日ヨリ前記ノ月額ニ依リ支給ス

(參照)

- 大正九年七月七日發會七十七號次官裁定ニ保ル月額旅費支給額左ノ通
- 一 高等官 月額六拾五圓以内
- 一 判任官及囑託 月額五拾圓以内
- 一 雇員(月俸五拾五圓以上ノ者) 月額五拾圓以内
- 一 雇員(月俸五拾五圓未滿ノ者) 月額參拾五圓以内
- 一 一ヶ月未滿ノ端日數ハ前乘、後除ノ法ヲ以テ日割計算トス
- 一 前記月額ノ範圍内ニ於テ會計課長ハ實況ニ應シ適宜其ノ支給額ヲ決定スヘシ
- 一 大正九年六月一日ヨリ前記ノ月額ニ依リ支給ス

(參考)

●月額旅費ヲ受クルモノノ病氣等滞在ノ場合旅費支給方

○内務省庶務局土木局通牒庶甲第二百五十三號 明治二十九年十二月十二日

(土木監督員旅費月額支給規程)中測量其他事業ニ從事シ月額旅費ヲ受クルモノノ病氣引及忌引滞在ノ場合ニ在テモ普通旅費ノ日當ヲ給セス月額旅費ヲ給シ可然事ニ決定セラレ候條爲御心得此段及通牒候也

〔文會例〕

●建築用務上月額旅費支給ノ件

○文部大臣裁定 明治四十二年七月九日

建築用務ヲ帶ヒ出張スル者ノ旅費ハ滞在三十日マテハ普通旅費ヲ給シ三十日以後ハ月額旅費ヲ支給スル事ニ御裁定相成候處事情ニ依リテハ滞在中普通旅費ヲ給セス直ニ既定ノ月額旅費ヲ支給シ得ル事ニ致度此段仰御裁定候也

〔文會例〕

ハ定額ノ三分ノ一ニ相當スル日當ヲ其ノ行程四里以上ニ渉ルトキハ定額ノ半額ニ相當スル日當ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要シタルトキハ宿泊料ヲ支給ス

第二條 在勤處所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ引續キ五時間以上公務ニ從事スルトキハ定額ノ三分ノ一ニ相當スル日當ヲ引續キ八時間以上公務ニ從事スルトキハ定額ノ半額ニ相當スル日當ヲ支給ス

前項ノ規定ハ帝國議會ニ其ノ會期中出張スル者及事務ノ打合又ハ會議ノ用務ニ依リ出張スル者ニハ之ヲ適用セス

第三條 前二條ノ場合ニ官用ノ船車馬ニ依リ出張スルトキハ之ニ支給スヘキ日當ハ更ニ其ノ半額トス

第四條 在勤處所在地又ハ在勤處所在地外ノ市町村内ニ於テ陸路三里、鐵道三十九軒、水路十五哩以外ノ地ニ出張スルトキハ内國旅費規則、文部省所管内國旅費規則ニ依ル鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給ス

交通不便其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ多額ノ船車馬賃ヲ要シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第五條 一日中旅費ノ支給額ヲ異ニスル場合ハ其ノ多キ額ヲ支給ス

附則 本細則ハ大正十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

○文部次官裁定 大正二年九月十九日

東京帝國大學農科大學東京實業講習所其ノ他右ト大約同等ノ距離ノ所へ出

●在勤處附近出張取扱方ノ件

○文部次官裁定 大正二年九月十九日

東京帝國大學農科大學東京實業講習所其ノ他右ト大約同等ノ距離ノ所へ出

●建築課出張所へ出張中ノ者ニ歸着當夜ノ宿泊料支給セサルノ件

○文部次官裁定 昭和四年一月二十五日

本課各出張所へ出張中ノ者臨時用務ニテ他へ出張シタル場合歸着當夜ノ宿泊料ハ之ヲ支給致シ居リ候處右出張中ノ者ハ永ク同一地ニ滞在シ月額旅費ヲ受クル者ニ付歸着當夜ノ宿泊料ヲ支給スルハ少敷厚過ニ過タルモノト認メラレ候ニ付經費節約ノ趣旨ヲ以テ内國旅費規則第十七條ニ據リ前記宿泊料ハ爾今支給セサルコトニ決定ス

●文部省及直轄各部職員同一市町村内出張旅費支給細則

○文部省訓令第一號 大正十五年二月十七日

改正 昭和五年第四號

文部本省 直轄各部

第一條 在勤處所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ其ノ行程二里以上ニ渉ル時

張セシムルトキハ普通出張ノ手續ニ依ラス各部局長ニ於テ出張方相命シ可然歟

追テ特別ノ場合外ハ雜費ヨリ車賃支給致シ可然歟併テ仰高哉

●文部本省職員同一市町村内出張命令方

○會計課長通知會二百三十九號 大正十五年二月十七日

本省 各部

二月十七日文部省訓令第一號文部省及直轄各部職員同一市町村内出張旅費支給細則ニ依ル出張命令ハ當該部局長會計課長ヘ合議ノ上發令相成度依命此段申進ム

●在勤廳所在地ノ市町村内ニシテ遠距離ニ

渉ラサル地ニ引續キ二日ニ涉リ出張シタル場合日當支給方ニ關スル件

○會計課長移譯官會十三號 大正十五年二月二十三日

(其二)

○大藏省主計局通譯計第二十五號 大正十五年一月二十三日

徹夜六時間以上臨檢捜査ノ爲出張シタル者ニ對スル日當支給方ニ關シ別紙甲號ノ通り司法省會計課長ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通り回答致置候此段爲念及御通譯候也

(別紙)

○司法大臣官房會計課照會甲第千三百三十六號

大正十四年四月二日

在勤廳所在地ノ市町村内ニシテ遠距離ニ渉ラサル地ニ出張シ引續キ臨檢捜

〔文會例〕

查ノ事務ニ從事中二日ニ涉リ偶々六時間以上ニ達シタル場合ニ於テ其ノ日當ハ御協定済日當ノ一分ヲ支給スヘキヲ將タ二日分ヲ支給スヘキ義ナルヲ目下差掛リタル案件有之候條至急御回報煩度

(乙號)

○大藏省主計局回答計第二百八十三號 大正十四年五月五日

四月二日附會甲第一三三六號ヲ以テ在勤廳所在地市町村内ノ遠距離ニ渉ラサル出張ニシテ翌日ノ午前トナル迄引續キ六時間以上臨檢捜査ノ事務ニ從事シタルモノノ日當支給方ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ兩日ノ各從事時間六時間以上ニ達シタル場合ニ於テハ二日分ヲ支給シ其ノ他ハ一日分ヲ支給シ可然ト存候經省議此段及御回答候也

(其二)

○大藏省主計局通譯計第二十四號 大正十五年一月二十三日

在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ渉ラサル場合ノ旅費支給方ニ關シ司法大臣官房會計課長ヨリ別紙甲號ノ通照會有之候ニ付乙號ノ通り回答致置候此段爲念及御通譯候也

(別紙)

(甲號)

○司法大臣官房會計課照會甲第四百三十一號

大正十四年九月二十五日

在勤廳所在地ノ市町村内ニシテ遠距離ニ渉ラサル地ニ出張シ引續キ臨檢捜査事務ニ從事中二日ニ涉リ九時間以上ニ達シタル場合ハ本年五月五日附會第二八三號御回答ニ依リ日當一分ヲ支給スヘキ筋合ニ候處右ハ前後兩日中何レノ日ノ日當トシテ支給スヘキモノナルヲ若シ翌日ニ屬スルモノトセハ同日一旦歸廳シ更ニ在勤廳所在地外ヘ出張シタル場合右二個ノ旅行ニ對ス

〔文會例〕

ル日當如何ニ支給スヘキ哉又前日分トシテ支給スルモ前同様ノ場合生スヘク目下差掛リタル案件有之候條之ニ對スル貴省御意見至急承知致度

(乙號)

○大藏省主計局回答計第二十四號 大正十五年一月二十三日

客年九月二十五日附會甲第四三一號ヲ以テ在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ渉ラス且二日ニ涉リ偶々九時間以上ニ達シタル場合ニ於ケル旅費ノ支給方ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ一日分ヲ支給スヘキ場合ニ於テハ用務地ニ到着シタル日ニ屬スル旅費トシテ御取扱相成同日中旅費ノ支給額ヲ異ニスル二回以上ノ出張ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ多キ額ヲ支給相成可然省議ヲ經此段及御回答候也

●内國旅費規則第九條第二項ノ特例ニ關スル件

ル件

○大藏次官通譯計第八百二十七號 昭和七年十月二十八日

文部 次官

今回東京市域擴張ニ伴ヒ從來在勤廳所在地外出張旅費ノ支給ヲ爲シタル編入町村相互間又ハ之等町村ト舊東京市相互間ノ出張ハ何レモ在勤廳所在地内ノ出張トシテ内國旅費規則第九條第一項ニ依リ概シテ定額二分ノ一ノ日當ノミヲ支給スルニ止マリ從前ノ如ク鐵道賃、船賃、車馬賃ノ支給ヲ爲シ得サル場合ヲ生シ又新ニ東京市域ニ編入セラレタル町村ニ於ケル交通機關未整備ノ現況等ニ依リ前記日當ノミニテハ旅費支給上實情ニ添ハサルモノアルヲ以テ當分ノ内暫定之ニ之ガ緩和ヲ圖ル爲前記東京市内ノ出張ニシテ定額日當ノ四分ノ一額ニ相當スル金額ガ鐵道賃、船賃、車馬賃ノ實費ヲ支辨シ難キトキハ其ノ不足額ヲ補給スル趣旨ヲ以テ當該不足額ニ相當スル金額

額ヲ内國旅費規則第九條第二項ニ依リ支給スルノ特例ヲ認ムルコトニ致シ候條必要ニ應シ貴省大臣ヨリ當省大臣ニ御協議相成候様致度此段及通譯候也

(別紙)

尙本件ハ既定豫算内支辨ノ義ナルハ勿論旅費等減給ニ關スル閣議決定ハ當然之ガ適用アリ又本文中車馬賃ノ實費トアルハ軌道、乗合自動車ノ便アルモノニ付テハ當該軌道賃、乗合自動車賃ノ實費ノ義ニ付此段申添候

●在勤廳所在地市町村内ノ出張ニシテ其ノ

行程ノ一部ヲ官用ノ船車馬ニ依リタル場合ニ於ケル旅費支給方ノ件

○會計課長移譯官會二百二十七號 昭和八年一月六日

在勤廳所在地市町村内ノ出張ニシテ其ノ行程ノ一部ヲ官用ノ船車馬ニ依リタル場合ニ於ケル旅費支給方ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙ノ通照會有之タルニ付此段移譯ス

(別紙)

○大藏省主計局長通譯計第九百八十一號 昭和七年十二月二十一日

在勤廳所在地市町村内ノ出張ニシテ遠距離又ハ長時間ニ涉リタルトキハ各省トモ大體ニ於テ定額日當ノ二分ノ一又ハ三分ノ一額ニ相當スル額ヲ支給シ又官用ノ船車馬ニ依リタルトキハ其ノ半額ヲ支給スルコトト相成居候處今般司法省ヨリ其ノ行程ノ一部ヲ官用ノ船車馬ニ依リタル場合ニ於ケル旅費支給方ニ關シ協議有之右ノ場合ニ於テハ全行程ニ對スル官用ノ船車馬ニ依リタル部分ノ割合ニ應シ前記官用ノ船車馬ニ依ラサル場合ノ定額日當ヲ

減額シタル額ヲ支給スルコトト相成候條貴省所管ニ於テモ可成右ノ方法ニ依リ實行相成候様致度ニ付此段及通牒候也

●旅費規則改正ニ關スル件

○文部次官通牒發會三百七十三號 昭和六年七月二十日

省內局部長
官房課長
直轄各部長
囑託員ノ給料減額ニ伴ヒ文部省各旅費規則ノ改正ヲ要スルモ右改正ニ至ル迄左記ニ依リ取扱フコトニ決定相成タルニ付御了知相成度此ノ段通牒ス
尙判任官以上ノ待遇ヲ受クル者囑託員雇員及傭人ニ支給スル外國旅費規則及判任官以上ノ待遇ヲ受クル者囑託員雇員及傭人ニ支給スル南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ付テハ追テ通知スヘキニ付申添フ

一 文部省所管内國旅費規則第五條中

「三百圓」ヲ「二百七十圓」

「百七十圓」ヲ「百五十五圓」

「百十圓」ヲ「百五圓」トス

二 本決定ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ實施ス

三 今回ノ囑託員給料減額ニ關スル通牒ニ依リ給料ヲ減額セラレタル者ニシテ本決定ノ實施ニ依リ旅費ノ支給上從前ト異ル取扱ヲ受クルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔文會例〕

●航空評議會委員旅費減額支給ノ件(其ノ一)

○文部次官裁定 昭和三年二月二十三日

航空評議會主査委員並囑託委員ノ旅費(但シ日歸リノ場合ニ限ル)左記ノ通減額支給相成可然哉

記

東京——霞ヶ浦間 霞ヶ浦海軍航空隊 九圓
東京——立川間 陸軍航空本部技術部 四圓
霞ヶ浦——立川間 海軍航空隊ト陸軍航空本部 一一圓
昭和三年十月五日施行
備考 勅任官奉任官共同額トス
本額中ニハ車馬賃及日當ヲ含ム

●航空評議會委員旅費減額支給ノ件(其ノ二)

○文部大臣裁定 昭和五年七月九日

七月一日閣議ヲ以テ首題ノ件決定相成リタルニ付テハ當分ノ間航空評議會主査委員並囑託委員ノ旅費(但シ日歸ノ場合ニ限ル)左記ノ通減額支給相成可然

記

霞ヶ浦海軍航空隊 八圓五〇錢
霞ヶ浦東京間 海軍技術研究所航空研究部
霞ヶ浦立川間 海軍技術研究所航空研究部
陸軍航空本部技術部 一〇圓

〔文會例〕

ノ通減額支給相成可然歟

記

所澤 東京間 所澤飛行學校 四圓
田浦 所澤間 橫須賀海軍航空隊及海軍航空隊ト所澤飛行學校 九圓
所澤 立川間 所澤飛行學校ト陸軍航空本部技術部 二圓五〇錢
備考 勅任官、奉任官共同額支給ス

●國書保存用務ニ依リ出張スル職員ノ旅費減額ノ件

○文部次官裁定 昭和四年十一月八日

國書建造物實測ノ爲ノ出張ハ其ノ出張期間及同一場所ノ滞在概本長期ニ涉ルヲ以テ右實測ノ爲ノ出張旅費ハ其ノ滞在中ニ屬スル日當、宿泊料ニ限リ判任官ニ在リテハ内國旅費規則ノ定額ヨリ二割(内國旅費規則第十七條ノヲ適用シタル額)又囑託、雇員ニ在リテハ同定額ヨリ一割(同前一割)ヲ減額支給スルコトニ御決定相成可然哉

備考

一、航空評議會主査委員並囑託委員ノ旅費(但シ日歸ノ場合ニ限ル)減額支給ニ關シテハ昭和三年十月五日裁定濟ノ處七月一日閣議決定事項トシテ更ニ當分ノ間旅費減額方申越アリタルニヨル
二、東京立川間ハ從前通りトス
三、本件ハ七月十五日ヨリ施行ス

●航空評議會委員旅費減額支給ノ件(其ノ三)

○文部次官裁定航發四號 昭和七年二月九日

航空評議會主査委員並囑託委員ノ旅費(但シ日歸ノ場合ニ限ル)左記ノ通減額支給相成可然哉

記

田浦東京間 海軍技術研究所田浦出張所 八圓
陸軍航空本部技術部
立川田浦間 海軍技術研究所田浦出張所 九圓
備考 一、勅任官、奉任官共同額支給ス
一、海軍技術研究所航空研究部ハ霞ヶ浦ヨリ神奈川縣田浦ヘ移轉シタルニ依ル

●航空評議會委員旅費減額支給ノ件(其ノ四)

○文部次官裁定航發五十九號 昭和七年九月二十七日

航空評議會主査委員並囑託委員ノ旅費(但シ日歸ノ場合ニ限ル)當分ノ間左記

●旅費減額支給ノ件

○文部大臣裁定 昭和五年七月九日
國費建造物實測ノ爲ノ旅費減額支給ノ件昭和四年十一月八日(文部次官裁
定)別紙寫ノ通り決定ノ處今般一般官吏ノ旅費減額支給方法決定ノ次第モ有
之ニ付本件國費建造物實測ノ爲ノ旅費モ當分ノ内左記ノ通り減額支給ノコ
トト決定相成可然哉

記

- 一 判任官ニ在リテハ定額ノ三割ヲ減ス(旅費規則第十七條ノ
一)
一 判任官ニ在リテハ定額ノ二割ヲ減ス(リ更ニ減額スルコト)
以上何レモ滞在中ノ日當、宿泊料ニ限ル
一 本年七月十五日ヨリ實施スルコト

●旅費減額ニ關スル件

○文部次官通達官會百十三號 昭和五年七月八日

本省局部長 官房課長 直轄部局長
東京帝國大學農學部長 傳染病研究
所長 航空研究所長

文部省所管官吏其ノ他ノ者ニ支給スル旅費ハ當分ノ間左記ノ通減額支給ス
ルコトニ決定相成タルニ付御了知相成度依命此段通達ス

一 内國旅費規則、外國旅費規則、南洋群島關東州南滿洲旅費規則、文部
省所管内國旅費規則、判任官以上ノ待遇ヲ受ケル者囑託員職員及傭人ニ
支給スル外國旅費規則並ニ判任官以上ノ待遇ヲ受ケル者囑託員職員及傭

〔文會例〕

内國旅費規則 (別表)

Table with columns for rank (官階), grade (官任), and various expenses (車馬賃, 日當, 宿泊料, 食卓, 移轉料) with corresponding amounts.

文部省所管内國旅費規則 (別表)

Table with columns for rank (官階), grade (官任), and various expenses (車馬賃, 日當, 宿泊料, 食卓, 移轉料) with corresponding amounts.

第二號

Table with columns for rank (官階), grade (官任), and various expenses (車馬賃, 日當, 宿泊料, 食卓, 移轉料) with corresponding amounts.

第十五章 旅費 第一節 内國旅費

人ニ支給スル南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ定ムル車馬賃、日當、宿
泊料ニ付テハ定額ノ一割五分、食卓料、支度料、移轉料ニ付テハ定額ノ
一割ヲ減額ス

- 二 各部局ニ於テ定メタル減額旅費並ニ月額又ハ日額旅費ニ付テモ前號ニ
準シ減額スルコト
三 前號ノ旅費ノ定額ニシテ普通ノ定額(同一ノ地域ニ於テ同一ノ階級ニ
屬スル者ニ對シ支給シ得ル旅費ノ各定額中最高ノ金額)ニ比シ既ニ著シ
ク減額シアル場合ニ付部局長ニ於テ已ムヲ得スト認メタルトキハ前號ニ
依ル減額ノ割合ヲ緩和シ得ルコト

四 前各號ニ依リ減額支給スルニ當リ從來定額ヲ錢位ニ留ムルモノニ付テ
算出上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切上ケ錢位トシ圓位又ハ十
錢位ニ留ムルモノニ付テ算出上十錢未滿ノ端數ヲ生シ其ノ端數五錢以下
ナルトキハ之ヲ切上ケ五錢トシ其ノ他ハ之ヲ切上ケ十錢位トス
五 本決定ニ依ル減額支給ハ昭和五年七月十五日ヨリ之ヲ實施ス但シ外國
(關東州及南滿洲ヲ含マス)又ハ南洋群島ニ在ル者ニ付テハ實施期日ハ同
年八月一日ヨリトス

●旅費減額ニ關スル件

○會計課長通達官會百十三號 昭和五年七月十四日

本省局部長 官房課長
直轄部局長 東京帝國大學農學部長
航空研究所長 傳染病研究所長

七月八日付官會一一三號ヲ以テ次官ヨリ旅費減額ノ件ニ關シ通達有之タル
處右通達第四號ノ計算法ニ依ル同第一號ノ定額別表ノ通ニ付爲念通知ス

〔文會例〕

南洋群島關東州南滿洲旅費規則 (別表)

區	分	日當	宿泊料			食卓料	支度料		移轉料	
			甲地方	乙地方	丙地方		甲、乙地方	丙地方	甲	乙
乙	額	二、五五	一、二、七五	八、五〇	五、九五	一、八〇	以內	以內	以內	七二圓以內
甲	額	三、四〇	一、五、三〇	八、五〇	八、五〇	二、七〇	以內	以內	以內	九〇圓以內

官階	區分	親任官	勳任官	官任判		車馬賃	日當	宿泊料	食卓料	移轉料	支度料
				官任	判任						
親任官	區分	親任官	勳任官	六級以下	六級以下	一、三〇	四、二五	八、五〇	二、七〇	一〇八圓以內	二二五圓以內
				五級以上	五級以上	一、三〇	五、一〇	九、三五	二、七〇	一〇八圓以內	二二五圓以內
勳任官	區分	勳任官	勳任官	六級以下	六級以下	一、七〇	六、八〇	一一、九〇	三、六〇	一六二圓以內	四〇五圓以內
				五級以上	五級以上	一、七〇	七、六五	一二、七五	三、六〇	一六二圓以內	四〇五圓以內
官任判	區分	官任判	官任判	六級以下	六級以下	二、五五	一一、〇五	一七、〇〇	四、五〇	二二五圓以內	五四〇圓以內
				五級以上	五級以上	二、五五	一一、〇五	一七、〇〇	四、五〇	二二五圓以內	五四〇圓以內

判任官以上ノ待遇ヲ受クル者囑託員雇員及傭人ニ支給スル南洋群島關東州南滿洲旅費規則 (別表)

區	分	車馬賃	日當	宿泊料	食卓料	移轉料	支度料
甲	額	一、〇五	三、四〇	六、八〇	一、八〇	七六圓五〇錢以內	一五三圓以內
乙	額	〇、八五	二、五五	五、一〇	一、三五	六三圓以內	一〇八圓以內

●菅平高原體育研究場出張旅費減額ニ關スル件

〔文會例〕

○文部次官裁定 昭和八年十二月二日
 本省菅平高原體育研究場ニ於テハ簡便ナル宿舍ヲ設ケタルニ付本省員ニシテ將來體育講習會又ハ其他ノ體育施設ニ關スル用務ノ爲メ同研究場ニ出張スル場合ハ同所ニ滞在シテ日當宿泊料ヲ奏任官五等以上ノモノニアリテハ三分ノ二奏任官六等以下ノモノニアリテハ其ノ六割ヲ、判任官以下ノモノニアリテハ其ノ二分ノ一ヲ、囑託員ニアリテモ右ニ準シ減額支給セラレ然ル可キ哉但シ同所ニ宿泊不能ニシテ他ニテ宿泊シタル場合ハ此ノ限リニアラス

●諸調査會等職員旅費減額ニ關スル件

○文部次官裁定發會九十一號 昭和八年三月二十五日
 諸調査會等ノ職員旅費支給規則(大正十年一月勅令第十三號)
 別表ニ定ムル旅費額ヲ當分ノ間左記ノ通減額支給相成可然哉

(別表)

車馬賃	日當	宿泊料	食卓料
第一號 一圓五錢	五圓十錢	七圓六十五錢	二圓七十錢
第二號 八十錢	四圓二十五錢	六圓八十錢	二圓二十五錢

第二節 外國旅費

勅令第四百一號 大正十年九月一日

●外國旅費規則

改正 大正十一年第一九一號、昭和九年第三九五號、一二年第六八五號

第一章 總則

- 第一條 官吏公務ニ依リ本邦、外國間ヲ旅行シ又ハ外國ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ南滿洲ノ旅費ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム
勅令ノ定ムル所ニ依リ賜暇歸朝ヲ許サレタル者任地本邦間ヲ旅行スルトキハ公務ニ依リ旅行スルモノト看做ス
- 第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料ノ十種トス
- 第三條 旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル
- 第四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ旅程ヲ區別シ計算ス
- 第五條 所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得
- 第六條 本邦外國間ヲ旅行スル爲本邦又ハ南洋群島、關東州、南滿洲内ヲ通過スルトキハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル旅費ヲ支給ス但シ南滿洲以外ノ外國直通ノ汽車又ハ南滿洲以外ノ外國航路ノ船舶ニ依リ本邦ヲ出發シ又ハ本邦ニ歸著シタルトキハ當該鐵道賃、船賃及乘船港出

第十五章 旅費 第二節 外國旅費

〔文會例〕

發ノ日ヨリ又ハ歸著港ニ上陸ノ日迄ノ日當ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 第七條 一日中旅費ノ定額ヲ異ニスル場合ニ於テハ多キニ從ヒ之ヲ支給ス
- 第八條 新任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏ノ赴任、轉勤又ハ歸朝ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第九條 私事ノ爲在勤地又ハ出張地以外ニ滞在スル者滞在地ヨリ直ニ旅行スル場合ニ於テハ滞在地ヨリ目的地ニ至ル旅費額力在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス
- 第十條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ノ旅費ニ關シテハ所管大臣、大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得
特殊ノ要務ニ從事スル爲外國ニ出張ヲ命セラレタル者ニハ所管大臣大藏大臣ト協議シ旅費ヲ支給セス旅行手當ヲ支給スルコトヲ得
- 第十一條 雇員傭人其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム
- 第十二條 旅費ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定メタルモノヲ除クノ外別ニ手當ヲ支給スルコトヲ得ス
- 第十三條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ大藏大臣ト協議ヲ要スル事項ニ關シテハ所管大臣ヲ經由スヘシ
- 第十四條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、其ノ他ノ旅行ニハ車

馬賃ヲ支給ス

第十五條 鐵道貨及船貨ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃ハ實費ニ依リテ支給ス

第十六條 鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニ於テ別ニ急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ寢臺料金ノ支給ヲ受ケル場合ニ於ケル宿泊料ハ勅任官以上ニ在リテハ定額ノ十分ノ六、奏任官以下ニ在リテハ定額ノ十分ノ七トス

第十七條 出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帯スル私屬ノ荷物ハ百五十「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道貨船賃又ハ車馬賃ハ之ヲ支給セズ

第三章 日當、宿泊料及食卓料

第十九條 日當、宿泊料及食卓料ハ別表ニ掲グルル所ニ從ヒ定額ニ依リテ支給ス

第二十條 日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ但シ天災其ノ他已ムテ得サル事故ノ爲上陸宿泊ヲ要シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

食卓料ハ船賃ノ外別ニ食料ヲ要スル場合又ハ船賃ヲ要セサルモ食料ヲ要スル場合ニ於テ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

第二十一條 陸路二十哩未滿、鐵道六十哩未滿、水路四十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

〔文會例〕

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ三哩、水路ハ二海里ヲ以テ陸路一哩ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 日當及宿泊料ハ同一地ニ滞在三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割ヲ減ス

同一地ニ滞在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第四章 支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料

第二十三條 支度料ハ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル者ニ別表ニ依リテ支給ス

南洋群島、關東州、南滿洲又ハ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレ支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタルトキ支給スル支度料ハ定額ノ二分ノ一ヲ超ユルトコトヲ得但シ其ノ金額前ニ受ケタル金額ト合シテ定額ノ十五割ニ滿タサルトキハ定額ヲ超エサル範圍內ニ於テ通シテ十五割迄ヲ支給スルコトヲ妨ケス

外國ニ在勤又ハ出張中ノ者他ノ地ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ前ニ受ケタル支度料ノ額新ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料ノ定額ニ達セサルトキニ限り其ノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ハ南洋群島、關東州、南滿洲ニ在勤中又ハ出張中ノ者南滿洲以外ノ外國ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

〔文會例〕

地方ニ赴任、轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ滞在中ノ地方ニ付定メラレタル支度料ト赴任、轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料トノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給ス

第二十四條 移轉料及著後手當ハ左ニ掲グルル者ニ之ヲ支給ス

一 外國ニ赴任ヲ命セラレタル者

二 外國ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ又ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者

三 賜暇歸朝ヲ許サレタル者及賜暇歸朝中歸任スル者

第二十五條 外國ニ滞在中外國在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者ニハ移轉料及著後手當ヲ支給スルコトヲ得

第二十六條 移轉料ハ別表ニ依ル著後手當ハ目的地ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル日當五分及宿泊料五分ニ相當スル額トス

第二十七條 家族移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ支給ス
一 第二十四條又ハ第二十五條ニ掲グルル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴スルトキ

二 外國ニ在勤中公務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者又ハ公務歸朝中歸任スル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴スルトキ

三 外國ニ在勤中又ハ歸朝後許可ヲ受ケ妻子ヲ呼寄せ又ハ歸朝セシムルトキ但シ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外同一任地ニ付往返各一回限リトス

第二十八條 家族移轉料ハ妻ニ付テハ本人相當ノ鐵道貨、船賃車馬賃及食卓料ノ全額日當、宿泊料、支度料、著後手當ノ半額トシ子ニ付テハ十

第十五章 旅費 第二節 外國旅費

二歳以上ノ者ニ在リテハ本人相當ノ鐵道貨、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及著後手當ノ半額トシ十二歳未滿ノ者ニ在リテハ更ニ其ノ半額トス

第二十九條 外國ニ赴任若ハ出張ヲ命セラレタル者、外國ニ在勤中轉勤若ハ歸朝ヲ命セラレタル者又ハ外國ニ滞在中外國在勤ヲ命セラレ若ハ新ニ任用セラレタル者其ノ出發前死亡シ又ハ命令ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ支度料及移轉料ノ全額以テ支給スルコトヲ得

隨伴シ又ハ呼寄せルコトヲ許サレタル妻其ノ出發前死亡シ又ハ許可ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ本人ニ支給スヘキ支度料ノ半額以テ支給スルコトヲ得

第五章 退官、退職者旅費及死亡手當

第三十條 外國在勤中又ハ任所住返中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタルトキハ其ノ命令又ハ通知到達ノ日迄日當及宿泊料ヲ支給ス

第三十一條 前條ニ掲グルル外國在勤中ノ者命令又ハ通知到達ノ日ヨリ三月內ニ舊任地ヲ出發シ相當ノ期間內ニ本邦ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滞在日數三十日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外賜暇ニ依ル歸朝ノ例ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス但シ著後手當ハ之ヲ支給セズ

第三十二條 外國在勤中ノ者他ノ地ニ出張中又ハ公務若ハ賜暇ニ依ル歸朝中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リ其ノ命令又ハ通知到達ノ日ヨリ一月內ニ出發シ相當ノ期間內ニ舊任地ニ歸著スル

トキハ其ノ出發ノ日迄ノ滞在日數十五日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外其ノ地ヨリ舊任地迄ノ旅費ヲ支給ス
前項ノ場合ニ於テ舊任地ニ於ケル滞在中ノ日當及宿泊料ヲ支給スル日數ハ前條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給スル滞在中ノ日數ト通シテ四十日以内トス

第一項ニ掲グル者其ノ出張地ヨリ直ニ歸朝スルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

第三十三條 天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ事務引續務整理等ノ爲前二條ニ規定スル期間内ニ出發スルコト能ハサルトキハ所管大臣ハ事情ヲ斟酌シ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第三十四條 在勤俸ヲ受ケル期間ニ對シテハ第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ依リ支給スル滞在中ノ日當及宿泊料ハ之ヲ支給セス但シ在勤地以外ノ地ニ於ケル出張中又ハ公務歸朝中ノ日數ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 第三十條、第三十一條及第三十三條ノ規定ハ外國出張中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役に爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 外國在勤中、任所往返中又ハ出張中ノ者在勤地ニ於テ又ハ旅行中死亡シタルトキハ外國在勤者又ハ任所往返中ノ者ニ在リテハ其ノ任地ニ付定メラレタル額ニ依リ、外國出張中ノ者ニ在リテハ其ノ出張地ニ付定メラレタル額ニ依リ別表ニ從ヒ死亡手當ヲ其ノ遺族ニ支給ス但シ出

ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歳未満ノ子ヲ同伴スルトキハ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得
第三十一條、第三十二條、第三十五條又ハ第三十六條ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケ伴ヒタル從者アルトキハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第三十八條ノ規定ヲ準用ス
第四十二條 事務引續務整理等ノ爲廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役に爲リタル者ニ旅行又ハ滞在ヲ命シタルトキハ旅費ヲ支給ス
第三十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十三條 第二十九條乃至第三十五條及前條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ハ前官又ハ本官相當ノ旅費額ニ依ル
第四十四條 本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受ケヘキ者旅行ノ必要ナキニ至リタル場合ニ於テ未タ旅行ヲ爲ササル區間ノ鐵道賃、船賃、急行料、陸運料、料金又ハ車馬賃ノ支拂ヲ要スルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得
第四十五條 本令ニ規定スルモノヲ除ク外旅費ノ支給ニ關シ必要ナル規程ハ大藏大臣之ヲ定ム

〔文會例〕

張地數地方ニ互ルトキハ最近ノ出發地又ハ到達地ニ付定メラレタル額ニ依リ多キニ從ヒ之ヲ支給ス
妻夫ノ任地ニ於テ又ハ許可ヲ受ケテ其ノ任所往返中死亡シタルトキハ本人ニ對スル死亡手當ノ半額以内ノ金額ヲ死亡手當トシテ支給スルコトヲ得
第三十七條 第三十一條、第三十二條及前條ノ場合ニ於テハ其ノ妻子ニ付第二十八條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス
第三十八條 第三十一條乃至第三十三條、第三十五條及前條ノ規定ハ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者及其ノ妻子ニ付テハ之ヲ適用セス
第六章 雜則
第三十九條 入國稅若ハ出國稅ヲ支拂ヒ又ハ旅行券ニ外國官公署ノ査證ヲ求ムル爲手數料ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得
第四十條 特別ノ危險アル場合ニ於テ旅行中ニ於ケル身體ノ傷害又ハ荷物ノ損害ニ付保險ニ付シタルトキハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ保險料ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ支給スルコトヲ得
第四十一條 許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勅任官ニ在リテハ一人、奏任官以下ニ在リテハ出張ノ場合ヲ除ク外六歳未満ノ子ヲ同伴スルトキハ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃及食卓料ヲ支給スルコトヲ得
外國在勤中若ハ歸國後妻ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムル場合又ハ外國在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勅任官又ハ奏任官ノ妻

〔文會例〕

明治三十年勅令第四百四十三號
逕信省部内官吏外國在勤者妻携帶旅費給與規則
大正四年勅令第九十六號
大正七年勅令第三百八十七號
大正八年勅令第二十號
大正八年勅令第二百二十九號
大正八年勅令第七十一號
本令施行ノ際從前ノ規定ニ定額ノ定アル區間ヲ旅行中ノ者ニ支給スル鐵道賃又ハ船賃ハ其ノ區間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル
本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滞在中者ニ對スル第二十二條ノ規定ノ適用ニ關シテハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム
本令施行前外國ニ赴任ヲ命セラレタル者、外國在勤中轉勤ヲ命セラレ若ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者、賜暇歸朝ヲ許サレタル者又ハ賜暇歸朝中歸任スル者本令施行後目的地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給ス
本令施行前外國ニ滞在中外國在勤ヲ命セラレ又ハ新任ニ任用セラレタル者本令施行後目的地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給スルコトヲ得
前二項ニ掲グル者妻子ヲ同伴シ、呼寄セ又ハ歸朝セシムル場合ニ於テ其ノ妻子本令施行後目的地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給スルコトヲ得
(別表)

官 階	日 當	宿 泊 料			食 卓 料	支 度 料		移 轉 料		死 亡 手 當	
		甲 地 方	乙 地 方	丙 地 方		甲 地 方	乙 地 方	甲 地 方	乙 地 方		
親 任 官	二十圓	七十圓	六十圓	三十圓	八圓	乙 地 方 千四百圓	丙 地 方 千圓以內	甲 地 方 六百圓	乙 地 方 四百圓	甲 地 方 七千五百圓	丙 地 方 五千圓
勳 任 官	十五圓	五十圓	四十圓	二十圓	七圓	以九百圓以內	以七百圓以內	以四百五十圓以內	以三百圓以內	以四千五百圓以內	以三千圓以內
官 任 官	十圓	三十二圓	二十四圓	十二圓	五圓	以七百圓以內	以五百五十圓以內	以三百圓以內	以二百圓以內	以二千五百圓以內	以一千七百圓以內
以 五 等	八圓	三十圓	二十二圓	十圓	五圓	以五百圓以內	以三百五十圓以內	以二百圓以內	以一百五十圓以內	以一千圓以內	以七百圓以內
以 六 等	六圓	二十四圓	十八圓	十圓	四圓	以三百圓以內	以二百圓以內	以一百圓以內	以五十圓以內	以五百圓以內	以三百圓以內

備考

- 一 甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴亞弗利加太平洋諸洲及西比利亞以外ノ亞細亞、丙地方トハ支那及西比利亞ヲ謂フ
- 二 移轉料ノ甲額ハ甲乙地方ト本邦又ハ丙地方トノ間並甲乙地方間及甲乙各地方内ノ移轉ニ付之ヲ支給シ移轉料ノ乙額ハ本邦丙地方間及丙地方内ノ移轉ニ付之ヲ支給ス

(參照)

明治三十年十二月十三日公布勅令第四百四十三號ハ造船造兵監督官條
 例ニ依リ米國ニ派遣スル者ニ手當金給與ノ件
 大正四年十一月五日公布勅令第九十六號ハ鐵道院官吏ニシテ外國ニ
 駐在シ鐵道用品製作ノ監督事務ニ從事スル者ニ手當給與ノ件大正七年
 十二月四日公布勅令第三百八十七號ハ講和ニ關スル事項處辨ノ爲歐洲
 へ出張ヲ命セラレタル者ニ旅行手當支給ノ件
 大正八年二月十四日公布勅令第二十號ハ時局ニ關スル特殊ノ要務ニ從
 事スル爲外國ニ出張ヲ命セラレタル者ニ旅行手當支給ノ件

〔文會例〕

大正八年四月十九日公布勅令第二百二十九號ハ時局ニ關スル特殊ノ要務
 ニ從事スル爲外國ニ出張ヲ命セラレタル者ニ特別旅費支給ノ件
 大正八年五月六日公布勅令第七十一號ハ外國ニ在勤駐劄駐在若ハ留學
 中ノ者、帝國外ヲ旅行スル者、支那ニ於ケル艦船部隊勤務者ニ臨時增
 給ノ件ナリ

●外國旅費規則施行細則

○大藏省令第三十一號 大正十年九月一日

改正 大正一四年第三號

- 第一條 外國旅費規則ニ於テ南洋群島ト稱スルハ帝國ニ於テ統治ノ委任ヲ受ケタル南太平洋諸島ヲ謂ヒ南滿洲ト稱スルハ支那奉天省並吉林省ノ内
- 第二條 旅費ハ外國旅費規則第五條ノ規定ニ依リ其ノ一部ヲ支給セザル場合ト雖精算ヲ爲サシムヘシ
- 第三條 外國旅費規則第十二條ニ規定スル手當トハ旅費以外ニ特ニ旅行者ニ支給スル金額ニシテ其ノ精算ヲ要セザルモノヲ謂フ
- 第四條 鐵道貨ハ一等ノ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ座席ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケザルモノニ在リテハ其ノ乗車ニ要スル運賃ニ依リ勳任官以上ニシテ前項ノ運賃ヲ以テ支辨シ能ハサル特別ノ座席ヲ要シタルトキハ前項運賃ノ外其ノ座席ノ爲現ニ支拂ヒタル料金を支給ス
- 第五條 船賃ハ最低一等旅客運賃(通行稅、船賃)ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ船室ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケザルモノニ在リテハ其ノ乗船ニ要スル運賃ニ依ル
- 第六條 最低一等運賃ニ親任官ニハ其ノ十割、勳任官ニハ其ノ六割、奏任官ニハ其ノ三割、判任官ニハ其ノ一割ヲ加算シタル額ノ範圍内ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金を支給ス

第十五章 旅費 第二節 外國旅費

〔文會例〕

- 第七條 車馬賃ハ鐵道又ハ船舶ノ便アル區間ノ旅行ニハ之ヲ支給セズ但シ用務ノ性質上鐵道又ハ船舶ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニ支給スル任地本邦間ノ旅費トハ任地ト本邦ニ於ケル所屬處所在地トノ間ノ旅費、本邦ニ所屬處ナキ場合ニ在リテハ任地ト東京トノ間ノ旅費ヲ謂フ
- 第九條 外國旅費規則第三十一條、第三十二條、第三十七條又ハ第四十一條ノ規定ニ依リ支給スル旅費トハ本邦ニ於ケル住所所在地迄ノ旅費、其ノ住所所在地ニキ者ニ在リテハ本邦ニ於ケル家族ノ住所所在地迄ノ旅費、本人又ハ家族ノ住所所在地ニキ者ニ在リテハ原籍地迄ノ旅費ヲ謂フ但シ其ノ金額ニシテ本邦ニ於ケル目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス
- 第十條 外國旅費規則ニ於テ遺族トハ配偶者、直系尊屬、直系尊屬及兄弟姉妹又ハ同一戸籍内ニ在ル親族ヲ謂フ
- 第十一條 外國旅費規則第四十一條ノ規定ニ依リ從者ノ旅費ハ傭人ノ旅費ニ付階級ヲ設ケル場合ニ於テハ其ノ最下級ノ額トス
- 第十二條 旅行者ハ旅行日記及船車馬賃ノ領收書又ハ鐵道船舶ノ賃金表等料金を支拂フ證スヘキ相當ノ書類ヲ提出スヘシ

前項ノ旅行日記ニハ毎日ノ行程、宿泊地名、旅店名、搭乗船名及汽車又ハ船舶ノ出發時刻等ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ外國旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十年九月一日ヨリ施行)

附則 (大正十四年大藏省令第三號)

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際未タ旅行ヲナササル區間ノ船賃ニシテ支拂濟ナルモノアル時ハ當該船賃ニ限リ仍從前ノ規程ニ依ル

●文部省所管判任官以上ノ待遇ヲ受クル者
囑託員雇員及傭人ニ支給スル外國旅費規則

○會計課長通譯官會二百三十四號 大正十一年五月十七日 直轄部局長

- 第一條 親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第二條 奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配當アル者ニハ其ノ官等相當ノ額官等ノ配當ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額(月額ノモノハ十二月ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス
 - 一 本俸若ハ手當年額三千六百圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スルモノニシテ手當年額四千八百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額
 - 二 前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

〔文會例〕

- 第三條 判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ判任官相當旅費ヲ支給ス
- 第四條 囑託員ニシテ本官アル者(退職ノ者及退職ニ準スヘキ休職者ヲ除ク)ニハ本官相當ノ額判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第一條乃至第三條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第五條 前條ノ規定ニ該當セサル囑託員ニハ其ノ常時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額(年額ハ十二分ノ一日額ハ三十分分ヲ以テ月額ト看做ス)ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ判任官ノ待遇ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合判任官ノ待遇ヲ併有スルトキハ高キニ從フ
 - 一 手當月額三百圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當月額四百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額
 - 二 手當月額百七十圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當月額二百五十圓以上ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額
 - 三 手當月額五十五圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當月額七十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額
 - 四 有爵者正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額
 - 五 從六位勳六等功五級又ハ學位ヲ有スル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額
 - 六 正七位以下勳七等以下又ハ功六級以下ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額
 - 七 前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲額

〔文會例〕

- 第六條 雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス
 - 一 給料月額五十五圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ給料月額七十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額
 - 二 前號以外ノ者ニハ別表甲額
 - 第七條 傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス
 - 一 水火夫長、司厨長及之ニ準スル者又ハ給料日額内地ニ在勤スル者ニ在リテハ二圓五十錢以上朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニ在リテハ三圓五十錢以上ノ者ニハ別表甲額
 - 二 前號以外ノ者ニハ別表乙額
- 臨時傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料又ハ食卓料ハ之ヲ支給セス

- 第八條 囑託員、雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス傭外國人ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキ亦同シ
 - 第九條 官吏ニ非サル船舶乗組員ニシテ外國ニ於テ死亡シタルトキハ死亡手當ヲ支給スルコトヲ得但シ前條ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 第十條 本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分並用務ノ性質ニ依リ其都度大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム
 - 第十一條 本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ外國旅費規則及外國旅費規則施行細則ニ依ル
- 附則
本規則ハ大正十一年度分ヨリ之ヲ適用ス

(別表)

旅費額		區別	
鐵道貨及船貨		日當	
額 甲	イ運賃ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二階級ニ定ムルキハ同ノ二階級ニ區分スルトキハ下級ノ等級ヲ區分セサルトキハ運賃ノ等級又ハ乗船ニ要スルハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃	四圓	甲地方
		十八圓	乙地方
		十四圓	丙地方
額 乙	同上ノ等級ニ區分スルトキハ下級ノ等級ヲ區分セサルトキハ運賃ノ等級又ハ乗船ニ要スルハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃	三圓	甲地方
		十五圓	乙地方
		十圓	丙地方
食卓料		支度料	
二圓		甲地方	
三圓		丙地方	
移轉料		死亡手當	
甲地方		甲地方	
乙地方		乙地方	
丙地方		丙地方	
甲地方		甲地方	
乙地方		乙地方	
丙地方		丙地方	

一 鐵道貨ハ前掲ノ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)ノ外急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得但シ寢臺料金ノ支給ヲ受クル

第十五章 旅費 第二節 外國旅費

一一九一

- 一 場合ニ於ケル宿泊料ハ定額ノ十分ノ七トス
- 二 船貨ハ前掲ノ旅客運賃(通行税、船積貨及棧積貨ヲ含ム)ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得
- 三 二等運賃ヲ數種ニ區分スルモノニ在リテハ最低二等運賃ニ其ノ三割ヲ加算シタル額ノ限度ヲ越エサル範圍ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金迄ヲ支給ス
- 四 隨員タル雇員、傭人又ハ從者(通譯人及道案内者ヲ含ム)ニ限リ特別ノ事情ニ因リ前二號ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル座席又ハ船室ヲ要シタル場合ニ於テハ最低一等運賃迄ヲ支給スルコトヲ得
- 五 出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帯スル私屬ノ荷物ハ七十五「キログラム」迄ヲ限リ其運賃ヲ支給スルコトヲ得

外國旅費規則第五條等ノ執行權ニ關スル件

○會計課長通譯發會百三十四號 大正十一年十一月一日 直轄各都局長
外國旅費規則第五條並南洋群島、關東州、南滿洲旅費規則第五條ノ執行方ハ各都局長ニ委任セラレタルニ付御了知相成度依命此段通譯ス

外國旅費規則第二十二條解釋ノ件

○會計課長移譯 大正十三年八月二十八日
○大藏省主計局長通譯 大正十三年八月八日
○大藏省主計局長回答藏第九十二號 大正十三年八月八日
大正十二年十二月十五日附給第七四號ヲ以テ外國旅費規則第二十二條第二項ノ解釋ニ關シ御照會ノ趣了承右ノ滞在在ヨリ他ノ地ニ旅行シ三十日ヲ超エ元ノ滞在在ニ復歸シタル場合ニ於テ前後ノ日數ヲ通算セサルコトニ御取扱相成候様致度省議ヲ經此段及御回答候也

〔文會例〕

外國旅費支度料支給方直轄都局長ニ委任ノ件

○會計課長通譯商會十八號 大正九年八月二十一日 直轄都局長
外國旅費規則ニ據リ支度料ノ支給ヲ要スルトキハ都局長限リ支給額御決定相成様委任セラレタルニ付依命此段通譯ス

歐羅巴方面へ旅行ノ場合ニ於ケル順路ニ關スル件(其ノ一)

○文部次官移譯 昭和四年七月二十九日 直轄各都局長

○大藏次官通譯藏計第四百六十四號 昭和四年七月一日
「シベリヤ」經由歐亞連絡運輸完成以來歐羅巴方面へ旅行ノ場合ニ於ケル旅費ノ支給ニ關シテハ「シベリヤ」經由ヲ以テ順路ト爲スヘキノ處今ニ印度洋經由ヲ以テ之カ順路トセラレ居ル向有之候様被存候ヘ共今後ハ公務ノ都合ニ依リ其ノ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ノ外ハ右聯絡運輸ニ依ラシムル様致度此段爲念及通譯候也

〔文會例〕

(別紙) (甲號)

歐羅巴方面へ旅行ノ場合ニ於ケル順路ニ關スル件
首題ノ件ニ關シ義ニ昭和四年七月一日附藏計第四百六十四號ヲ以テシベリヤ經由ニ依ルヘキ旨ノ通譯有之候處現今ノ蘇國國情下ニ於テハ左記ノ如キ事由ニ依リ旅行至難ニ付當分ノ内印度洋經由ヲモ御容認相成度尙朝鮮總督府ニ於テ差懸リタル事情有之候條何分ノ儀至急御回示相成度此段及照會候也

記

- 一、シベリヤ線ハ目下蘇國ニ於テ軍隊、軍需機材輸送中ニシテ右輸送上ノ都合ニ依リテハ數日間モ隨所ニ列車ヲ停車セシメ又ハ一時下車ヲ命スルコトアリ
- 二、攜帶ノ研究資料圖書ハ往々沒收ノ厄ニ遭過スルコトアリ
- 三、乘車ノ際他國貨幣ヲ沒收シ又出國ノ際蘇國貨幣ヲ沒收スルコトアリ且又兩替ニハ驚クヘキ課稅ヲナスコトアリ
- 四、冬期ハ機關燃料不足シ列車運行往々不定期トナリ國際列車トノ連絡圖滑ナラサルコトアリ

歐羅巴方面へ旅行ノ場合ニ於ケル順路ニ關スル件(其ノ二)

○會計課長移譯會百十四號 昭和九年六月六日
歐羅巴方面へ旅行ノ場合ニ於ケル順路ニ關シ大藏省主計局長ヨリ別紙寫ノ通り通譯有之タルニ付御了知相成度此段爲念移譯ス

(別紙寫)
○大藏省主計局長通譯藏計第三百九十九號 昭和九年六月一日
歐羅巴方面へ旅行ノ場合ニ於ケル順路ニ關シ別紙甲號ノ通譯務次官ヨリ照會有之タルニ對シ大藏次官ヨリ別紙乙號ノ通譯務次官ヨリ照會此段及通譯候也

●學術實地研究ノ爲學生生徒ヲ外國ニ出張セシムルトキ旅費支給方

○文部大臣訓令大會甲二百十七號 明治三十四年三月六日

直轄各部長

學術實地研究ノ爲學生生徒ヲ外國ニ出張セシムルトキハ外國旅費規則中履員ニ準シ旅費ヲ支給スヘシ

●外國旅費精算ニ關スル件

○會計課長移譯 大正三年一月十九日

○大藏大臣通牒 大正三年一月十二日

文部大臣

外國派遣旅費打切支給(又ハ渡切支給)ノ場合ニ於テハ往々一定額ヲ拂切り其儘精算ヲ爲サシメサル取扱ノ所モ有之哉ニ聞及候處右ハ外國旅費規則ニ所謂定額減少ノ一方法ト認メ從來ヨリ各省ノ協議ニ應シ同意致來リ候次第ニ有之精算上若シ支給額ニ剩餘アル場合ニ於テハ之ヲ返納セシムルハ當然ノ儀ニ有之候間誤解ナキ様爲念一般ノ御訓示置煩度此段及御通牒候也

●死亡手當支給ニ關スル件

○會計課長移譯 昭和二年十一月二十五日

○大藏省主計局長通牒 昭和二年十一月二日

死亡手當支給ニ關シ別紙甲號ノ通り逕信省經理局長ヨリ照會有之候ニ付別乙紙號ノ通り回答致シ置キ候爲念此段及御通牒候也

第三節 南洋群島、關東州、南滿洲旅費

●南洋群島關東州南滿洲旅費規則

○勅令第四百二號 大正十年九月一日

改正 大正十一年第一九〇號、昭和五年第五七號、九年第三九五號、一二年第六八五號

第一章 總則

第一條 官吏公務ニ依リ南洋群島關東州南滿洲内ヲ旅行シ若ハ此等ノ地域相互間ヲ旅行シ又ハ南洋群島關東州南滿洲ト其ノ他ノ地方トノ間ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

勅令ノ定ムル所ニ依リ賜暇歸朝ヲ許サレタル者任地本邦間ヲ旅行スルトキハ公務ニ依リ旅行スルモノト看做ス

本令ニ於テ南洋群島ト稱スルハ帝國ニ於テ統治ノ委任ヲ受ケタル南太平洋諸島ヲ謂ヒ南滿洲ト稱スルハ支那奉天省吉林省ノ内第二松花江以南ノ地域及琿春、汪清、延吉、和龍ノ四縣ヲ謂フ

第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料ノ十種トス

第三條 旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ旅程ヲ區別シ計算ス

第五條 所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十五章 旅費 第三節 南洋群島、關東州、南滿洲旅費

(別紙)

(甲號)

當省芝罘電信局在勤通信書記(月俸七十圓)某ハ病氣ノ爲許可ヲ受ケ大連市ニ轉地シ同地滿鐵病院ニテ死亡セリ右ニ對シテハ別紙理由ニ依リ外國旅費規則ニ依リ死亡手當ヲ支給スヘキモノト認ムルモ貴局議一應承知致度候

理由

本轉地療養地ハ在勤地ニ非サルモ療養ノ實狀ヨリ見レハ在勤地ニ於テ療養スル場合ト異ナラサルニ付本死亡ハ在勤地ニ於テ死亡シタルモノト看做シ外國旅費規則第三十六條ニ依リ死亡手當ヲ支給スヘキモノト認ム

(乙號)

八月一日附查第一、八〇六號ヲ以テ芝罘在勤者ニシテ許可ヲ受ケ大連ニ轉地療養中死亡シタル者ノ死亡手當支給ニ關シ御照會ノ件、右ハ外國旅費規則第三十六條ニ依リ死亡手當ヲ支給スヘキモノト被存候但其ノ額ニ付テハ一旦死體ヲ芝罘ニ移シ事應芝罘ニ於テ死亡シタルト同様ナルトキハ同條ニ依リ在勤地ニ付定メラレタル額ヲ支給シ可然モ單身在勤者ナルカ又ハ家族家財ヲ大連ニ移轉シアリタル等大連在勤者カ大連ニ於テ死亡シタルト同様ノ事情ナルトキハ死亡地タル大連ニ付南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四十一條ニ依リ定メラレタル額迄減額支給スルヲ以テ足ルモノト被存候經省議此段及御回答候也

〔文會例〕

〔文會例〕

第六條 本邦ト南洋群島關東州南滿洲トノ間ノ旅行ノ爲本邦内ヲ通過スルトキハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル旅費ヲ支給ス但シ關東州南滿洲直通ノ汽車ニ依リ若ハ南洋群島關東州南滿洲航路ノ船舶ニ依リ本邦ヲ出發シ又ハ本邦ニ歸著シタルトキハ當該鐵道賃、船賃及乘船港出發ノ日ヨリ又ハ歸著港ニ上陸ノ日迄ノ日當ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條 南洋群島關東州南滿洲ト外國トノ間ノ旅行ニ付テハ外國旅費規則ニ定ムル外國相互間ノ旅行ニ準シ旅費ヲ支給ス

第八條 一日中旅費ノ定額ヲ異ニスル場合ニ於テハ多キニ從ヒ之ヲ支給ス

第九條 新任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏ノ赴任、轉勤又ハ歸朝ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十條 私事ノ爲在勤地又ハ出張地以外ニ滞在スル者滞在地ヨリ直ニ旅行スル場合ニ於テハ滞在地ヨリ目的地ニ至ル旅費額力在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十一條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 履員備人其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第十三條 旅費ノ支給ヲ受ケル者ニ對シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定メタルモノヲ除クノ外別ニ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十四條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ大藏大臣ト

舊職ヲ要スル事項ニ關シテハ所管大臣ヲ經由スヘシ

第二章 鐵道貨、船貨及車馬貨

第十五條 鐵道旅行ニハ鐵道貨、水路旅行ニハ船貨、其ノ他ノ旅行ニハ車馬貨ヲ支給ス

第十六條 鐵道貨及船貨ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬貨ハ南洋羣島内ノ旅行ニ付テハ實費ニ依リ、關東州南滿洲内ノ旅行ニ付テハ別表ニ掲グル所ニ從ヒ定額ニ依リテ之ヲ支給ス

第十七條 鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニ於テ別ニ急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ勤任官以上ニ在リテハ定額ノ十分ノ六、奏任官以下ニ在リテハ定額ノ十分ノ七トス

第十八條 特別ノ事情ニ因リ定額ノ車馬貨ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十九條 車馬貨ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

第二十條 出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ百五十斤迄迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

第二十一條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道貨、船貨又ハ車馬貨ヲ支給セス

第三章 日當、宿泊料及食卓料

第二十二條 日當、宿泊料及食卓料ハ別表ニ掲グル所ニ從ヒ定額ニ依リテ之ヲ支給ス

ヲ支給ス

第二十三條 日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ天災其ノ他已ムヲ得サレ事故ノ爲上隨宿泊ヲ要シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

食卓料ハ船貨ノ外別ニ食料ヲ要スル場合又ハ船貨ヲ要セサルモ食料ヲ要スル場合ニ於テ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

第二十四條 旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ三百三十斤、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第二十五條 陸路六里未滿、鐵道七十八里未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ十三斤、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十六條 在勤處所在地區域内ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ルトキハ定額ノ半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

第二十七條 日當及宿泊料ハ同一地ニ滞在三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割ヲ減ス

同一地ニ滞在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第四章 支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料

【文會例】

第三十二條 家族移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ支給ス

一 第二十九條又ハ第三十條ニ掲グル者家族ヲ隨伴シ又ハ赴任、轉勤若ハ歸朝ノ後之ヲ呼寄スルトキ

二 賜暇歸朝ヲ許サレタル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴シ又ハ呼寄スルトキ

三 南洋羣島關東州南滿洲ニ在勤中許可ヲ受ケ家族ヲ呼寄セ又ハ歸朝セシムルトキ但シ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外同一任地ニ付往返各一回限リトス

第三十三條 家族移轉料ハ妻ニ付テハ本人相當ノ鐵道貨、船貨、車馬貨及食卓料ノ全額並日當、宿泊料、支度料、著後手當ノ半額トシ妻以外ノ家族ニシテ十二歳以上ノ者ニ在リテハ本人相當ノ鐵道貨、船貨、車馬貨、日當、宿泊料、食卓料及著後手當ノ半額トシ十二歳未滿ノ者ニ在リテハ更ニ其ノ半額トス

第三十四條 南洋羣島關東州南滿洲ニ赴任若ハ出張ヲ命セラレタル者、同地域ニ在勤中轉勤若ハ歸朝ヲ命セラレタル者又ハ同地域ニ滞在中其ノ地域ニ在勤ヲ命セラレ若ハ新ニ任用セラレタル者其ノ出發前死亡シ又ハ命令ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ本人ニ支給スヘキ支度料ノ全額以内ヲ支給スルコトヲ得

隨伴シ又ハ呼寄スルコトヲ許サレタル妻其ノ出發前死亡シ又ハ許可ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ本人ニ支給スヘキ支度料ノ半額以内ヲ支給スルコトヲ得

第五章 退官退職者旅費及死亡手當

第三十五條 南洋羣島關東州南滿洲ニ在勤中又ハ任所往返中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタルトキハ其ノ命令

【文會例】

第二十八條 支度料ハ南洋羣島關東州南滿洲ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル者ニ別表ニ依リテ之ヲ支給ス

南洋羣島關東州南滿洲又ハ其ノ他ノ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレ支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル日ヨリ一年内ニ再ヒ南洋羣島關東州南滿洲ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタルトキ支給スル支度料ハ定額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得但シ其ノ金額前ニ受ケタル金額ト合シテ定額ノ十五割ニ滿サルトキハ定額ヲ超エサル範圍内ニ於テ通シテ十五割迄ヲ支給スルコトヲ妨ケス

南洋羣島關東州南滿洲ニ在勤中若ハ出張中ノ者南洋羣島關東州南滿洲トノ間ニ於テ轉勤若ハ出張ヲ命セラレ又ハ南滿洲以外ノ外國ニ在勤中若ハ出張中ノ者南洋羣島關東州南滿洲ニ轉勤若ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ前ニ受ケタル支度料ノ額新ニ轉勤若ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料ノ定額ニ達セサルトキニ限り其ノ差額ノ範圍内ニ於テ支度料ヲ支給スルコトヲ得

第二十九條 移轉料及著後手當ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ支給ス

一 南洋羣島關東州南滿洲ニ赴任ヲ命セラレタル者

二 南洋羣島關東州南滿洲ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ又ハ他地方勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者

第三十條 南洋羣島關東州南滿洲ニ滞在中此等ノ地域ニ在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者ニハ移轉料及著後手當ヲ支給スルコトヲ得

第三十一條 移轉料ハ別表ニ依リ著後手當ハ目的地ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル日當五分及宿泊料五分並分ニ相當スル額トス

第十五章 旅費 第三節 南洋羣島、關東州、南滿洲旅費

又ハ通知到達ノ日迄日當及宿泊料ヲ支給ス

第三十六條 前條ニ掲グル南洋群島關東州南滿洲在勤中ノ者命令又ハ通知到達ノ日ヨリ三月内ニ舊任地ヲ出發シ相當ノ期間内ニ本邦ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滞在日數三十日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外賜暇ニ依ル歸朝ノ例ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス但シ著後手當ハ之ヲ支給セス

第三十七條 南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中ノ者他ノ地ニ出張中又ハ公務若ハ賜暇ニ依ル歸朝中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉任ト爲リ其ノ命令又ハ通知到達ノ日ヨリ一月内ニ出發シ相當ノ期間内ニ舊任地ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滞在日數十五日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外其ノ地ヨリ舊任地迄ノ旅費ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ舊任地ニ於ケル滞在中ノ日當及宿泊料ヲ支給スル日數ハ前條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給スル滞在中ノ日數ト通シテ四十日以内トス

第一項ニ掲グル者其ノ出張地ヨリ直ニ歸朝スルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

第三十八條 天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ事務引續務整理等ノ爲前二條ニ規定スル期間内ニ出發スルコト能ハサルトキハ所管大臣ハ事情ヲ斟酌シ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第三十九條 在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勳任官ニ在リテハ一人、奏任官以下ニ在リテハ出張ノ場合ヲ除クノ外六歳未満ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃及食卓料ヲ支給スルコトヲ得

南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中若ハ歸朝後妻ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムル場合又ハ同地域ニ在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勳任官又ハ奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歳未満ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得

〔文會例〕

人、勳任官又ハ奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歳未満ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得

第三十六條、第三十七條、第四十條又ハ第四十一條ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケ伴ヒタル從者アルトキハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第四十三條ノ規定ヲ準用ス

第四十五條 事務引續務整理等ノ爲廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉任ト爲リタル者ニ旅行又ハ滞在ヲ命シタルトキハ旅費ヲ支給ス

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 第三十四條乃至第四十條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ハ前官又ハ本官相當ノ旅費額ニ依ル

第四十七條 本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受ケヘキ者旅行ノ必要ナキニ至リタル場合ニ於テ未ダ旅行ヲ爲ササル區間ノ鐵道賃、船賃、急行料金、寢臺料金又ハ車馬賃ノ支拂ヲ要スルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

第四十八條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給ニ關シ必要ナル規程ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中支度料、移轉料、著後手當、妻ニ對スル支度料及著後手當ニ相當スル家族移轉料又ハ死亡手當ニ關スル規

程ハ大藏大臣之ヲ定ム

(別表)

官階	區分	車馬賃	日當	宿泊料	食卓料	支度料	移轉料	死亡手當
----	----	-----	----	-----	-----	-----	-----	------

第十五章 旅費 第三節 南洋群島、關東州、南滿洲旅費

外ノ地ニ於ケル出張中又ハ公務歸朝中ノ日數ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 第三十五條、第三十六條及第三十八條ノ規定ハ南洋群島關東州南滿洲ニ出張中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉任ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中、任所往返中又ハ出張中ノ者在勤地ニ於テ又ハ旅行中死亡シタルトキハ別表ニ依リ死亡手當ヲ其ノ遺族ニ支給ス

第四十二條 第三十六條、第三十七條及前條ノ場合ニ於テハ其ノ家族ニ付妻夫ノ任地ニ於テ又ハ許可ヲ受ケテ其ノ任所往返中死亡シタルトキハ本人ニ對スル死亡手當ノ半額以内ノ金額ヲ死亡手當トシテ支給スルコトヲ得

第四十三條 第三十六條乃至第三十八條、第四十條及前條ノ規定ハ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者及其ノ家族ニ付テハ之ヲ適用セス

第六章 雜則 第四十四條 許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勳任官ニ在リテハ一人、奏任官以下ニ在リテハ出張ノ場合ヲ除クノ外六歳未満ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃及食卓料ヲ支給スルコトヲ得

南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中若ハ歸朝後妻ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムル場合又ハ同地域ニ在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勳任官又ハ奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歳未満ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得

〔文會例〕

定ハ在外公館費用條例ノ適用又ハ準用ヲ受クル者ニハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

關東都府職員旅費規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ定額ノ定アル區間ヲ旅行中ノ者ニ支給スル船賃ハ其ノ區間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滞在スル者ニ對スル第二十七條ノ規定ノ適用ニ關シテハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

本令施行前南洋群島關東州南滿洲ニ赴任ヲ命セラレタル者、同地域ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ若ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者、賜暇歸朝ヲ許サレタル者又ハ賜暇歸朝中歸任スル者本令施行後目的地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給ス本令施行前南洋群島關東州南滿洲ニ滞在中同地域ニ在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者本令施行後目的地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給スルコトヲ得

前二項ニ掲グル者家族ヲ隨伴シ、呼寄セ又ハ歸朝セシムル場合ニ於テ其ノ家族本令施行後目的地ニ到着シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給スルコトヲ得

本令施行前南洋群島南滿洲ニ赴任ヲ命セラレ本令施行後出發シタル者ニ支給スヘキ支度料ノ額從前ノ規定ニ依リ支給スヘキ額ヨリ少額ナルトキハ仍從前ノ例ニ依ル

親任官	勳任官	官任奏	官任判
四 圓	三 圓	五等以上 二 圓	五級俸以上 一圓五十錢
十八 圓	十三 圓	六等以下 二 圓	六級俸以下 一圓五十錢
二十七 圓	二十 圓	九 圓	五 圓
六 圓	五 圓	十 圓	十 圓
八 圓	六 圓	十一 圓	十 圓
三百五十圓以内	二百五十圓以内	四 圓	三 圓
三千圓以内	二千圓以内	四 圓	三 圓
六百圓以内	二百五十圓以内	四 圓	三 圓
四百五十圓以内	四百五十圓以内	四 圓	三 圓
二百五十圓以内	二百五十圓以内	四 圓	三 圓
四百五十圓以内	四百五十圓以内	四 圓	三 圓
二百五十圓以内	二百五十圓以内	四 圓	三 圓
二百二十圓以内	二百二十圓以内	四 圓	三 圓
七百元以内	七百元以内	四 圓	三 圓
九百圓以内	九百圓以内	四 圓	三 圓
千二百圓以内	千二百圓以内	四 圓	三 圓
二百二十圓以内	二百二十圓以内	四 圓	三 圓
五百圓以内	五百圓以内	四 圓	三 圓

●南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則

○大藏省令第三十二號 大正十年九月一日

第一條 旅費ハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則第五條ノ規定ニ依リ其ノ一部ヲ支給セサル場合ト雖精算ヲ爲サシムヘシ

第二條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則第十三條ニ規定スル手當トハ旅費以外ニ特ニ旅行者ニ支給スル金額ニシテ其ノ精算ヲ要セサルモノヲ謂フ

第三條 鐵道賃ハ奏任官以上ニ在リテハ一等ノ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)判任官ニ在リテハ二等ノ旅客運賃ニ依リテ之ヲ計算ス但シ一等ノ座席ノ設ナキモノニ在リテハ上等ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ニ依ル南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬セサル鐵道線路ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス判任官ニ對シテモ一等ノ旅客運賃ヲ支給ス

第四條 賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニ支給スル任地本邦間ノ旅費トハ任地ト本邦ニ於ケル所屬廳所在地トノ間ノ旅費、本邦ニ所屬廳ナキ場合ニ在リテハ任地ト東京トノ間ノ旅費ヲ謂フ

〔文會例〕

〔文會例〕

第九條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則第三十六條、第三十七條、第四十二條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ支給スル旅費トハ本邦ニ於ケル住所地迄ノ旅費、其ノ住所地ナキ者ニ在リテハ本邦ニ於ケル家族ノ住所地迄ノ旅費、本人又ハ家族ノ住所地共ニナキ者ニ在リテハ原籍地迄ノ旅費ヲ謂フ但シ其ノ金額ニシテ本邦ニ於ケル目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十條 家族移轉料ヲ支給スル場合ニ於ケル家族トハ妻子及同一戶籍内ニ在リテ本人ノ扶養スル親族ヲ謂フ

第十一條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ於テ遺族トハ配偶者、直系卑屬、直系尊屬及兄弟姉妹又ハ同一戶籍内ニ在ル親族ヲ謂フ

第十二條 死亡手當ヲ受ケヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケル順位ニ依リ同順位内ニ在リテハ民法第九百七十條及第九百八十四條ノ規定ニ準シ之ヲ定ム

第十三條 南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四十四條ノ規定ニ依ル從者ノ旅費ハ傭人ノ旅費ニ付階級ヲ設ケル場合ニ於テハ其ノ最下級ノ額トス

本令ハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十年九月一日ヨリ施行)

●文部省所管判任官以上ノ待遇ヲ受クル者

●傭託員雇員及傭人ニ支給スル南洋群島關

●東州南滿洲旅費規則

○會計課長通譯會二百三十五號 大正十年五月十七日

直轄部局長

第十五章 旅費 第三節 南洋群島、關東州、南滿洲旅費

マルトキハ第一項運賃ノ外其ノ座席ノ爲現ニ支拂ヒタル料金ヲ支給ス

第四條 船賃ハ奏任官以上ニ在リテハ一等ノ旅客運賃(通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム)判任官ニ在リテハ二等ノ旅客運賃ニ依リテ之ヲ計算ス但シ一等ノ船室ノ設ナキモノニ在リテハ上等ノ運賃其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘船ニ要スル運賃ニ依ル

第五條 判任官ニシテ特別ノ事情ニ依リ前條ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル船室ヲ要シタル場合ニ於テハ其ノ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第六條 車馬賃ハ鐵道又ハ船舶ノ便アル區間ノ旅行ニハ之ヲ支給セス但シ用務ノ性質上鐵道又ハ船舶ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 陸路路程ハ郵便線地圖ノ示ス所ニ依リテ之ヲ計算スヘシ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ハ成ルヘク領事館其ノ他帝國官衙ノ證明スル所ニ依ルヘシ

第八條 賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニ支給スル任地本邦間ノ旅費トハ任地ト本邦ニ於ケル所屬廳所在地トノ間ノ旅費、本邦ニ所屬廳ナキ場合ニ在リテハ任地ト東京トノ間ノ旅費ヲ謂フ

第一條 親任官又ハ勳任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勳任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第二條 奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配當アル者ニハ其ノ官相當ノ額官等ノ配當ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額(月額ノモノハ十二月)ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一 本俸若ハ手當年額三千六百圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當年額四千八百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二 前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

第三條 判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一 本俸又ハ給料若ハ手當月額百十圓以上又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ給料若ハ手當月額百七十圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

二 前號ノ金額ニ達セサル者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

第四條 傭託員ニシテ本官アル者(退職ノ者及退職ニ準スヘキ者ヲ除ク)ニハ本官相當ノ額判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第一條乃至第三條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス

第五條 前條ノ規定ニ該當セサル傭託員ニハ其ノ當時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額(年額ハ十二分ノ一日額ハ三十分)ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ判任官相當ノ額判任官以上ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合判任官位功學位ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

- 一 手當月額三百圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當月額四百圓以上ノ者ニハ委任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額
 - 二 手當月額七十圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當月額二百五十圓以上ノ者ニハ委任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額
 - 三 手當月額百十圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當月額百七十圓以上ノ者ニハ委任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額
 - 四 手當月額五十五圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ手當月額七十五圓以上ノ者ニハ委任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額
 - 五 有爵者、正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ委任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額
 - 六 從六位勳六等、功五級又ハ學位ヲ有スル者ニハ委任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額
 - 七 從七位以上、正七位以下、勳七等又ハ功六級ノ者ニハ委任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額
 - 八 正八位以下、勳八等又ハ功七級ノ者ニハ委任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額
 - 九 前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲號
- 第六條 雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

〔文會例〕

- 一 給料月額五十五圓以上ノ者又ハ内地人ニシテ朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニシテ給料月額七十五圓以上ノ者ニハ委任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額
 - 二 前號以外ノ者ニハ別表甲額
 - 第七條 傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス
 - 一 巡視、門衛其ノ他艦内取締ノ役務ニ服スル者並運轉士、機關士、水夫長、司厨長及之ニ準スル者又ハ給料日額内地ニ在勤スル者ニ在リテハ貳圓五十錢以上朝鮮、臺灣、樺太ニ在勤スル者ニ在リテハ參圓五十錢以上ノ者ニハ別表甲額
 - 二 前號以外ノ者ニハ別表乙額
 - 第八條 傭託員雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ支給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス
 - 第九條 官吏ニ非サル船舶乗組員ニシテ南洋群島、關東州又ハ南滿洲ニ於テ死亡シタルトキハ死亡手當ヲ支給スルコトヲ得
 - 第十條 本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分並用務ノ性質ニ依リ其都度大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム
 - 第十一條 本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ南洋群島、關東州、南滿洲旅費規則及南洋群島、關東州、南滿洲旅費規則施行細則ニ依ル
- 附則
本規則ハ大正十一年度分ヨリ之ヲ適用ス

(別表)

旅費額

分區	鐵道貨及船貨	車馬貨	日當	宿泊料	食卓料	支度料	移轉料	死亡手當
甲	イ南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬スル鐵道線路ニ付テハ三等ノ定額 ロ前號以外ノ運賃ニシテ其ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定額 ハ同上ニ階級ニ區分スルトキハ下級ノ定額 ニ運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃	一圓	三圓	六圓	五十錢	以百二十圓内	以七十圓内	以三百圓内
乙	イ南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬スル鐵道線路ニ付テハ三等ノ定額 ロ前號以外ノ運賃ニシテ其ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定額 ハ同上ニ階級ニ區分スルトキハ下級ノ定額 ニ運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃	二十錢	四圓	八圓	二圓	以七十圓内	以八十五圓内	以四百圓内

- 一 鐵道貨及船貨ハ前掲ノ旅客運賃(通行税、船賃及棧橋賃ヲ含ム)ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得
- 二 車馬貨ハ南洋群島内ノ旅行ニ付テハ之ヲ支給セス
- 三 出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帯スル私屬荷物ハ七十五斤迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

●南洋群島臨時通行稅令施行規則

○南洋廳令第六號 昭和十三年四月一日

- 第一條 南洋群島臨時通行稅令(以下臨時通行稅令ト稱ス)第四條ノ規定ニ依ル乘船區間ノ料程ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス
 - 一 往復乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘船區間ノ料程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス
 - 二 回遊乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘船區間ノ料程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス
- 第二條 汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ臨時通行稅令第二條第一項、第三項及第三條第一號ノ等級ハ等級ヲ分タ

第十五章 旅費 第三節 南洋群島、關東州、南滿洲旅費

- 第三條 乘客定員數ノ定メナキ汽船ニ付貸切乘船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ臨時通行稅令第二條第四項ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準トナリタル人員ニ依ル
- (以下省略)
- 附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六章

在外研究員

第十六章 在外研究員

●在外研究員規程

勅令第六號 大正十一年一月二十三日

改正 昭和九年第三九五號

- 第一條 主管大臣ハ其ノ主管事項ニ關シ須要ノ學術技藝ヲ研究セシムル爲
在外研究員ヲ外國ニ派遣スルコトヲ得
- 第二條 在外研究員ハ選拔ニ依リ主管大臣之ヲ命ス
- 第三條 在外研究員ノ研究事項、在留國、在留期間其ノ他必要ナル事項ハ
主管大臣之ヲ指定ス
- 第四條 在外研究員ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ學資金、巡歴手當及旅費ヲ
支給ス
- 特別ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ前項ニ定ムルモノノ
外特別手當ヲ支給スルコトヲ得
- 第五條 學資金及巡歴手當ハ別表ニ依ル但シ官吏ニ非サル者ニ付テハ所管
大臣大藏大臣ト協議シ別表ニ準シテ之ヲ定ム
- 第六條 學資金ハ最初ノ在留地到着ノ翌日ヨリ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割
及日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 在留期間移轉ノ場合ニ於テハ前在留地ヲ出發シタル日ノ翌日ヨリ後在留
地ニ付定メタル學資金ヲ支給ス
- 第七條 各地ヲ巡歴研究スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給セス巡歴手當ヲ支給
ス
- 第八條 旅費ハ本邦在留國間往返ノ場合又ハ在留國間移轉ノ場合ニ於テ外

第十六章 在外研究員

〔文會例〕

- 國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、
宿泊料、食卓料及支度料ヲ支給ス
- 第九條 外國在留中特別ノ任務ニ從事スル場合ニ於テハ外國旅費規則ノ定
ムル所ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ學資金及巡歴手當ハ之ヲ
支給セス
- 第十條 外國旅費規則中死亡手當ニ關スル規定ハ在外研究員ニ付之ヲ準用
ス
- 第十一條 學資金及巡歴手當ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得但シ學資金ニ付テハ
六月分ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十二條 在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄
之ヲ定員外ト爲スコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル者ニハ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依
リ其ノ俸給ノ三分ノ二以内ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條 特別ノ事情アルトキハ官吏ニ非スシテ在外研究員ヲ命セラレタ
ル者ニ年額二千五百圓以内ノ家族手當ヲ支給スルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル在外研究員ニ之
ヲ準用ス但シ同條第二項ノ規定ニ依リ受クル金額ト家族手當ノ額ト合シ
テ俸給ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十四條 在外研究員ハ歸朝ノ日ヨリ外國在留期間ノ二倍ニ相當スル期間
主管大臣ノ指定スル職務ニ從事スル義務ヲ負フモノトス但シ歸朝ヲ爲サ
シメスシテ直ニ外國ニ在勤ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ期間ハ在勤ヲ命
シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十六章 在外研究員

第十五條 在外研究員主管大臣ノ命令ニ違背シタルトキ又ハ成業ノ目途ナキニ至リタルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第十六條 第十四條ノ義務ヲ履行セズ又ハ前條ノ規定ニ依リ研究員ヲ免セラルタル者ノ受ケタル學資金、巡歴手當、特別手當及旅費ハ之ヲ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ學資金及巡歴手當ニ關シ別段ノ定メ爲スコトヲ得

第十八條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス
逓信省外國留學生規程
(別表)

水産講習所在外研究員規程
明治四十二年勅令第二百二十九號
關東廳在外研究員規程
臺灣總督府在外研究員規程
大正五年勅令第六十五號
文部省在外研究員規程
朝鮮總督府在外研究員規程
本令施行ノ際現ニ舊令ニ依ル外國留學生、在外研究員又ハ在外研究生ハ之ヲ本令ニ依ル在外研究員ト看做シ其ノ給與ニ付テハ文部省在外研究員ヲ除クノ外大正十年九月分ヨリ本令ヲ適用ス但シ大正十年九月一日前本邦ヲ出發シタル者ノ支度料及最初ノ在留國ニ至ル迄ノ旅費並大正十年九月一日前最後ノ在留國ヲ出發シタル者ノ旅費ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
本令施行前外國留學生、在外研究員又ハ在外研究生ヲ命セラレタル者ノ義務ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

區分	學資金			年額			巡歴手當年額		
	甲地方	乙地方	丙地方	甲地方	乙地方	丙地方	甲地方	乙地方	丙地方
高等官	五千五百圓以内	四千五百圓以内	三千圓以内	二千二百圓以内	九百圓以内	九百圓以内	九百圓以内	九百圓以内	九百圓以内
判任官	四千五百圓以内	三千七百圓以内	二千四百圓以内	九百圓以内	七百圓以内	七百圓以内	七百圓以内	七百圓以内	七百圓以内

備考
甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴亞弗利加大洋洲並支那及西比利亞以外ノ亞細亞、丙地方トハ支那及西比利亞ヲ謂フ

〔文會例〕

明治四十二年十月十一日勅令第二百二十九號ハ鐵道省外國留學生ニ關スル件、大正五年六月八日勅令第六十五號ハ製鐵所外國留學生ニ關スル件ナリ

● 在外研究員規程施行細則

○ 文部省令第十一號 大正十一年三月二十七日
改正 昭和十四年第四六號

第一條 文部省在外研究員ヲ命セントスルトキハ身體ニ付検査ヲ行フ

第二條 文部省在外研究員ヲ命セラレタル者ハ七日以内ニ誓書ヲ差出シ且速ニ出發届ヲ差出スヘシ(第一號書式、第二號書式)

第三條 文部省在外研究員ニシテ本邦出發前疾病ニ罹リタル者ニ付テハ更ニ身體検査ヲ行ヒ之ヲ免スルコトアルヘシ

第四條 文部省在外研究員ノ往返旅費ハ別表(甲)移轉旅費ハ別表(乙)ニ依リテ支給ス但シ別表ニ掲ケサル國間ノ旅費ハ別表ニ準シ文部大臣之ヲ定ム

第五條 文部省在外研究員在留地ニ到着シタルトキ及在留地ヲ離ルルトキハ遲滞ナク文部大臣並當該國駐在帝國大使、公使又ハ最寄地方駐在帝國領事ニ其旨届出ツヘシ(第三號書式、第四號書式)

第六條 文部省在外研究員在留地ヲ轉セントスルトキハ旅費支給願書ヲ、學術研究ノ爲各地ヲ巡歴セントスル場合ニ於テ特ニ手當ノ給與ヲ請ハントスルトキハ巡歴手當支給願書ヲ成ルヘク三日前ニ文部大臣ニ差出スヘシ但シ巡歴ノ場合ニハ之ニ要スル費用見積書ヲ添附スヘシ(第五號書式、第六號書式)

第七條 文部省在外研究員在留地中學術研究上特ニ多額ノ費用ヲ要スルトキハ不慮ノ事變若クハ災害ニ遇ヒタルトキニ於テ特ニ特別手當支給ヲ請ハ

ノトスルモノハ其ノ事由及費用見積額ヲ添附シテ特別手當支給願書ヲ文部大臣ニ差出スヘシ(第五號書式ニ準ス)

第八條 文部省在外研究員ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ指定在留國以外ニ轉スルコトヲ得ス(第七號書式)

第九條 文部省在外研究員ハ自己ノ便宜ニ依リ滿期前歸朝スルコトヲ得ス但シ疾病ニ因リ研究ニ堪ヘ難キトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ許可ヲ受ケヘシ(第八號書式)

前項但書ノ場合ニ於テ特ニ急症ニシテ許可ヲ受ケルノ暇ナキトキハ當該國駐在帝國大使、公使又ハ最寄駐在帝國領事ノ證明ヲ得歸朝ノ後追認ヲ受ケヘシ(第九號書式)

第十條 文部省在外研究員ハ毎年四月及十月ノ二回ニ其ノ研究事項ニ關スル申報書ヲ差出スヘシ(第十號書式)

第十一條 文部省在外研究員ノ學資金ハ毎年度ノ始ニ於テ六月分七月及十月ニ於テ各三分前渡ヲ以テ給ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 文部省在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ任地出發ノ日ヨリ歸任ノ日マテ之ヲ定員外トス

第十三條 文部省在外研究員旅行中私事ノ爲滞在セントスルトキハ許可ヲ受ケヘシ但シ豫メ許可ヲ受ケルノ暇ナキトキハ其ノ事由ヲ具シ追認ヲ受ケヘシ(第十一號書式、第十二號書式)

第十四條 文部省在外研究員ハ滿期ノ翌日在留地ヲ出發歸朝スヘシ但シ已

第十六章 在外研究員

4. 得サル事由ニ依リ出發シ難キトキハ當該國駐在帝國大使、公使又ハ最寄駐在帝國領事ノ證明ヲ得テ十四日以内滞在スルコトヲ得(第十三號書式、第十四號書式)

第十五條 文部省在外研究員學費、旅費又ハ手當ヲ受領シタルトキハ遲滞ナク領收書ヲ中央金庫ニ送附スヘシ

第十六條 文部省在外研究員ハ學費、旅費又ハ手當ノ送達ヲ受クルタメ兼メ宿所ヲ指定シテ届出ツヘシ(第十五號書式)

第十七條 文部省在外研究員歸朝シタルトキハ七日以内ニ歸朝届及在外研究員始末書ヲ差出スヘシ(第十六號書式、第十七號書式)

附則

本令ハ大正十一年一月二十三日ヨリ之ヲ適用ス

附則 (昭和十四年支那省令第四六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和十四年六月二日ヨリ施行)

別表 甲

在外研究員往返旅費定額表

在留國名	旅費(片道)
英吉利	一、三九三
佛蘭西	一、三三三
獨逸	一、三七五
伊太利	一、二六一
瑞西	一、三二七

〔支會例〕

和蘭	一、三五七
白耳義	一、三五五
瑞典	一、四四二
芬蘭	一、四五二
丁抹	一、五七六
洪牙利	一、三九七
西班牙	一、三七四
西班	一、三九五
葡牙	一、四五四
亞米利加合衆國	一、〇八七
智利	一、一八八
亞爾然丁	一、二八四
伯刺西爾	一、一八七
海峽植民地	三四九
和蘭領東印度	四二八
蘇聯邦	五〇六

別表 乙ノ一

在外研究員移轉旅費定額表

其ノ一

佛蘭西	四七
獨逸	一一三
伊太利	一三五
瑞西	九八
和蘭	四一
白耳義	三四
瑞典	二〇七
諾威	二三〇
丁抹	一三九
洪牙利	一八八
西班牙	一四八
葡萄牙	一一三
亞米利加	四九四
蘇聯邦	一九九
英吉利	一九九
佛蘭西	一五八
獨逸	九二
伊太利	一九八
瑞西	一六三
和蘭	一一〇
白耳義	一一六
瑞典	一五九
諾威	一六九
丁抹	一一四
洪牙利	一〇九
西班牙	二一六
葡萄牙	二五一
亞米利加	六七七
蘇聯邦	六七七

第十六章 在外研究員

別表 乙ノ二

在外研究員移轉旅費定額表 其ノ二

區	間	旅	費
獨逸	芬蘭		二〇七圓
亞米利加	智利		八五八
同	亞爾然丁		八八四
同	伯刺西爾		六三三
佛蘭西	海峽植民地		九八八
同	和蘭領東印度		一、〇六六

第一號書式

誓書

今般何國何國ニ於テ何年間何學研究ノ命ヲ受ケ、マシタ就テハ在外中並歸朝後トモ御規定ノ旨ヲ遵奉シマス

年月日

文部大臣何某殿
文部省在外研究員 何 某印

第二號書式

出發(又ハ出發豫定)届

何年月何日何地(任地、官職ナキ者ハ現住所)出發、何年月何日何某港解纜某國某府(向ヒマスカラ(向フ豫定アリマスカラ)御届シマス

〔文會例〕

年月日
文部省在外研究員 何 某印
留守宅.....

第三號書式

在留地到着届

何年月何日某國某地ニ到着シマシタカラ御届シマス

年月日

文部大臣何某殿
大、公使何某殿 各通
領事何某殿 各通

宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書)
文部省在外研究員 何 某
(羅馬字並書)

第四號書式

在留地退去届

何年月何日某國某地ヲ退去シ、某地ニ向ヒマスカラ御届シマス

年月日

文部大臣何某殿
大、公使何某殿 各通
領事何某殿 各通

宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書)
文部省在外研究員 何 某
(羅馬字並書)

第五號書式

手當給與届

別紙見積書ノ通巡歴シタイカラ、手當御給與ヲ願ヒマス

年月日

宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書)
文部省在外研究員 何 某
(羅馬字並書)

(別紙)

見積書

何年月何日 某地出發
何年月何日 某地著(經由又ハ滞在)
何年月何日
右ニ要スル費用
汽車汽船賃 何圓
滞在費 何圓
其ノ他雜費 何圓
計 何圓

備考 右見積書ニ關スル注意事項等記入ノコト

第六號書式

旅費給與届

何年月何日何國ヨリ何國ヘ移轉シタイカラ旅費御給與ヲ願ヒマス

年月日

第十六章 在外研究員

〔文會例〕

第七號書式

在留國追加届

何々ノ必要上何々國ヲ在留國中ニ御追加ヲ願ヒマス

年月日

宿所(郵便宛先)(原語並書)
文部省在外研究員 何 某
(羅馬字並書)

宿所(郵便宛先)(原語並書)
文部省在外研究員 何 某
(羅馬字並書)

第八號書式

滿期前歸朝届

病氣ノ爲研究ニ堪ヘマセンカラ滿期前歸朝御許可ヲ願ヒマス

年月日

宿所(郵便宛先)(原語並書)
文部省在外研究員 何 某
(羅馬字並書)

第九號書式

滿期前歸朝追認届

病氣ノ爲研究ニ堪ヘ難ク、何年月何日某地出發歸朝シマスカラ御追認

第十六章 在外研究員

ヲ願ヒマス

年月日

文部大臣何某殿

文部省在外研究員

何

某

第十號書式

自何年何月 申報書
至何年何月

前二號ノ外 緊要ノ事項	旅行休業	修業所、教 師、學科目
何年何月何日學費(手當又ハ旅費)何圓受領等 (其、他試験、學位、褒賞ニ關スル事項等記入ノコト)	何年何月何日某地某地地方ニ旅行シ何年何月何日 巡驗ヲ了ル其ノ報告書別紙ノ如シ(既ニ報告書ヲ差 ハ添附セサルモ妨ケナク又追テ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記スヘシ) 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何病療養ノ爲某地 ニ依リ休業ス 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄病氣又ハ何ノ事故	何年何月何日某地某學校若ハ某所ニ入り何年何月何 日ヨリ何年何月何日迄教師某氏ニ就キ某學科目ヲ研 究シ何年何月何日ヨリ現今ニ至ル迄教師某氏ニ就キ 某學科目ヲ研究ス 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何々ノ研究又ハ實 驗ニ從事ス其ノ成績何々又ハ其ノ報告書別紙ノ如シ (既ニ此ノ報告書ヲ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記スヘシ) (モ妨ケナク又追テ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記スヘシ)

〔文會例〕

年月日

宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書)

文部省在外研究員 何

(羅馬字並書) 某

文部大臣何某殿

第十一號書式

旅行中私費滞在願

何年何月何日日本邦出發某國某地ニ向テアリマスガ(又ハ某地出發歸
朝ノ管テアリマスガ)途中某地ニ於テ何々ノ爲何日間私費滞在シタイカ
ラ御許可ヲ願ヒマス
年月日

宿所(又ハ郵便宛先)(原語並書)

文部省在外研究員 何

(羅馬字並書) 某

文部大臣何某殿

第十二號書式

旅行中私費滞在追認願

何年何月何日日本邦(又ハ某地)出發、何年何月何日某地ニ到着(又ハ歸朝)
シマシタガ、途中某地ニ於テ何々ノ爲何日間私費滞在シマスカラ御追認
ヲ願ヒマス
年月日

〔文會例〕

年月日

宿所(郵便宛先)(原語並書)

文部省在外研究員 何

(羅馬字並書) 某

文部大臣官房會計課御中

記

第十六號書式

(明瞭ニ記載スヘシ)

歸朝願

何年何月何日歸朝シマシタカラ御届シマス
年月日

文部省在外研究員 何

某

文部大臣何某殿

第十七號書式

在外研究始末書

一、往返發著
何年何月何日某港解纜某洋ヲ經(何年何月何日迄某地ニ滞在)何年何月
何日最初ノ在留地某國某所ニ到着
何年何月何日滿期(病氣或ハ何ノ事故ニ付歸朝ヲ命セラレ或ハ何ノ事
故アリテ歸朝願濟)ニヨリ何年何月何日某所出發某洋ヲ經(何年何月
何日ヨリ何年何月何日マテ某地滞在)何年何月何日某港(本邦港)ニ到
著
一、修學狀況

第十六章 在外研究員

ヲ願ヒマス

年月日

文部大臣何某殿

文部省在外研究員

何

某

第十號書式

自何年何月 申報書
至何年何月

前二號ノ外 緊要ノ事項	旅行休業	修業所、教 師、學科目
何年何月何日學費(手當又ハ旅費)何圓受領等 (其、他試験、學位、褒賞ニ關スル事項等記入ノコト)	何年何月何日某地某地地方ニ旅行シ何年何月何日 巡驗ヲ了ル其ノ報告書別紙ノ如シ(既ニ報告書ヲ差 ハ添附セサルモ妨ケナク又追テ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記スヘシ) 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何病療養ノ爲某地 ニ依リ休業ス 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄病氣又ハ何ノ事故	何年何月何日某地某學校若ハ某所ニ入り何年何月何 日ヨリ何年何月何日迄教師某氏ニ就キ某學科目ヲ研 究シ何年何月何日ヨリ現今ニ至ル迄教師某氏ニ就キ 某學科目ヲ研究ス 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何々ノ研究又ハ實 驗ニ從事ス其ノ成績何々又ハ其ノ報告書別紙ノ如シ (既ニ此ノ報告書ヲ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記スヘシ) (モ妨ケナク又追テ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記スヘシ)

〔文會例〕

年月日

宿所(郵便宛先)(原語並書)

文部省在外研究員 何

(羅馬字並書) 某

文部大臣官房會計課御中

記

第十六號書式

(明瞭ニ記載スヘシ)

歸朝願

何年何月何日歸朝シマシタカラ御届シマス
年月日

文部省在外研究員 何

某

文部大臣何某殿

第十七號書式

在外研究始末書

一、往返發著
何年何月何日某港解纜某洋ヲ經(何年何月何日迄某地ニ滞在)何年何月
何日最初ノ在留地某國某所ニ到着
何年何月何日滿期(病氣或ハ何ノ事故ニ付歸朝ヲ命セラレ或ハ何ノ事
故アリテ歸朝願濟)ニヨリ何年何月何日某所出發某洋ヲ經(何年何月
何日ヨリ何年何月何日マテ某地滞在)何年何月何日某港(本邦港)ニ到
著
一、修學狀況

何年何月何日某國某所ニ於テ教師某氏ニ從ヒ何年何月何日迄左ノ學科ヲ研修ス

學科 何々

何年何月何日ヨリ何ノ故ヲ以テ某校ニ轉シ教師某氏ニ從ヒ何年何月何日迄左ノ學科(又ハ事項)ヲ研修ス

學科 何々 (又ハ事項何々)

何年何月何日ヨリ何年何月何日迄某所ニ於テ(又ハ某地(巡歴)左ノ事項ヲ研究(又ハ實驗)ス

事項 何々

一、右ノ外緊要ノ事項
年月日

文部省在外研究員

某印

文部大臣何某殿

●在外研究員ヲ朝鮮、臺灣等ニ轉セシムル

場合ノ取扱方ニ關スル件

○文部次官裁定發專二十七號 大正十五年三月十一日
首題ノ件ニ關シテ大要左記要項ニ依リ處理相成可然哉

一、本省在外研究員ヲ朝鮮、臺灣等ニ轉任セシムル場合ハ必ス左記要項ニ依リ朝鮮、臺灣等ヲシテ其ノ後任者ノ在外研究ニ要スル經費ヲ補償支辨セシム

二、補償ノ方法ハ後任者ヲ一應朝鮮、臺灣等ノ在外研究員トナサシメ補償

〔文會例〕

金額ニ相當スル在外研究費ヲ支出シタル時期ヲ朝鮮、臺灣等ノ在外研究員ヲ免シ之ヲ本省在外研究員ニ任命スルモノトス
三、補償ノ金額ハ俸給、手當、旅費、學資金、支度料等一切在外研究中要シタル總金額トス

●在外研究中俸給支給ニ關スル件(其ノ一)

○會計課長回答 大正十五年十二月二十日

十二月一日附會第六七九號ヲ以テ貴學航空研究所技師某ニ對シテ在外研究中俸給百分ノ四ヲ支給スル時期ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ發令(九月二十二日)ノ翌日ヨリ支給スヘキモノト認ムルニ付御了知相成度尙本件ハ任命同時ニ定員外トナリタルモノトシ學費家族手當ヲ支給致シ居ル次第ナレハ任命後ノ俸給ハ俸給支給方發令ニ到ル迄ハ支給セラレサル儀ト御了知相成度此段回答ス

○東京帝國大學會計課長照會 大正十五年十二月一日

貴ニ獨逸國へ出張中ノ本學航空研究所技師某ハ大正十五年九月六日附ヲ以テ在外研究員ヲ命セラレ同月二十二日發令在外研究中俸給百分ノ四ヲ支給セラレ候處右俸給ハ原則トシテ發令翌日ヨリ支給シ可然カ將在外研究員被命當日(九月六日)ニ遡リ支給セラレヘキモノナルヲ疑義相生シ候ニ付御意見承知致度此段及照會候也

●在外研究中俸給支給ニ關スル件(其ノ二)

○會計課長回答 昭和二年四月十六日

本年三月七日付會第一〇二號ヲ以テ御照會ニ係ル俸給支給方ノ件ハ御見解ノ通御處理相成可然ニ付御了知相成度此段回答ス

追而爾今右ノ如キ場合ニハ出發前ニ講座擔任ヲ免セラレ、據御取計相成度爲念此段申添フ

○東京帝國大學會計課長照會第百二號 昭和二年三月七日

助教授ニシテ左記設例ノ場合俸給支給方ハ末段ノ通り取計可然思料候モ一應及御照會候也

例 本俸十級俸職務俸五百圓講座擔任職務俸六百圓ヲ受クル助教授ニシテ在外研究ヲ命セラレ三月一日出發シタルニ付當日ヨリ百分ノ四十(年九百六十圓)ヲ支給セラレタル者三月三十日付講座擔任ヲ免セラレタル場合減額金額(年七百貳拾圓)ニヨリ翌日ヨリ改定支給スヘキモノナルヲ

●支那及西比利亞地方ノ學資減額ニ關スル件

件

○文部大臣裁定發專二百五十七號 大正十二年十一月七日

支那及西比利亞地方ノ學資ハ從來獨國、奧國ヲ除ク以外ノ歐米諸國ト同様年額四千三百二十圓ヲ支給サレシカ大正十一年一月二十三日勅令別表ニモ支那及西比利亞地方ハ減額セラレ居ルヲ以テ年額三千圓ニ改定支給ス

〔文會例〕

●在外研究員支那往復旅費(片道)及支度料

定額ノ件

○文部次官裁定 大正十二年一月二十六日

旅費(片道) 二五〇圓
支度料 三六〇圓

●在外研究員ノ赴任旅費ニ關スル件(其ノ一)

○會計課長回答 大正十一年五月二十六日

二月十四日附會第一二三號ヲ以テ御照會相成タル旅費支給方ノ儀ハ左記ノ通り御了知相成タシ

一 赴任手當ト移轉料トノミヲ支給スヘシ

一 差支ナシ

一 歸學當時ノ資格ニ依ル

○九州帝國大學照會第百二十三號 大正十一年二月十四日

在外研究中本學教官ニ任セラレタル者又ハ本學教官ニ任セラレ赴任セス直ニ在外研究ノ爲出發シタル研究員歸朝者ニ對スル赴任旅費支給上左記事項ニ要義有之候條御指示相煩度

記

一 在外研究員歸朝ニ際シテハ滞在國ヨリ日本上陸地迄ノ旅費ヲ支給セラレルル趣ニ付上陸地ヨリ在勤處所在地迄ニ對スル成規ノ赴任ニ關スル相當旅費ヲ支給シ差支ナキヤ

例之本學教授(歸朝當時ハ助教授)某ハ在外研究中本學助教授ニ任セラレ大正十一年十一月六日門司ニ上陸シ同日本學へ歸學セリ依テ門司福岡間鐵

遺賃、日當並赴任手當移轉料ハ支給シ差支ナキヤ

- 一 家族移轉料ハ現ニ家族住居地ヨリノ相當額ヲ支給シ差支ナキヤ
- 一 前項家族移轉料支給ニ際シ歸學後昇給等ノ爲旅費定額増加シタル後移轉シタル場合ニ於テモ本人歸學當時ニ於ケル資格相當ノ額ヲ支給スヘキモノナルヲ

●在外研究員ノ赴任旅費ニ關スル件(其ノ二)

○會計課長回答 昭和二年

本年四月二十七日附發第三二八號ヲ以テ御照會相成リタル貴校教授某ニ對スル赴任旅費支給ニ關スル件ハ大正十一年五月二十六日何定「在外研究員ノ赴任旅費ニ關スル件」ト同様ニ解スヘキモノト認ムルニ付左記ノ通り御處理相成度此ノ段回答ス

記

- 一 支給セス。赴任手當ト移轉料トノミヲ支給スヘシ
 - 一 家族移轉料ハ留守宅(三重縣宇治山田市)ヨリ規定額支給スヘシ
 - 官崎高等農林學校長照會發第三百二十八號 昭和二年四月二十七日
- 在外研究員某ハ去ル大正十四年一月二十七日林業試驗場技師ヨリ本校教授ニ轉任直ニ歐米ヘ留學ヲ被命當時本校創立事務所ハ文部省内ニ設置中ニシテ學校所在地タル宮崎市ニ赴任セヌ同年二月十五日日本邦出發本年四月十四日歸朝(横濱上陸)同十八日歸任致候處右ハ大正十一年五月二十六日九州帝國大學何出ノ在外研究員ノ赴任旅費ニ關スル件トハ些カ其ノ趣ヲ異ニシ赴任旅費支給上疑義相生シ候ニ付左記ノ件御同示相成度此ノ段及照會候

【文會例】

記

- 一 赴任旅費ハ出發前ノ現住所東京市ヨリ官崎市迄ノ規定額支給スヘキヤ
- 一 家族移轉料ハ留守宅(三重縣宇治山田市)ヨリ規定額支給スヘキヤ將タ又本人同様東京市ヨリノ額ヲ支給スヘキヤ

●在外研究員移轉旅費定額ノ件(其ノ一)

○文部大臣裁定 大正十三年一月十一日

區	間	移轉旅費	經路
埃	及 希 臘	二二〇	
埃	及 シリヤ	五〇	
希 臘	埃 太 利	一九〇	
希 臘	土 耳 古	一四〇	
土 耳 古	シ リ ヤ	一五〇	
伊 太 利	埃 及	四五八	
佛 蘭 西	埃 及	二九三	
埃 及	印 度	五八六	

●在外研究員移轉旅費定額ノ件(其ノ二)

○文部次官裁定 大正十五年二月二十三日

米國東部

英領加奈陀間

二三〇圓

●在外研究員移轉旅費定額ノ件(其ノ三)

○文部次官裁定 大正十五年七月二十日

區	間	移轉旅費	經路
英 吉 利	亞 爾 然 丁	一、〇三〇圓	直 航
亞 爾 然 丁	伯 刺 西 爾	二六〇圓	亞 爾 然 丁 經 由
伯 刺 西 爾	智 利	五二〇圓	
智 利	米 國 市 俄 古 以 西	七二〇圓	
智 利	日 本	一、一〇〇圓	
チ エ ツ コ	獨 逸	九〇圓	
チ エ ツ コ	奧 太 利	六五圓	
チ エ ツ コ	瑞 西	一三五圓	奧 太 利
チ エ ツ コ	洪 牙 利	九〇圓	
波 蘭	露 西 亞	一二〇圓	

【文會例】

●在外研究員移轉旅費定額ノ件(其ノ四)

○文部次官裁定 昭和三年九月二十四日

區	間	移轉旅費	經路
伯 刺 西 爾	亞 爾 然 丁	一一〇圓	
亞 爾 然 丁	智 利	二九〇	
智 利	米 國 西 部	六八〇	
智 利	墨 西 哥	六六〇	
墨 西 哥	米 國 東 部	二四〇	
墨 西 哥	米 國 西 部	二二〇	

●在外研究員移轉旅費定額ノ件(其ノ五)

○文部次官裁定 昭和四年十月二十三日

區	間	移轉旅費	經路
芬 蘭	露 西 亞	五〇圓	

芬蘭	芬蘭	芬蘭	芬蘭
蘭諾威	丁抹	瑞典	英吉利
一四〇	一三〇	六〇	二九〇

●在外研究員移轉旅費定額ノ件(其ノ六)

○文部次官裁定 昭和六年五月一日

區	間	移轉旅費	經路
セルビヤ	ギリシヤ	九五圓	
ハンガリー	セルビヤ	九五圓	
ハンガリー	ルーマニヤ	九〇圓	
ハンガリー	ブルガリヤ	一一〇圓	
ルーマニヤ	セルビヤ	一〇〇圓	
セルビヤ	ブルガリヤ	六五圓	
ブルガリヤ	ルーマニヤ	七五圓	

●在外研究員支度料減額ノ件(其ノ一)

○文部次官裁定發會三百七十三號 昭和五年七月二十三日
在外研究員支度料ハ從來歐米各國渡航ニハ五百圓、支那國ハ三百六拾圓支給ノ處歐米各國ハ四百圓、支那國ハ二百圓ニ減額シ可然哉

●在外研究員支度料減額ノ件(其ノ二)

○文部次官裁定發會二百一十一號 昭和十四年五月二十九日
在外研究員規程第八條ニ依ル支度料ハ從來歐米各國渡航ニハ四百圓支給シタル處豫算經理上ノ都合ニ依リ爾今三百六十圓ニ減額相成可然哉
備考 本決定ハ昭和十四年六月一日以降ノ分ニ施行ス

●在外研究員ノ家族手當減額支給ノ件

○文部大臣裁定 大正十三年三月三日
從來本省在外研究員ノ家族手當ハ在官ノ者ニ在リテハ出發前ノ俸給百分ノ三十五以内ヲ本省ヨリ支給セラレシカ經費ノ都合モ有之ニ付百分ノ二十五以内ニ改定支給相成可然哉

●在外研究員家族手當支給率改定ニ關スル件

○文部大臣裁定 昭和六年六月二日
從來本省在外研究員ニシテ在官者ニハ俸給(本俸及職務俸)年額百分ノ二十

〔文會例〕

五以内、非在官者(無官又ハ他校教官候補者)ニハ俸給(推定俸給又ハ本俸及職務俸)年額百分ノ六十五以内ニ相當スル家族手當年額ヲ支給相成タル處今同本省經費ノ都合ニ依リ昭和六年度以後ノ派遣者ニ對シテハ在官者ニハ俸給(本俸及職務俸)年額百分ノ十以内ニ相當スル家族手當年額ヲ支給相成コトニ改定致シタルニ付御了知相成度
備考

昭和六年四月一日ヨリ施行
但昭和五年度以前ノ派遣者ニハ之ヲ適用セス

●在外研究員給與實際支給標準ニ關スル件

○會計課長回答學會十九號 昭和十三年九月十日
客月二十六日電報ニテ御照會相成候當省在外研究員ニ對スル給與支給標準左記ノ通ニ付此段及回答候也

- 一 學費 年額四千三百二十圓
但支那及西比利亞ハ年額三千圓
- 二 巡歷手當 理科ハ在留期間ヲ通シテ八百圓以内
文科ハ在留期間ヲ通シテ六百圓以内
- 三 特別手當 支給標準ナシ
- 四 家族手當 俸給年額ノ百分ノ六十五以内

備考
學費ニ對シテハ昭和七年勅令第九十號ニヨリ爲替相場ノ變動ニ基キ臨時増給ヲ支給ス、増給率ハ大藏省主計局長通牒増給割合調査ノ在勤俸増給

〔文會例〕

率ニヨル
○京城帝國大學總長照會 昭和十三年八月二十六日
貴省所管在外研究員ニ對スル學費、轉學巡歷手當、家族手當、特別手當實際支給標準折返シ御教示ヲ乞フ

●家族手當支給内規要領

○昭和十四年六月現在

- 一 支給標準
出發前收入ノ百分ノ六十五(學校ヨリノ俸給ヲ加ヘテ)ヲ家族ニ與フルヲ原則トス
1 直轄學校現職中ノモノニハ任命當時俸給ノ百分ノ二十五以内ヲ給シ學校ヨリ在外中俸給トシテ百分ノ四十ヲ支給セシム
學校ヨリ給セサルコトアリトモ本省ハ百分ノ三十五ヲ越エテ支給セズ
但シ學校ヨリ百分ノ三十以上ヲ給スル場合ニハ本省ハ百分ノ六十五ニ對スル差額ノミヲ給ス
2 他ノ學校ノ候補者ニハ本省ヨリ百分ノ六十五ヲ給ス
3 現職ヲ有セサルモノニ對シテハ別ニ定ムルトコロニヨリ任命當時ノ俸給ヲ推定ス
4 家族無キモノ及資産アルモノニハ之ヲ支給セス
5 特別ノ事情アル場合ニハ増減支給スルコトヲ得
- 二 支給期間
1 出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄トス
出發、歸朝地ハ官職アルモノハ其ノ任地、官職ナキモノハ本邦港ト

- 2 私費滞在ヲ許可サレタル時ハ滿期ノ日ヨリ尙三ヶ月間家族手當ヲ支給ス
- 3 滿期後三ヶ月ヲ越エテ尙歸朝セサルモノニ對シテノ家族手當ハ三ヶ月ニテ打切り歸朝後詮議セラルルコト
- 4 歸朝ノ途次巡歴ヲ許可スル時ハ家族手當支給ノ終了日ヲ定メテ發表セラルルコト

三 支拂方法

- 1 年額ヲ月割、日割法ニ從ヒテ毎月分割支給ノコト
- 2 受取人ハ本人ノ家族中本人ノ届出タルモノ
- 3 官職アルモノハ其ノ在職學校ヨリ支拂フ(本省豫算係ヨリ委任)
- 4 官職ナキモノハ本省出納係ヨリ家族ニ直接支拂フ
- 5 家族全部在外中ノモノニハ在官ノモノニアリテハ其ノ學校ヨリ無官ノモノニアリテハ本省ヨリ其ノ住所ニ送付スルコト
- 6 在官ノモノト雖本人ノ希望ニヨリ本省ヨリ直接家族ニ支拂フコトアリ

四 支給額ノ變更

- 1 任命後出發前ニ俸給額ニ變動アリタル時ハ改定ス
- 2 出發後ノ俸給ノ變動ニ對シテハ其ノ年度内ハ家族手當ヲ改定セサルヲ原則トス
- 3 無官ノモノ又ハ他校ノ候補者ニシテ在外中任官又ハ轉任シタルモノハ同時ニ家族手當ヲ改定ス
- 4 前項中轉任ノ場合ニ於テハ滿期前二ヶ月以内ノモノハ改定セス

〔文會例〕

●在外研究員ニ關スル注意一般

○昭和十四年六月現在

第一款 注意事項

文部省在外研究員ハ文部大臣之ヲ任命派遣スルモノニシテ指定在留期間其ノ研究科目ニツキ研究スルモノトス

(參照) 在外研究員規程第一條、第二條及第三條

第一項 任命ヨリ出發迄

一、誓書及出發豫定届

任命後直ニ「誓書」(施行細則第一號書式)及「出發豫定届」(施行細則第二號書式)ヲ直接本省ニ提出スヘシ。出發豫定届ハ渡航旅費支給ノ都合上某洋經由又ハ西比利亞經由ヲ明記スヘシ。豫定月日ハ其ノ派遣年度内(自四月三月)タルヘシ。

出發豫定届ヲ以テ定額ノ支度料及渡航旅費ヲ合算シテ所屬學校氣付又ハ本人指定ノ場所ニ送金ス

送金迄出發豫定届受理後一週間以上ヲ要ス

渡航旅費受領後渡航地變更ノ場合ニハ本邦出發前速ニ出發豫定變更届ヲ本省ニ提出スヘシ

(參照) 在外研究員規程第八條、同規程施行細則第二條及附則別表(一)

二、出發届

出發時期確定セハ所屬學校長經由「出發届」(施行細則第二號書式)ヲ本省ニ提出スヘシ。出發届ニハ官職アル者ハ官職名ヲ記入スヘシ。出發時期ハ必ス其ノ派遣年度内(自四月三月)トス。便船ノ都合ニ依リ出發時期力若干派遣年度ヲ經過スルトキハ必ス本届出前其ノ旨本

〔文會例〕

省宛申出ツヘシ
出發期日ハ之ヲ官報ニ登載シ、家族手當支給ノ起準トナリ又在職者ニアリテハ此ノ日ヨリ定員外トナル

三、家族手當

本省在外研究員ニシテ家族扶養ノ義務アル者ニ限リ家族手當ヲ支給ス。家族手當ハ在職者ニアリテハ其ノ俸給年額百分ノ二十五以内、非在職者ニアリテハ推定給ノ百分ノ六十五以内及在職者ニシテ歸朝後他校ノ教官候補者タルモノニ對シテハ百分ノ六十五以内ヲ支給ス。家族手當ハ在職者ニアリテハ出發届記載ノ任地出發ノ日ヨリ歸任ノ日迄非在職者ニアリテハ本邦港灣解纜ノ日ヨリ本邦港灣歸着ノ日迄一定年額ヲ日割月割ノ計算法ニ依リ支給ス

學校又ハ其ノ他ニ所屬スルモノニアリテハ其ノ所屬ノ支出官ヨリ、所屬ナキモノニアリテハ直接本省ヨリ毎月下旬委任狀記載ノ代理人ニ支給ス、從ツテ本邦出發前ニ其ノ受領者ヲ定メ所屬支出官宛委任狀ヲ提出スヘシ

(參照) 在外研究員規程第十三條

四、入替延期中ノ者ハ出發前其ノ旨本省ニ届出ツヘシ

五、米國へ最初入國スル者ハ十二指腸蟲ノ診斷書ヲ要スルヲ以テ便宜開業醫ノ診斷書ヲ持參スヘシ

六、外國旅券(公用)

(イ) 任命後渡航順路決定セハ可成早ク外國旅券下附ノ請求ヲナス

(ロ) 旅券ハ本人ヨリ請求ノ「旅券交附請求書」ニ依リ本省ヨリ外務省ニ請求シ之ヲ交附ス。旅券交附ヲ受ケントスル者ハ左記様式ニ依リ寫眞三葉(臺紙ナキ手札形)ヲ添ヘ本省ニ請求スヘシ

旅券交附請求書

左記要領ニ依リ外國旅券交附方御取計相煩度
年月日

文部省在外研究員 氏 名

一、官 職

二、(學位)氏名 (姓ト名トノローマ字綴(各自慣用ノフルネー)有爵者又ハ學位ヲ有スルモノハ氏名ノ頭ニ

附ス)

三、研究科目

四、在留國

五、經由國名

六、年 齡(何年何月何日生)

七、身 長(米法)

八、特 徵(容貌上特種ノ點一ツ)

九、出發期日

一〇、旅券送附先

(ハ) 旅券面記載事項ノ改定、追加記入ハ別紙外務省ヨリ通牒ノ通り支障多キヲ以テ請求前充分考慮決定ノ上請求セラレタシ。旅券ハ請求書ニ依リ本省ニ於テ起案シ外務省ヨリ交附ヲ受クル迄相當時日ヲ要スルヲ以テ可成出發期日前少クトモ三週間以前ニ請求ス

(ニ) 旅券有効期間ハ(本邦出發前)六月間ナリ、故ニ本邦出發カ旅券交付後六月ヲ超ユルトキハ無效ニツキ返納再度交付ヲ受クヘシ

(ホ) 旅券ハ本邦駐在在留國及經由國ノ大公使又ハ領事ノ査證ヲ要スル國アルヲ以テ、旅券受領後各自當該公館へ出頭査證ヲ受クヘシ。査證ニハ料金を要スル國アリ。又査證ノ有効期間ハ國ニ依リテ異ナル此等詳細ナル事情ハ別紙外務省通商局發行外國渡航手續案内抄録ニヨリ承知セラルヘシ

(ハ) 査證ヲ要セサル國

和蘭本國及植民地、白耳義、瑞西、佛蘭西本國及佛領アルゼリ、西班牙本國及植民地(但シ「モロッコ」ヲ除ク)、伊太利本國、獨逸、瑞典、諾威、丁抹、芬蘭、奧地利、致須古、洪牙利、リヒテンスタイン及香港。

七、乗船賃割引

本省在外研究員ニ對シ日本郵船會社ハ本邦歐米間一、二等乗船賃ノ一割五分ノ割引ヲナス。此ノ割引ヲ受ケントスルトキハ右會社本店、支店又ハ代理店ニ本省ヨリ交付セル「文部省在外研究員證明書」及旅券ノ呈示ヲ要ス

右證明書ハ旅券ト同時ニ二枚本省ヨリ交付ス。内一枚ハ歸國ノ分ナリ。

八、履歷書與書

獨逸ニ於テ大學ニ入學シ又ハ研究所ニ入ラントスルモノハ獨逸「履歷書」ヲ持參スルヲ便トス。希望ノ者ハ若干通ヲ本省保員宛送附シ其ノ與書ヲ求ムヘシ

〔文會例〕

第二項 渡航地到着ヨリ最終在留地退去迄

一、在留地到着届、在留期間及學費

(イ) 在留地到着届
本邦出發最初ノ在留地ニ到着シタルトキハ直ニ在留地到着届(施行細則第三號書式)ヲ本省所屬學校長及當該國駐在帝國大使館公使館又ハ最寄地地方駐在帝國領事館ニ提出スヘシ。本省宛ノ到着届ニハ郵便宛先及學費送金先ヲ明記スヘシ

(參照) 在外研究員規程施行細則第五條

(ロ) 在留期間

在留期間ハ出發届記載ノ在留地到着ノ翌日ヨリ起算シ指定在留期間ヲ以テ終ル

(ハ) 學費

在留期間中年額四千三百二十圓ヲ日割及月割ノ計算法ニヨリ支給ス

但シ支那ニアリテハ年額三千圓トス

二、在留國追加、在留國間退去及到着

(イ) 在留國追加

研究ノ必要上在留國ノ追加希望者ハ「在留國追加願」(施行細則第七號書式)ヲ所屬學校長經由本省ニ提出スヘシ、本省ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルトキハ許可ス

(參照) 在外研究員規程施行細則第八條

(ロ) 在留國間退去及到着

指定在留國カ二國以上ニ互リ在留國間ヲ移轉スルトキハ其ノ「退

〔文會例〕

去届」到着届」ヲ施行細則第三號及第四號書式ニ依リ其ノ都度遲

滯ナク本省、所屬學校長及當該國駐在帝國大使公使又ハ最寄地地方駐在帝國領事館ニ提出スヘシ

(ハ) 在留國間ノ移轉ニアリテハ先ニ請求セル移轉旅費給與願ノ移轉時期ト照合セサル様注意スヘシ

(ニ) 支那ト其他ノ國トノ移轉ニ於テハ學費金額ニ差違アリ此ノ場合前在留地退去ノ翌日ヨリ其ノ國ニ於ケル學費ヲ支給ス

(參照) 在外研究員規程施行細則第五條、第三號及第四號書式

三、在留期間延期及短縮

研究ノ都合上在留期間延期ヲ希望シ又ハ止ムヲ得サル事由ニヨリ在留期間短縮ヲ必要トスル場合ハ「在留期間延期願」(施行細則第十三號書式)又ハ「在留期間短縮願」(書式ハ在留期間延期願ニ準ス)ヲ所屬學校長經由本省宛提出スヘシ。官費在留期間延期ハ本省ニ於テ特ニ其ノ必要ヲ認ムルトキハ許可スルコトアルモ本省經理ノ都合上至難ナリ。

右願書ハ最終學費送金時期以前ニ出來ル限リ早ク提出スル様特ニ留意スヘシ

四、滿期後私費滞在

官費滿期後引續キ私費滞在研究ノ必要アルモノハ「滿期後私費滞在願」(施行細則第十三號書式ニ準ス)ヲ所屬學校長經由本省宛提出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

右願書ハ官費在留滿期前最終學費及歸朝旅費送金時期前必ス提出スル様注意スヘシ

五、在留期間短縮命令

官費在留期間カ四月滿期ノ者ニ對シテハ歸朝旅費送金ノ都合上本省ニ於テ三月三十日迄「在留期間短縮」ヲ指令スルヲ例トス。短縮期間學費相當額ハ學術研究手當トシテ願書ニ依ラス本省ヨリ之ヲ支給ス

此ノ場合歸朝旅費ハ前年度十月最後ノ學費ト同時ニ送金ス

右短縮期間中ハ歸朝途次私費滞在研究スルモノトス

六、滿期前歸朝

本省在外研究員ハ自己ノ便宜上滿期前歸朝スルコトヲ得サルモ病氣ノ爲研究ニ堪エサルトキハ當該國駐在大使、公使又ハ最寄地地方駐在帝國領事ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添へ歸朝ノ後「滿期前歸朝追認願」(施行細則第九號書式)ヲ本省宛提出追認ヲ受クヘシ

此ノ場合最終在留地出發ノ前日迄學費ヲ支給ス

(參照) 在外研究員規程第九條、同規程施行細則第八號書式

七、移轉旅費給與

指定在留國カ二國以上ニ互ルトキ其ノ在留國間移轉ノ際ハ定額旅費ヲ(施行細則別表二)移轉順路ニ依リ支給ス。移轉旅費ハ願出ニ依リ始メテ支給スルカ故ニ旅費給與願(施行細則第六號書式)ヲ少クトモ移轉ニ先立チ三月以上前ニ直接本省宛提出スヘシ。見積書ヲ要セス。又指令ヲ用ヒス

在留國間ノ移轉旅費請求ハ順路ニ依リ再移轉又ハ缺路ナキ様注意スヘシ。再移轉ノ場合ハ旅費ヲ給セス

(參照) 在外研究員規程第四條

第十六章 在外研究員

八、巡歴手當

學術研究ノ爲各地ヲ巡歴セントスル場合ハ「巡歴手當給與願」(施行細則第七號書式)ニ見積書ヲ添付シ直接本省宛願出ツヘシ巡歴手當支給ノ願書ハ巡歴開始前少クとも三月以上前ニ提出スヘシ
巡歴手當ノ給、不給及支給額ハ不定ニシテ其ノ必要ト本省經理ノ都合ニ依リ決定スルモノトス。巡歴後ノ願出ニ對シテハ會計年度及本省經理ノ都合上支給シ能ハサルコトアリ
右手當ヲ受領シタルモノハ必ス其ノ年度内(自四月)ニ巡歴ヲ始ムヘシ然ラサレバ一應返納ヲ命スルコトアルヲ以テ直ニ爲替手形ノ儘返送スヘシ

(參照) 在外研究員規程第四條、第五條、第七條及第十一條、同規程施行細則第六條

九、學術研究手當

本省在外研究員ニシテ本省ヨリ國際的學會列席ヲ命セラレ又ハ學術研究上特ニ多額ノ費用ヲ要スルトキ或ハ不慮ノ事變、災害ニ遇ヒタルトキハ特ニ手當ヲ給スルコトアルヘシ。其ノ給、不給及支給額ハ不定ニシテ其ノ必要ト本省經理ノ都合ニ依リ決定スルモノトス。學會列席ニ於テハ特ニ本人ヨリ手當支給ノ願書ヲ要セス。但シ個人ノ資格ニ於テ學會ニ任意列席スル場合ハ概ネ手當ヲ支給セス。學術研究上特ニ多額ノ費用ヲ要スル場合又ハ不慮ノ事變若クハ災害ニ遇ヒタルトキハ施行細則第五號書式ニ依リ見積書添付「學術研究手當支給願」ヲ直接本省宛提出スヘシ

(參照) 在外研究員規程第四條、同規程施行細則第七條及第十五條
一〇、申報書及報告書

(一) 申報書

本省在外研究員ハ毎年四月及十月ノ二回其ノ研究事項ニ關スル「申報書」(施行細則第十號書式)ヲ直接本省宛提出スヘシ

(參照) 在外研究員規程施行細則第十條

(二) 報告書

本省在外研究員ハ在外中適當ノ時期ニ申報書ノ外報告書ヲ直接本省宛提出セラレタシ

報告書ハ各自ノ研究科目ハ勿論其ノ他巡歴旅行記、見聞、感想、社會記事又ハ教育ニ關スル事項等其ノ範圍ニ制限ナシ

報告書ハ從來之ヲ省内各關係者ニソレソレ供閱ニ附シタルモ其ノ報告書ノ性質又ハ本人ノ希望ニ依リ本省在外研究員注意書、文部時報、新聞、雜誌等ニ掲載ス。故ニ掲載契約又ハ希望ノモノアラハ其ノ名目ヲ記入セラレヘク又個人宛送附希望者ハ何某宛送附サレタキ旨明カニセラレタシ

在外研究員ハ嚴選ニ依リ文部大臣之ヲ任命派遣セルモノニシテ其ノ研究事項ニツキ研鑽意ヲサレハ何人モ認ムル所ナルモ事情ニ通セサルモノニシテ兎角風評ヲナスモノ間々アリ。前述ノ通り報告書ハ其ノ性質又ハ本人ノ希望ニ依リ本省内外供閱ニ附スルノミナラス後來派遣本省在外研究員ノ爲又廣ク發表スルモノニシテ各自適シテ價值アリ有益ナル記事ヲ可成ク多ク報告セラレタシ

第三項 免

一、出發前罷免

本省在外研究員ニシテ任命後出發前ニアリテ病氣其ノ他ノ事由ニ依

〔文會例〕

〔文會例〕

(參照) 在外研究員規程第四條別表(一)

四、歸朝届

歸朝ノ際ハ七日以内ニ歸朝届(施行細則第十六號書式)ヲ所屬學校長經由本省ニ提出スヘシ

官職アルモノハ官職名ヲ記入スベシ

在職者ノ歸朝届記載ノ歸朝期日ハ任地歸著ノ日トス、非在職者ハ本邦港灣到着ノ日ヲ記入スヘシ

歸朝届ハ官職ニ記載シ、在外中家族手當ノ停止本俸復舊等ノ準據トナルカ故ニ特ニ注意スヘシ

(參照) 在外研究員規程施行細則第十四條

五、在外研究員規程施行細則第十四條

歸朝ノ際ハ七日以内ニ「在外研究員規程施行細則第十七號書式」ヲ直接本省宛提出スヘシ

右届書ニ依リ在留中ノ學費、旅費及手當ノ精算ヲナシ修學狀況ヲ知ルヲ以テ記載事項ヲ明確ニスヘシ

六、在留期間延期追認

便船其ノ他止ムヲ得サル事由ニ依リ最後ノ在留地退去カ若干後レタルトキハ當該國駐在帝國大使、公使又ハ最寄地方駐在帝國領事ノ證明書添付歸朝後本省宛「在留期間延期追認願」(施行細則第十三號書式)ヲ提出スルコトヲ得

七、歸朝後ノ義務

本省在外研究員ハ歸朝ノ翌日ヨリ在留期間ノ二倍ニ相當スル期間文部大臣ノ指定シタル職務ニ從事スルノ義務ヲ負フ。歸朝ヲナサシメ

リ免除スルコトアルヘシ。在外研究員ヲ免除サレタル者ニシテ既ニ領收セル支度料及渡航旅費アルトキハ其ノ返納ヲ命ス
二、在留中罷免
本省在外研究員ニシテ在外研究員規程施行細則第十四條ノ目途ナキトキハ免除スルコトアルヘシ。
在外研究員在外中免除サレタルモノニ對シテハ支給金額ノ返納ヲ命ス
(參照) 在外研究員規程第十五條
第四項 免
一、歸朝時期
本省在外研究員ハ在留期間満期日ノ翌日在留地出發歸朝スヘシ
(參照) 在外研究員規程施行細則第十四條
二、最終在留地退去届
最終在留地ヲ退去歸朝ノ途ニ就クトキハ在留地退去届(施行細則第十四號書式)ヲ本省、所屬學校長及當該國駐在帝國大使館公使館又ハ最寄地方駐在帝國領事館ニ提出スヘシ
(參照) 在外研究員規程施行細則第五條
三、歸朝旅費
歸朝旅費ハ其ノ額渡航費ニ同シク、最終在留地ヨリ本邦迄ノ旅費ニシテ請求ヲ俟ツコトナク最終學費ト同時ニ送金スルヲ例トス。私費滞在等ニ依リ在留期間ニ變更アルトキハ變更サレタル満期日ノ年度ニ支給ス故ニ既ニ歸朝旅費支給ノ後ニ在留期間ニ變更アルトキハ一應其ノ返納ヲ命スルコトアルヲ以テ直ニ爲替手形ノ儘返送スヘシ

第十六章 在外研究員

第十六章 在外研究員

スシテ其ノ他外國ニ在勤ヲ命シタル場合ニ於テハ義務年限ハ在勤ヲ命シタル日ヨリ之ヲ起算ス
服務義務ヲ履行セサル者ニ對シテハ支給金額ヲ償還セシムルコトアルヘシ

(參照) 在外研究員規程第十四條、第十五條及第十六條
第五項 其ノ他ノ注意事項

一、特別送附先記載文書ノ外本省宛提出スヘシトアル届書、願書其ノ他ノ文書ハ凡テ本省専門事務局係宛送附スヘシ

二、本省ニ送附スヘキ届書、願書、其ノ他ノ文書ニハ各自ノ氏名(ロ一マ字綴併記)郵便宛先、會計ニ關スルモノハ送金宛先ヲ明記スヘシ

三、本省ニ送附スヘキ文書ハ親展書ニ非サレハ受付ニテ開封スルコトアルヲ以テ封筒紛失ノ虞アリ

本注意書記載事項ニシテ事實ト相違スル點ハ勿論ノコト希望ノ事項アル場合ハ參考ノ爲遠慮ナク係員宛注意セラレタシ

第二款 一般送金上ノ注意

一、學費

學費ハ毎年三回ニ分チ左記區分ニ依リ支給スルモノニシテ最初ノ學費ハ到着届ノ提出ヲ俟ツテ別途送金ス

第一回 自四月至九月 (六ヶ月分)

第二回 自十月至十二月(三ヶ月分)

四月上旬 電信爲替送金

〔文會例〕

第三回 自翌年一月至三月(三ヶ月分)
七月中旬 普通爲替送金
十月中旬 同

◎注意 特ニ至急ヲ要スルトキハ第二回、第三回ト雖モ電信送金ス右送金時期ハ係員ノ手元ヲ發スルノ意ニシテ其後ノ手續ノ爲メ約十日間内外ヲ經テ内地ヲ發シ甲乙ニ遅速ナク一齊ニ到達スヘケレハ自己ノ分ノミ尙未著ノトキハ至急問合せヘシ

學費ハ學費送附先届(施行細則第十五號書式)ノ提出ヲ要ス。遲滞ナク、變更ノ有無ニ拘ラス其ノ都度必ス左記期限迄ニ到着スルヤウ相當郵送日數ヲ見計ヒ届出ツヘシ

第一回 四月送金ノ分 二月中旬迄ニ到着スルヤウ
第二回 七月送金ノ分 六月中旬迄ニ到着スルヤウ
第三回 十月送金ノ分 九月中旬迄ニ到着スルヤウ

◎注意 電信送金ハ必ス在外公館又ハ横濱正金銀行支店ヲ指定スヘシ

送附先届ハ提出時期ヲ嚴守シ一旦届出タル送金先ハ妄リニ變更スヘカラス。若シ止ムヲ得ス變更スル場合ハ郵送日數ニ留意スヘシ

前記期限迄ニ本省へ配達ナキトキハ舊送金先ニ送附スルカ或ハ送金ヲ差控ユルコトアルヘシ

(參照) 在外研究員規程第四條、第六條、同規程施行細則第十一條、第十六條

二、送金姓名羅馬字届

〔文會例〕

届出タル送金先ト絶エス連絡ヲ計ルヘシ

在留地ヲ移轉スルトキ或ハ送金先ヲ變更シタルトキハ從來指定セル送金先ニ對シ、新ニ指定シタル送金先ヲ告ケ置キ移轉後一切ノ郵便物ヲ轉送又ハ留置方確定シ然ル後移動スヘシ又巡歴、旅行等ノ場合假令短時日ナリト雖モ忽セニセス、不在中ノ郵便物ヲ保留スルヤウ注意ヲ要ス

一旦送附シタル爲替手形力受取人不明其ノ理由ニヨリ配達不能ノ爲メ返戻サレタル場合ハ前後約三ヶ月延著スルモノト知ルヘシ

五、受領上ノ注意

(イ) 送金ノ都度日本銀行ヨリ金額、換算額、相場額等ヲ記載シタル紙ハガキ用紙ヲ差挾ミ送附スヘキニ付(電信送金ノトキハ後便)金額對照ノ上相違ナキトキハ直チニ署名シ日本銀行本店ニ提出スヘシ

之レヲ以テ中央金庫ニ對スル正式領收書トナルカ故ニ、毎回必ス其ノ都度確實ニ嚴守スヘシ

本省宛領收書ハ別ニ定ムル書式ナケレハ唯郵便ノ次テヲ以テ通知スレハ足レリ

(ロ) 送金ノ際羅馬字綴ノ爲メ(殊ニ電信爲替ニ於テハ電信ノ誤リヲ生シ易シ)拂受ニ支障ヲ來タスコトアリ。斯ル場合ハ最寄本邦駐在公館ニ於テ證明ヲ受ケ仕拂銀行ニテ受取ルヘシ
往々ニシテ送金爲替手形ノ途中紛失スルコトアリ。此ノトキハ直チニ副券發行ノ上送附スヘキニ付、送金通知書受領後尙ホ著カサル場合ハ至急其ノ旨届出ツヘシ

本邦出發前ニ必ス送金ニ用フル自己ノ姓名羅馬字綴ヲ届出ツヘシ略名ヲ用ヒス姓ト名ノフル・ネームタルヘシ。此ノ綴ヲ以テ送金爲替手形ニ記入ス

三、送金方法

(イ) 凡テ研究員ニ對スル給與金ハ本省ノ請求ニヨリ日本銀行本店ヨリ其ノ日ノ相場ニ換算シタル横濱正金銀行振出ノ左記外國爲替手形ヲ以テ送金ス

歐洲各國ハ全部英貨(磅)

米國方面ハ全部米貨(弗)

支那ニアリテハ邦貨(圓)

(ロ) 送金ハ凡テ本人希望ノ所ニ送附スレトモ成ル可ク當該國駐在帝國公館ヲ利用スヘシ。殊ニ帝國公館所在都市ニ在留スルモノハ右公館ヲ利用スルモノトス。特別ノ場所ヲ指定スルトキハ手續上繁雜ノミナラス比較的事務ヲ生シ易シ、若シ止ムヲ得ス宿所其ノ他ヲ指定スルトキハ特ニ原語ヲ明瞭ニ記載スヘシ。例ヘハastoria、ottawa、montreal等ノ如キ判讀ニ迷フコトアリ

(ハ) 電信送金ハ當該國駐在公館又ハ横濱正金銀行支店以外ノ場所ハ爲替銀行ニ於テ取組マサルヲ以テ不可能ナリ

第一回學費ハ請求ヲ要セス電信送金スレドモ其ノ他ノ送金ニ於テ電信送金ヲ要スル場合ハ特ニ其ノ旨届出ヲ要ス

(ニ) 支給金ヲ送附シタルトキハ其ノ都度送金ノ内容ヲはがきヲ以テ通知ス

四、送金先トノ連絡

第十六章 在外研究員

六、支給金代人渡

支給金受取ニ付キ代理人ニ委任スルトキハ左ノ書式ニヨル委任狀又ハ委任届ヲ提出スヘシ。出發前ニアリテハ委任狀(二錢印紙貼付)、在外中ニアリテハ委任届ヲ本省會計課長宛提出スヘシ。(但シ家族手當ニアリテハ所屬支出官宛委任狀提出ノコト)

委任 狀(又ハ届)

担当者

今般都合ニヨリ左記ノ者ヲ部理代人ト相定メ何々ノ受領方ニ關スル一切ノ権限ヲ委任シマシタカラ御届シマス

受任者 宿所氏名

年月日

文部省在外研究員

何

某印

文部大臣官房會計課長宛

七、在外研究員ニ係ル支給金ハ必ス在外中ニ支給ヲ受クヘシ。願出ラ俟ツテ始メテ支給スルモノハ勿論、當然支給スルモノト雖モ歸朝後ニアリテハ會計年度ノ關係上支給シ能ハサルニ至ルヘキコトアレハ特ニ注意スヘシ

第十七章

國庫負擔、補助